

備考。これ即ち腺病の名ある所以である。

一、又指趾骨に肥厚性變化を來すものもある。

一、頑固なる鼻加答兒の爲に上唇が肥厚し、定型的腺病性顔貌を呈するものもある。

一、特に下痢し易い。

(C) 経過。慢性。

(D) 豫後。良。(鍼術又は灸術によりて、必ず體質は改善される)

(E) 養生法。適度の運動、日光、其他他生活環境の改善。(備考、藥物療法はない)

(F) 療法。鍼灸法。小兒鍼。

灸治法。大椎、大杼、又は身柱に、小灸三壯乃至五壯を運用する。

### 平 衡 失 調 症

(A) 原因。普通は人工榮養兒の含水炭素不足の場合に來る。

備考。無智(乳兒榮養上の無知識)なる牛乳榮養法による場合である。

(B) 症 狀。體重増加の緩慢、發育不良、便秘、或ひは石鹼便、一般抵抗力の減弱等。

(C) 療 法。小兒鍼を應用すると同時に牛乳中に水飴、或ひはマルツ汁エキスを加ふるとよい。

備考。又小兒鍼を毎日施行して、滋養糖、コレクト、水飴の中の何れかを混じて榮養すると成績甚だ良好である。

### 食 餌 性 貧 血

(A) 原因。人工榮養、(特に乳粉の如き)、離乳遅延、ビタミンの缺乏等。

(B) 症 狀。皮膚蒼白、筋肉弛緩等。

(C) 療 法。榮養改善して。

鍼灸法。全身の要穴に小兒皮膚鍼を施す。

灸治法。身柱に小灸三壯乃至五壯する。

### 呼吸性激情性痙攣

#### (一名憤怒痙攣)

(A) 原因。神経素質の二歳乃至五歳位の幼兒に屢々來るものである。

(B) 症 狀。感情の激する時、激怒性興奮の極に達して、瞬間性呼吸休止、眼球上竄、顔面蒼白、チアノーゼを呈す。

(C) 療 法。鍼は風池、天柱、完骨、大椎、身柱、手三里、合谷等の要穴に一分乃至三分する。

灸治法。天柱、大椎、身柱に小灸三壯する。

### 小兒急癇(即ち漢名驚風)の原因症狀治療法

(A) 原因。發熱、消化不良、胃腸違和、感冒、寄生蟲、齒牙發生期、其他神經刺激等。

幼兒は大脳皮質内の反射制止機が完全に發育してゐないからだと考へられてゐる。

(B) 症 候。癇癇發作に稍々似てゐて、牙關緊急、齟齬、眼球上視、全身に痙攣を發するが數分位で鎮靜する。

一日數回反覆する事もある。(但し後害をのこすものではない)

(C)治療法。所謂小兒皮膚鍼で鍼癰を計る。神庭、百會、懸顛、懸釐、完骨、天柱、風池、大椎、身柱、肝、膽、脾、胃、三焦、懸樞、鳩尾、巨闕、上腕、中腕、下腕、天樞、手の三里、二間、三間、中渚、商陽、關衝、足の三里、上巨虛、下巨虛、三陰交、絕骨、行間等に接觸的淺刺鍼(所謂小兒鍼)を施す。

備考一。豫後良、鍼灸の最適症である。

備考二。普通幼兒には、鍼の深さは僅かに真皮に達する程度でよい。

灸療は、大椎、身柱に、小灸を年齢の数だけ炷へる。

異 嗜 症

(A)原因。神經素質、小兒ヒステリ、稀には蛔蟲等。

(B)症狀。即ち味神經の異常で、土、壁、砂、木炭、白墨、生米、煙草等の食品でないものを好んで食ふ者である。

(C)療法。鍼灸法。大椎、身柱、合谷に強單刺術を行ふ。  
灸治法。大椎、又は身柱に小灸五壯する。

小兒の夜啼に對する鍼療法 (昭七年四月福岡)

夜驚症(一名睡怖)の原因の症狀療法 (昭六年三月山梨)

(A)原因。滿一歳乃至小學校に入學するまでの幼兒幼童に多い。

神經質、腺病質、貧血兒、薄弱兒によく發生するもので、神經の刺戟、違和、飽食、怪異の玩具、圖繪等

が其の動機となる。恐らくは、

硬腦膜の血壓が上昇するものでないかと考へられてゐる。

(B)症狀。夜間遽然睡眠から醒めて、恐怖状態を呈するものであつて、突然大聲を放つて泣く、又母や乳母に抱き付

いたりする、そして數分、十數分で鎮靜して安眠する、一夜中さういふ事を何度も繰り返す事もある。

(C)治療法。前項と同じ經穴に、淺き單刺術を企て、反射的に鎮靜せしめ、刺鍼刺戟によつて一般細胞の活動性を充め

植物性神經系統の機能を調節するもので、必ず偉效を奏す。

灸治法。又前項に同じ。

備考。所謂狹義の「むし」である。人によると脾疳の虫、又夜啼症ともいふ。

消化不良症の原因症狀治療法

(A)原因。不良の乳汁、過れる人工榮養、榮養の不適當、過飲等によるものと。

腸管外傳染(例へば氣管枝炎、流行性感冒、中耳炎、等の場合)等。

(B)症狀。嘔吐、下痢、青便、疝痛、發熱等あつて、酸臭又は惡臭ある不消化便を排泄する。

(不消化便は下痢様便で粘液や豆腐粕の様な白色塊、又は血液を混じり腐敗性惡臭、酸臭等がある)。

體重増加は停止し或は萎縮を伴ふ。

(C)療法。出来るならば、六時間乃至二十四時間絶食せしめて、消化器の休養を計り、授乳、食餌の間隔を四時間

位とし、夜間睡眠中は食餌を與へぬ様にして充分榮養の成分、分量に注意し、小兒鍼を施すものである。

小兒鍼は特に身柱、膈、肝、膽、脾、胃、三焦、巨闕、上腕、中腕、下腕、商曲、盲俞、天樞、風池、肩

中、肩外、大椎等及び四肢の要穴に淺刺鍼を忘れぬようにせねばならぬ。

灸治法。身柱に小灸三壯、三焦に三壯する。  
備考。幼齡兒或は重症の者は豫後不良の事がある。

### 乳兒脚氣の原因症狀治療法

- (A)原因。生母、乳母等の脚氣乳汁から来る。
- (B)症狀。吐乳、青便、便秘、浮腫、聲音嘶啞等。重症は痙攣を反覆して、豫後不良となるものがある。
- (C)療法。症狀を熟慮した上で、醫師の指導をうけて榮養し、前項に準じて小兒皮膚鍼を施す。

### 小兒急性腸加答兒(腸炎)

- (A)原因。食物の腐敗、過食、傳染等。
- (B)症狀。腹痛、下痢、嘔吐、發熱三十八九度或はそれ以上、小腸加答兒の場合には不消化性食物の淺滓があつて粘液が少なく、大腸加答兒の場合は、粘液が多く裏急後重がある。註釋(裏急後重は、しぶりばらの事である)
- (C)療法。出來得るならば二十四時間位絶食せしめ、前腹部、腰、背部の要穴に刺鍼する。  
灸治は小兒斜差の灸を應用してもよい。
- (D)豫後。多くは良、但し急に心臟を侵すものは不良。

備考。斜差の灸。男子は肝俞左一穴。脾俞右一穴。女子なれば肝俞右一穴、脾俞左一穴である。  
小兒胃腸の疾患には、此の灸法を應用してよい。

### 小兒慢性腸加答兒(一名脾疳の蟲)の原因症狀治療法

- (A)原因。急性腸加答兒から續發し、又は原發性に、薄弱兒の不適當なる榮養によつて来る。
- (B)症狀。下痢一日數回或は十數回、惡臭ある流動性下痢便、粘液下痢便を排泄し、腹部膨滿、羸瘦、貧血等が甚し  
い、つまり(脾疳)の蟲である。
- (C)療法。小兒鍼又は小兒斜差の灸(七壯)を施す。  
鍼は、主として足の太陽膀胱經背の第一行(大杼以下)第二行(附分以下)、其の他腹部及四肢の要穴が主治穴である。
- (D)豫後。適當の治療を行へば良である。

### 慢性氣管枝炎

- (A)原因。體質異常、急性よりの續發、感冒等。
- (B)症狀。時々發する熱、咳嗽、皮膚蒼白、榮養障礙、聽診上濕性、乾性の囉音等。
- (C)療法。鍼治法。小兒鍼。

灸治法。大椎、身柱、曲池に小灸三壯乃至七壯する。年長兒には灸、年齢の數丈を柱ゆ。

備考。粘膜の炎症は、加答兒である。

### 小兒腎臟炎

(A)原因。多く幼兒に來る、麻疹、猩紅熱、チフテリア等。

又原因不明の特發性の場合もある。

(B)症狀。蒼白、貧血、頭痛、發熱、食慾不振、浮腫、尿中の蛋白等。

(C)經過と豫後。慢性であるが、治癒するものが多い。

(D)療法、鍼灸法。一般小兒鍼、特に注意して腰部の要穴(三焦、腎俞)に輕き刺鍼を行ふ。

灸治法。命門(小灸三壯乃至五壯)、腎俞(小灸三壯乃至五壯)、足三里に同じく小灸三壯する。

### 所謂腦膜炎の原因治療法(鉛毒性腦膜炎)

(A)原因。生母、乳母が用ゆる白粉の鉛分が、乳汁によつて乳兒に移行し、

中毒するものである。(平井博士)

(B)症狀。痙攣等の状態は薄腦膜炎によく似て居るが、

第一、貧血。第二、暗綠色不消化便の長期排泄。第三、爪甲の褐色變化。等が其の主徴であつて、

經過が長い。治癒し得る。

(C)治療法。斷乳又は乳母を替へて、小兒鍼或は小兒灸を應用し、營養に注意する。

### 結核性腦膜炎の原因症狀治療法

(A)原因。結核菌が腦膜を侵すもので、乳兒には少く、滿一年以後學齡迄の兒童に最も多い。

(B)誘因。中耳炎、麻疹、百日咳、外傷、手術等。

(C)症狀。

(イ)第一期(前驅期)。食慾不振、發熱、不機嫌、頭痛、羸瘦等で、固有の症狀を呈しない。

(ロ)第二期(腦膜刺激期)。知覺過敏となり、徐脈を現し、頭痛、嘔吐、叫喚、意識渾濁、牙關緊急、項部強直

痙攣を反覆する。

(ハ)第三期(麻痺期)。呼吸、脈搏の不正、高度の羸瘦、高熱、常に間代性痙攣を發し、遂に心臟麻痺を以

て死す。

(D)豫後。不良。

(E)療法。鍼灸法。百會、前頂、上星、身柱、天柱、風池、合谷、其他腹部、背部、下肢の要穴に淺く刺鍼する。

灸治法。天柱、風池、身柱、肺俞、合谷、足三里に細小の灸十二壯。

備考。鍼術、灸治共に對症的、慰安的である。

### 漿液性腦膜炎

(A)原因。肺炎、百日咳、胃腸障礙、麻疹、中耳炎等。(註毒性弱き細菌又は毒素の爲と考へられて居る。)

(B)症狀。高熱、重篤なる痙攣發作等。

(C)療法。前項に同じ。但し初學者は小兒科専門醫に譲るがよい。

備考。豫後多くは不良。

### 遺傳性運動失調症

(一名フリドリライヒ氏病)

- (A)原因。多くは遺傳、其他不明。
- (B)病理解剖所見。脊髓萎縮、後索變質、小腦索、クラーク氏索の萎縮等。
- (C)症狀。生後、四年乃至七年位迄の間に發病し、徐々に運動の失調を來すのが特有で、膝蓋腱反射消失、眼球震顫、筋肉拘攣、萎縮、内翻足を來す。
- (D)療法。鍼灸法。小兒鍼。

灸治法、大椎、身柱、命門、手足の三里に小灸三壯乃至五壯する。  
備考。藥物療法には特效薬がない。

### 進行性筋肉萎縮症

- (A)原因。不詳の者が多い。但し、外傷、熱性傳染病、等が原因となる事もある。
  - (B)症狀。徐々に發病するので、いつ發病したか不明の場合が多い。
- 經過。分娩等に續發する事もある。始め筋の機能が減退し、上肢を擧げる時や、歩行に困難を感じるやうになる。背筋や臀筋の衰弱の爲に仆れそうになる。そして筋の衰退は、對側性である。

但し筋の外見は假性肥大の爲、瘦せては居らぬ。

進行性であつて、末期に至ると、殆ど全身麻痺を來して仕舞ふ。

- (C)豫後。灸治によると、比較的豫後がよい。

然らざる時は、結核等を併發して、不良の者がある。

- (D)治 穴。大椎、身柱、肝俞、章門、天樞、手足三里は要穴である。

備考。脊髓空洞症も又よく進行性筋肉萎縮を來す。

### 小 兒 麻 痺

- (A)原因。神經質、遺傳、両親の結核、又は梅毒、酒客、分娩時の異状等。
- (B)誘 因。インフルエンザ、百日咳、麻疹、等。
- (C)症 狀。突然數日の發熱を來し、下熱して後、單癱(一肢、一筋群の麻痺)。偏癱(半身不隨)。或は對癱(兩側麻痺)を遺すのが主症候である。

- (D)豫 後。生命に直接危険はないが治癒困難である。

- (E)治療穴。前項の經穴を應用して治療を經續する。

主症候に對して、對症的に治療する時は、歲月を経ると共に大ひに快方に向ふ。

設問。「單癱」、「偏癱」、「對癱」、とは何ぞや。

### 小兒急性脊髓前角炎

(A)原因。脊髓附近の病變、其他外傷、チフス、肺炎、敗血症、結核等。

主として生後一年乃至學齡迄の兒童を侵す、脊髓灰白質の前角の急性炎症である。

(B)症 狀。俄然高熱を以て初まり、精神朦朧となり、間代性全身筋肉痙攣を來し、昏睡し數日後に多く覺醒するが麻痺を残すものがある。麻痺は偏側に來り筋の萎縮を發し、経過が長引く。時には内翻馬足外翻膝等を來すものである。知覺障礙、膀胱障礙、直腸麻痺はない。萬一それらの麻痺があつても一過性である。

(C)治 療。始めは消炎鎮痙法である、麻痺期には興奮法を行ふべきである。灸術は命門、身柱、足の三里、三陰交等に十壯宛を施すべく、鍼は年齢に應じて一分、二分、三分深さを定め、一般小兒皮膚鍼を應用してよい。

### 百日咳(疫咳)の原因症狀治療法

(A)原因。ボルデー、ジャングー兩氏によつて發見せられた小桿菌である。

其の菌の傳染によるもので、深呼吸をして後急激に發する短呼吸の連続せる咳嗽、神經反射機能の亢進、呼吸中枢の發作的過敏等が主症候である。

(B)症狀と経過。其の経過は之を三期に區別する。

(イ)カタル期。此期には、鼻加答兒や氣管枝加答兒様の症狀を呈する。

普通熱はない。此の期は約一週乃至三週位である。

(ロ)痙 咳 期。此期には、痙攣性の咳嗽に苦しみ事甚敷、苦悶の狀とても座視するに堪えぬものである。

咳嗽發作は一分乃至五分位である。此痙攣咳嗽期は最も期間が長引いて、數週以上に及ぶ。

(ハ)減 退 期。此の期には、痙攣性の咳嗽發作は日々に回数を減じて、日々快方に赴く。

(D)治 穴。天柱、風池、完骨、後頸部の阿是の穴(太祖)、大椎の大凹部、百勞四穴、大椎及び其の直上二寸の處から兩傍一寸の所と、大椎の兩傍一寸四分の處左右合せて四穴)を求め其他、肩背の要穴、即ち肺俞、肝俞、脾俞、

三焦俞、手の三里、合谷、手指末節の各穴、足の三里、行间、厲兌等。

備考。要するに、鍼治療法は一般神經系に對する鎮靜法及び榮養強壯の増進が主眼である。

そして迷走神經の咳嗽中枢の、興奮をも鎮靜するのである。

灸治の場合は大椎に灸七壯身柱に七壯(細小艾)するとよい。

白血球及び免疫物質の増加、溫熱刺激作用等によつて、相當の効果を奏するものである。

百日咳には一般醫療に特效薬のないのは人の知る所であるが、特殊療法としての百日咳感作ワクチン注射も大した効果がない。最新版の東大講師山本博士著『小兒科學』にも此の意味は明記せられてゐる。鍼灸術の應用は合理的療法である。

### 風 疹 (かぜぼろせ)

(A)原因。病原菌不明。

但し、此ものは良性の發疹性傳染病である。

(B)症 狀。潛伏期は普通二週乃至三週で、三十八度前後の輕熱を前驅して後、麻疹又は猩紅熱の發疹に類似して、しかも異りたる圓形豌豆大位の着色せる發疹を來す。

備考。風疹にはコブツク氏斑(麻疹の部を見よ)は現はれぬ。

### バルロー氏病の原因症状治療法

解題。以前モーレー氏は急性佝僂病として報告したもので、又一名を乳兒壞血症ともいふ。

(A)原因。ビタミンCの缺乏による。主として人工養育兒に來る。

(B)症状。皮膚顔面蒼白、著明なる頭部、頸部の發汗、大顛門の膨隆、股關節、膝關節等の腫脹、運動時の疼痛等である。

(C)療法。林檎汁等のビタミンCの含有多き、新鮮な果物をすりつぶして其の汁を與へ。

鍼灸法は、一般神経系を鎮靜せしめ新陳代謝機轉を旺盛にするの目的を以て、

天柱、風池、身柱、胃俞、脾俞、肝俞、大腸俞、懸釐、懸顛、三里等を主治穴として、小兒鍼を施す。

灸治法は、中腕と天樞に、極く小灸三壯を用ゆ。

### 驚風とは何ぞや並びに之が治療法

(A)驚風とは。抽搐、急驚、引付け(即ち痙攣で、四肢が間代性に一弛一急する事)又は生齒困難、驚愕等の爲に來る痙攣をいふ。

(B)鍼灸法。一般鎮痙療法、小兒皮膚鍼を施す。

(C)灸治法。身柱に半米粒大の小灸十五壯、又は小兒斜差(肝俞左一、脾俞右一)の灸を應用する。

### 小兒癩蟲又蟲或は疳とは如何並びに之に對する鍼灸法

(A)癩蟲。神經素質、抽搐、夜驚症、睡眠不良、流涎、胃腸の違和、原因不明の不機嫌、發熱等を總稱するもので、蟲、或は疳も、同じ意味である。

備考。此の場合に於て、眼球稍々青色を呈し、前頭靜脈が青く怒張する場合が多い。

(B)鍼灸法。一般神経系の鎮靜を圖り、新陳代謝機轉を調節するのが主目的である。稍々年長兒には、百會、懸顛等に

鍼半分位の深さ、天柱、風池、完骨、身柱、大椎、肝、膽、胃、三焦、懸樞、等に鍼一分、上腕、中腕、

天樞、章門、前谷、中渚、二間、三間、商陽、三里、上巨虛、三陰交、絶骨、行間等に鍼半分位する。

又幼兒には、以上の要穴に接觸的淺刺を行ふ。

(C)灸治法。大椎及び左右の、大杼、陶道、身柱に各五壯位する。

(D)豫後。鍼灸適應症、良。

備考。皇漢醫學では、癩も癩の一種である。

又脾癩、肺癩、心癩、肝癩、腎癩、等の五臟の癩症を五癩として、區別する事もある。

(文字は、疳と癩同意義に混用せらる)

### 胎毒

定義。胎毒とは、先天微毒の事であつて、母體の微毒の胎内傳染である。

(A) 症狀。主として皮膚、粘膜、骨の病變であつて、汎發性皮膚濕疹、脫毛、全身及び手掌、足趾にまで及ぶ膿胞疹、膿性鼻汁を分泌する鼻加答兒、口内の潰瘍、骨膜炎、軟骨炎等を來す。

(B) 療法。一般醫療の驅癩療法と共に、灸療法を施す。特に身柱に小灸三壯するがよい。  
備考。小兒の疾病は、これ丈でないが、小兒固有の疾病の著明なるものを論述したのである。更らに一步進んで、より以上に及ばんとする人は、鍼灸診断治療學 後篇、小兒科學の部を見よ。

### 第三章 眼科及耳科學之部

#### 初生兒膿漏眼 (一名風眼)

(A) 原因。淋菌の傳染である、主として分娩時產道で傳染する。

(B) 症狀。多くは一眼、時とすると兩眼が一晝夜の間に侵されて、眼瞼、眼結膜、角膜にまで及び、赤發、腫脹、浸潤を呈し、膿汁が分泌し眼瞼は膠着して開かず、強て開くと膿汁が流るゝ様に出る、重症はよく失明する。恐るべき眼病である。(註、大人膿漏眼も即ち風眼である。眼科醫治を可とする)。

(C) 療法。檢定試驗場では禁忌症である。眼科醫治を主とする、鍼灸治療は補助療法の範圍を出で、はならぬ。

備考。豫防法、分娩直後に産婆はクレデー氏點眼法(2%硝酸銀水)を行ふ。但し同氏改良法は2%は刺激強すぎるとなして1%液を使用する。

#### 眼瞼緣炎

(A) 原因。滲出性質、淋巴體質、腺病質等の薄弱兒に發し易く、又眼瞼の不潔、結核、貧血等の場合も侵され易い。

(B) 症狀。潰瘍性眼瞼緣炎(俗にいふ眼チャク)と、鱗屑性眼瞼緣炎とを區別する。

潰瘍性は、睫毛囊の周圍に膿胞を作つて崩壊するものである。

鱗屑性は、痂皮が糠を撒いたようになる。

(C) 治療。鍼灸は、曲差、橫竹、四白、陽白、本神、絲竹空、頭維、頰脈、懸顛、角孫等に單淺刺術、肩背の大椎、身柱、肩外、肩中等に誘導、または反射刺戟を與へる。

灸治は、大椎、身柱、肝俞に小灸(半米粒大)を年の數だけすへる。

#### 淚囊炎

(A) 原因。葡萄狀球菌、連鎖狀球菌、肺炎菌等の化膿菌。

(B) 症狀。鼻根間と内眥の皮膚に限局して、赤發、腫脹(特に皮膚は緊滿して浮腫狀を呈す) 灼熱、疼痛、且つ頭痛を訴へる。

(C) 鍼灸法。晴明、橫竹、曲差、懸顛、懸釐、は鍼一分單刺術、天柱、風池に鍼三分乃至五分雀啄術、合谷に鍼三分單刺術を行ふ。

(D) 灸治法。風池、大椎、肩中、肩外、合谷に米粒大の灸七壯する。

#### 結膜、炎



- (A)原因。眼の過勞、塵芥等の異物、採光不充足等。
- (B)症狀。眼瞼の炎症症狀、即ち眼瞼結膜の軽度の腫起、潮紅、搔痒痛、流淚、羞明等。
- (C)治 穴。前項に同じ。

### 膿 胞 性 結 膜 炎

- (A)原因。腺病質、滲出質等の體質異常及び營養不良等。
- (B)病 狀。結膜に於ける膿胞の形成、その膿胞は下眼瞼、眼瞼縁に數個の透明な小粒が併列してゐるものが多い。自覺症狀は軽度の眼瞼充血と搔痒感とである。
- (C)目的。體質の改善、營養の増進。
- (D)療 法。小兒に對しては、風池、完骨、大椎、天樞、肝俞、合谷、手足の三里を要穴として、皮膚鍼を行ふ。大人に對しては、肩外、肝俞、命門、三焦俞、足の三里に鍼、或は施灸する。

### 角膜實質炎の原因症狀治穴

- (A)原因。多くは先天梅毒、その他結核、腺病、營養不良。
  - (B)症狀。角膜表面の粗糙と、溷濁、遂には乳白色の磨礫子狀となる、羞明、角膜の疼痛、角膜の潰瘍等。
  - (C)治療。前項に準ず、且つ營養強壯療法として大小内臟表に刺戟を傳達すると案外の効果を得る。
- 夜盲症(とりめ)原因症狀治療法

- (A)原因。ビタミンAの缺乏、營養不良、産褥、強烈なる日光等。
- (B)症狀。夕暮から視力が減じて盲人の如くなる、燈火が煌々と輝くと幾分視力が恢復する、眼球に病變はない。
- (C)治療。前項に準ずる、肝油、鰵の肝などを食せしむるとよい。

### トラコーマ(舊名トラホーム)の原因症狀治療法

前提。トラホーム豫防取締規則を國家が制定して、其の傳染を取締つてゐる。眼傳染病である。

- (A)原因。眞因不明。
- (B)症狀。上、下眼瞼の結膜に、極く小さい粟粒のやうな稍々帶黄灰白色の小膿胞を生じ、其の膿胞の摩擦の爲に眼球は赤發、腫脹、溷濁して遂に角膜潰瘍や角膜翳を來し又は失明する事もある。慢性のものは、眼瞼に癬痕を形成し、角膜の疾患を來し易い。
- (C)治 穴。眼瞼縁炎と同じ。

備考。トラホーム(トラコーマ)患者は、治療後でないと、鍼灸醫術に従事する事は法規上許されない。又病毒を傳染するは自他共に迷惑であるから、治療の前後に、特に消毒を嚴重にせねばならぬ。

### 眼科疾患と頭痛との關係

硬腦膜に、三叉神經の細小枝硬腦膜枝(第一枝の分枝)が分佈するが故に、  
 (A)屈折異常眼(亂視)にして眼鏡の不適當、内直筋等の異常、眼性偏頭痛、視神經炎、網膜出血等の爲に、眼性頭

痛が来る。

(B)鍼灸療法。對症的に頭痛を治療す。

原因療法は、各々其の原因に従ふて治療す。

### 主要なる眼科疾患の概念

(1)白内障。水晶體の疾患で、水晶體の潤濁せるものをいふ。

(2)緑内障。患者の瞳孔が、碧く見ゆるから、此の名がある。

一定の眼疾患あつて来るものは、續發性緑内障である。

原因不明のものは、之を原發性緑内障といふ。

(3)亂視。角膜徑線の方向によつて、光線の屈折状態に異常あるものをいふ。

(4)角膜葡萄腫。角膜が崩壊して虹彩が脱出し、癬痕組織を成形して、膨脹突出せるものをいふのである。

備考。(1)、(2)等には肝俞、天樞に灸す。相當の效果を見る事がある。

### 近視眼

(A)原因。遺傳、體質的傾向、採光不充分、細小なる活字等。

(B)療法。灸。角孫、懸顛、上關に三分の米粒大のもの三壯。

鍼。角孫、懸顛、懸釐、曲差、本神、陽白、下關、に接觸的淺刺術を施し、手の合谷に鍼三分する。

### 中耳炎

(A)原因。感冒、熱性發疹性傳染病等。

(B)症狀。耳痛、難聴、重聴、耳漏等。

(C)療法。耳門、聽宮、聽會、翳風、角孫、天柱、完骨、に小灸七壯乃至十七壯を、治癒に至るまで連用する。

鍼灸又前記の治穴を應用する。

### 外聽道炎

(A)原因。入浴、水泳、耳洗、搔抓、濕疹、中耳炎、過酸化水素等の藥品による刺戟等。

(B)症狀。耳内搔痒、灼熱、充血、外聽道の腫脹、閉塞、疼痛等。

(C)療法。耳門、聽宮、聽會、翳風、陽池に小灸十二壯、毎日治癒に至るまで連用する。

鍼は之に準ずる。

(D)豫後。灸治によると多くは、一週乃至二週日で全治する。

### 第四章 内科的齒科學之部

齒痛の種類及び適應不適應を區別し適應症に對する鍼灸の法を問ふ (昭四年十月京都)

(A)種類及び適應、不適應の區別。

種類

不適の區別

(イ)齒槽膿瘍  
(ロ)齒膜炎

不適症  
(但し實地上禁忌症には非ず、對症的には勿論、實地上効果ある場合が多い。)

(ハ)生齒困難(智齒發生) 根本治療は疑問である

(ニ)齒髓炎及び齶齒 根治療法としては良

(ホ)齒齦炎 效がある。

(ヘ)神經性齒痛(上下齒槽神經痛) 最適應症である。

(B)適應症に對する鍼治法。

(イ)強雀啄術、置鍼術等、強刺激を原則とし、患者の症狀、年齡體質等を考慮し、適應手技を施して鎮痛せしむ。

(ロ)經穴。巨髎、迎香、禾髎、地倉、承漿、下關、顴髎、聽宮、頰車、翳風、天柱、風池、肩中、肩外、合谷等。

又解剖學的に前、後顎骨孔を刺鍼點とし、其の他、痛む齒によつて取捨選擇す。

而して誘導或は反射刺激を與へる。

(C)灸法。翳風に小灸十壯乃至十五壯、合谷、大杼に同く九壯施す。

齒痛に對する刺鍼法及び目的 (昭七年四月石川、其の他各地の實地)

(A)刺鍼法。強雀啄術、置鍼術の強刺激を原則とし、顔面の中及び上、下顎骨部の各穴を取穴して刺鍼する。

特に、後顎骨孔からは稍々内下方に斜鍼を試み、前顎骨孔からは後上方に斜鍼して雀啄術を行ふ。  
(B)目的。強刺激を以て興奮せる前上齒槽神經、後上齒槽神經、下齒槽神經の鎮靜を計る。

備考。齒痛の原因は、齶齒、齒膜炎、齒髓炎、齒槽神經痛、外傷、肩のこり等である。

### 齒痛の刺鍼點 (大十四年九月臺灣臺南州、昭五年五月千葉、昭六年四月群馬)

原因症狀は、疼痛ある齒の種類によつて多少相違するが、

(A)上齒痛に對しては、巨髎、禾髎、顴髎、下關、聽宮、翳風を主治穴とし。

(D)下齒痛に對しては、聽宮、翳風、頰車、大迎、後顎骨孔、前顎骨孔を主治穴とす。

何れも肩背部の、肩中、肩外、大椎、手の三里、合谷等に誘導又は反射刺激を與へる。

### 生齒困難症とは何ぞや並びに處置

(A)原因。生齒期の乳兒は、不明の睡眠障礙、消化障礙、體温上昇、痙攣等の諸症を來す事がある。

廣い意味では、素人はやはりむしの中に算入してゐる。

(B)療法。一般小兒鍼が卓效がある。

備考。本邦乳兒の生齒は最初、七、八ヶ月頃、門齒(前齒)から生へ始める。

但し個人によつて生齒の月齡には相當遲延あるものである。

### 第五章 婦人科 學

#### 白帶下の大略を述べ且つ施鍼部位 (大七年九月奈良)

##### (A) 白帶下の大略。

帶下とは子宮、子宮頸管、膈の分泌物を總稱したものであつて、俗にコシケと稱へられて居る。稍々粘稠の少し白濁して居る分泌物が膈管を濕潤粘滑ならしめて居て、普通の性臭を帯びて居るものは生理的である。

分泌が多量で時々足にまで傳はるものや、腐敗分解によつて酸臭を帯びたものが多量に分泌する場合、水様帶下が多量の時、又は血液を混じたるもの等は皆病的白帶下である。

##### (B) 施鍼部位。

上、次、中、下髎、曲骨、等は主治穴である、帶脈、五樞、衝門、胞育、血海等を補助穴とする。

備考一。施灸點。次、中、下髎、血海。

備考二。「帶下に對する施灸の可否施灸點並びに取穴法」(昭九年秋岡山)

備考三。「婦人科疾患の灸治法」(昭十六年四月三重)

#### 月經不順に施すべき灸治穴名 (大八年十月京都)

(大九年五月島根)

左右の歸來、腰俞、上髎、次髎、又は上髎、次髎、中髎左右六穴及び血海、三陰交に灸してもよい。

##### 備考。

(1)原因。腺病質、貧血、結核、衰弱、精神過勞、萎黃病、卵巢の疾患、子宮位置異常、子宮内膜炎等。

(2)症狀。週期的に(普通約二十八日目前後)月經がなかつたり、月經が途中で閉止したり、平素の月よりも少量であつたりする。其の他反射性に神経症狀を發する。

#### 月經過多症の原因症狀治療法 (各地實地試問)

定義。生理的範圍を越えて、普通の月經よりも月經血の多量なるものをいふ。

(A)原因。局所的原因と、一般的(全身的)原因の二種に大別する。

(イ)局所的のもの。内膜の肥厚、充血、機械的刺戟、實質炎、子宮筋腫、喇叭管、卵巢の疾患等。

(ロ)一般的のもの。慢性貧血、脂肪過多、腺病質、神経質、萎黃病等。

(B)症狀。慢性貧血症狀、又は急性貧血症狀、及び腰薦部の鈍痛、腰、下腹、下肢寒冷感、下腹牽引痛等。特に月經時多量の出血を主徴とする。

備考。診断、容易である。凝固せざる月經血が、月經時に多量である。

(C)豫後。原因にも依るが、鍼灸治療治效を擧げ得るものが多い。

(D)療法理論。子宮筋の收縮を計り、血液凝固性を尤め、子宮の毛細血管を收縮せしめ、骨盤内の充血を散ぜしむるが目的である。

(E)療法。子宮内膜炎の療法と大體同様であるが、胞育、帶脈、血海、は要穴である。

特に上、次、中、下、膀胱俞、中極等、又足の三里、三陰交、行間に誘導したり、反射させたりする。

月經困難症 (昭三年秋山口)

月經痛に對する鍼灸療法 (昭十六年五月群馬)

定義。月經時には、多少肉體的にも精神的にも、種々なる影響を蒙る事は一般周知の通りであつて、其の生理的範圍と、所謂月經困難症との判然たる區別は困難ではあるが、

月經時に勤務を廢して、疼痛を主訴とするものが、爰にいふ月經困難症である。

(A)原因。卵巢、喇叭管、子宮の畸形、それ等の炎症、位置の異常、腫瘍、充血及び内分泌の異常等。

但し主として迷走神経緊張症(ヴァゴトニー)が月經困難症の成因である。

備考。其の神経分佈。

内生殖器の神経分佈の詳細は未だ完全に研究されて居らぬようであるが、

大體腹部自律性神経が上位の薦骨孔から出でて分佈するものであつて、此の神経は下腸間膜動脈の分岐部邊で、多數の神経節を有する大子宮神経叢を構成して、薦骨の前面で左右に分れて、すべての内生殖器に分佈するものである。

そして脊髄神経は種々なる経路をとつて、子宮や卵巢の神経叢に混入し、

迷走神経は内臓動脈叢を媒介として、又腰髓より發するものは結合枝を介して分佈するものである。

(B)病理及び症状。卵巢、子宮、喇叭管に何等かの原因が存する時、迷走神経の異常興奮(ヴァゴトニー)を來して、陣痛様痙攣性疼痛を發し、肩の凝り、悪心、嘔吐、胃腸違和(迷走神経の反射媒介による)等を來す。

(C)治療

鍼灸は。上膠俞から五番の二寸鍼で一吋五分計り刺入して、輕き雀啄術を行ひ、次膠、中膠、下膠に、這入る丈深く鍼して一種の刺戟を傳達し、

又子宮のヘッド氏帯、大横、歸來、帶脈、に接觸的の單刺術を行ひ、

血海、三陰交、足の三里に鍼五分して反射刺戟を傳達する。

灸治。腰眼と中膠に極小灸十壯、血海に反射を目的として同じく小灸八壯する。

それが終つたならば最後に正座せしめて天柱に小灸(米粒大)七壯すればよい。

(D)豫後。あらゆる婦人科的醫療に頑固に抵抗した痼疾も、此の療法を行へば、毎日施術して二週間位で治癒する。

子宮痙攣の原因症状鍼灸療法 (昭九年秋静岡、大八)

(年三月廣島其の他)

子宮痙攣に對する刺戟の部位及び目的を記せ (昭十一年四月埼玉)

解題。症候的病名である。

(A)原因。子宮痙攣、位置の異常、月經困難、喇叭管、卵巢等附屬器の疾患から來る機質的のもの、便秘、貧血、寒冷、神経質、精神興奮、ヒステリー等から發する官能性のものがある。

(B)症状。下腹壓重、緊張、過敏、骨盤内痙攣性劇痛、ヒステリー球上昇、四肢厥冷、人事不省等。

(C)鍼灸療法。天樞、氣來、曲骨、衝門、小腸、上、次、中膠、血海等に、五番鍼を以つて一寸五分位、又はそれ以上深

刺して強雀啄を施す。又三陰交に、三分乃至五分刺鍼して、反射刺戟を傳達する。備考。灸治法。次髎、曲骨、三陰交に、半米粒大の艾灸七壯乃至十壯宛を施す。

### 慢性子宮實質炎の原因症狀治療法

(A)原因。主として細菌の傳染による内膜炎。

其他後傾、後屈等子宮の位置異常。

(B)症狀。骨盤内壓重感、月經過少、月經困難、不定時性出血、妊娠障礙、腰薦部の不快感、寒冷感、疼痛、下肢牽引痛、便秘等を訴へる。特に腫大せる子宮の壓迫による裏急後重感がある。

備考。子宮は全體に不等に増大し、妊娠子宮よりも堅く、専門的雙合診又は外診の際、下腹壁より左手を骨盤部に壓入しても多少の壓痛がある。但し内診、雙合診は鍼灸醫は、これを行はぬがよい。

(C)豫後。生命に危険がない。生殖に對しては豫後不良なることが多い。

(D)療法。鍼治、灸治共に子宮内膜炎に準じて取捨選擇す。

又大腸、關元、小腸俞、に刺鍼一寸乃至一寸五分強刺鍼して、脱糞中樞に刺戟を傳達して排便を企てることも肝要である。

### 子宮頸管加答兒の原因症狀治療法

(A)原因。主として淋菌の傳染による。其他産褥にては頸管破裂、會陰破裂が本病の誘因となり、

貧血、腺病質、體質、生殖器不潔、月經時の不注意、自瀆、性交過度等による。

(B)症狀。子宮腔部及び子宮外口は糜爛して深紅色を呈し多少の腫起を來し、オランダイチゴの如く顆粒狀を呈する。主なる症狀は、血液を混じた白帶下であつて、又濃い粘液性の場合も多い。

性交時に少量の出血を來し少し、疼痛のあることもある。

下腹、腰薦部の不快、鈍痛、下肢牽引痛、其他反射性神經症狀、自律性神經障礙を來す事が多い。

(C)治療の目的。組織細胞の賦活性を尤め體質の改善を計ると共に、其の部の新陳代謝を旺盛にし、分泌物の排泄を良好ならしめ、抗毒素の産成を促す。

(D)療法。鍼治は、上、次、中髎、會陰、腰俞、曲骨、血海等。

又、足の三里、三陰交より、誘導、或は反射を企つ。

灸治は、下の六ツ灸等がよい。

### 急性慢性子宮内膜炎の原因症狀治療法

(昭十六年四月京都、昭七年六月大阪、昭三年五月奈良、其他)

(A)原因。女性淋疾、其の他の細菌、分娩、産褥に於ける異常及び不攝生、冷却、濕潤、過勞、不適當なる理、化學的生殖器刺戟等。

(B)症狀。

急性内膜炎は、惡寒、發熱、脈頻數、下腹痛、惡臭ある粘稠惡露、又は膿様帶下、出血等があつて、

症狀一般に重い方である。

慢性内膜炎は。骨盤内及び下腹部の鈍痛及び不快、腰薦部の疼痛、下肢牽引痛、腰薦部部の冷感、子宮の知覚過敏等を來し、水様帶下、白色膿乳様の白帶下、帶黄色帶下或は不定時性出血を伴ふ。其の他頭痛、肩凝、不眠、心悸亢進等の反射性神経症狀を呈するものである。

(C)療法。子宮粘膜炎の健康を恢復し、子宮に於ける新陳代謝を調節するを以て目的とし。小腸、上、次、中脘、關元、命門、曲骨、血海を主治穴として、刺鍼深さ一寸乃至一寸五分雀啄術を以て中等度の刺戟を企て、血海、足三里、三陰交等に、誘導、又は反射を試むる。

又、反射性に來る神経症狀及び植物性神経の(即ち胃腸障礙連和)異狀に對して、足の太陽膀胱經等の要穴を、取捨選擇して刺鍼する。灸治は之に準ずる。(子宮内膜炎の鍼治法、昭十四年春、千葉)

備考一。豫後、急性のものは、骨盤結締織炎、腹膜炎、膿毒症、敗血症等を來して、豫後不良となることがある。慢性のものは、生命に關係ない、よく鍼灸術を以て治癒する。

備考二。骨盤内結締織とは、

骨盤内臓及び筋肉等の隙間を充填する組織そのものである。

備考三。「子宮内膜炎の灸療法」(昭十六年四月愛知)

### 子宮萎縮症の原因症狀治療法

(A)原因。結核、慢性腎炎、關節ロイマチス、甲状腺腫、精神感動等、及び營養障礙の高度なるもの、産褥熱等、其の他子宮の炎症性疾患後の卵巣機能の變化等。

(B)症狀。殆ど全部無月經を伴ひ、性感障礙のあるものもあり、子宮は縮小し壁は菲薄となり、帶下は減少し身體は羸瘦するものが多い、肩の凝り、頭痛、眩暈等を發す。

(C)療法概論。萎縮は、子宮體部筋が其の容積を減じて縮小し、動脈血の灌漑が不充分となり、生理的興奮性の減したるものであるから、所謂興奮法を施すべきである。

又卵巣興奮法をも應用する。

(D)療法。鍼治は、小腸、次、中、下脘、腰眼、會陰、等に深刺二寸位、中等度の雀啄術、又は廻旋術を行ふ。灸治は、下の六ツ灸を主治穴とし、其の他中脘、血海等を應用する。

### 子宮癌腫の原因症狀治療法

(A)原因。不明。誘因は、多産、頸管加答兒等。

備考。病理解剖所見、上皮細胞が癌細胞となるもので、其の發生の部位によつて、頸部癌、體部癌、腔部癌、を區別するが實地上は頸部癌が一等多數なのであるから、頸部癌に就いて記述する、其の他は類推して大過ない。頸管粘膜炎の圓場上皮、頸管下端の扁平上皮から癌腫を發生するものである。癌腫は癌肉状をなして大小種々の顆粒を形成して凹凸不齊な翻花状を呈するものは(翻花状癌)、腔部潰瘍となつて腔部を作るものは(腔部癌)、其の他侵蝕性に圓形潰瘍を作るもの、深部へ侵潤性にひろがるもの等がある。

(B)症狀。初期には、自覺症を缺く、病勢が進むと不定時性の出血、血様で悪臭ある帶下、疼痛、其の他全身症狀を呈す。出血は初め不定時性で、性交、労働によつて増劇し、終には多量の出血を來して慢性貧血が高度となる。帶下は所謂、シラチナガチ、即ち血性膿汁帶下であつて悪臭が甚だしい。疼痛は初め一般婦人病の

患者同様であるが、末期には劇痛持続性で下肢に放射し、患者は日夜苦惱する、終には所謂痛腫惡液質に陥る。

備考。多くは、不良。早期剔出したるものは良である。でない二年以内位で死ぬ。

(C)療法。早期子宮の剔出、レントゲン放射等である。

(D)鍼灸法。對症療法の他仕方がない。

参考。癌の統計は女子は、男子に二倍して罹患する、子宮癌腫は女性の癌全體の三分の一を占む。

男子の胃癌の數と、女子の子宮癌の數とは大差はない。

灸治は、是非醫療と共に併用すべきである。又醫療不可能の者にも灸治によつて、著者はいつも、好影響を與へてゐる。

### 喇叭管炎の原因症狀療法

(A)原因。鬱血、淋菌、大腸菌、結核等及び其の他器械的刺戟等の爲に來る喇叭管の炎症である。

(B)區別。(イ)單純性喇叭管炎。(ロ)傳染性喇叭管炎。

註。單純性喇叭管炎は多くは鬱血のために起るものである。

傳染性喇叭管炎は淋菌、連鎖球菌、葡萄球菌、大腸菌、結核菌によつて病變を來す。

備考。病理解剖。喇叭管炎は偏側の事もあつたが、兩側を侵すことが多い。

粘膜の結締織及び筋纖維まで肥厚増殖して結節を生ずるものは、結節性喇叭管炎である。

其の他喇叭管水腫は、漿液の滲漏するもの。

喇叭管膿腫は、化膿するもの。

喇叭管血腫は、血液の滲漏するもの。

喇叭管膿腫は、囊狀となりて隆起するものである。

(C)症狀。

(イ)單純性喇叭管炎は。病變が軽度で下腹部の左右或は一側に鈍痛又は卵巣痛を來し、患側の下肢に牽引痛を來す。

(ロ)傳染性喇叭管炎は。病原菌が種々であるから其の症狀及び經過も種々あつて一定せないが、

下腹部鈍痛牽引痛等は必發の症狀である。

勞働、性交、月經等の場合には増悪する。

又喇叭管の收縮時には堪へ難き喇叭管痛痛を發す。

急性喇叭管炎、は限局性腹膜炎症狀と四十度前後の發熱を呈するものである。

(D)類症鑑別。

蟲様突起炎、盲腸炎、等と鑑別せねばならぬ。

右側喇叭管炎は、盲腸炎や蟲様突起炎と誤る事が多い。此の錯誤は専門家にすら多いものである、絶對的

鑑別法は一寸むつかしいから熟練せる専門家に依頼するがよい。

(E)豫後。大概のものは、豫後良。

(F)療法。八髎の穴、曲骨、中樞等を主穴とする。

### 惡阻の原因症狀療法。同灸治法

(昭十五年十月徳島  
昭十六年四月京都)



(A)原因。未だ確實でないが、妊卵及び其の附屬物から生ずる毒素が、母體の血中に入つて起る妊娠中毒症であるとせられてゐる。

(B)症狀。妊娠の二ヶ月乃至三ヶ月の初め頃發する悪心、嘔吐、食慾不進、嗜好品の變化等の、消化器障礙が生理的程度を超過して高度となり臥褥する場合で、

第一期(輕症)。食後にのみ悪心、嘔吐があつて、營養障礙を來すもの、

第二期(中等症)。食物攝取に關しないで悪心、嘔吐が頻發して削瘦著しきもの、

第三期(重症)。身體反射機能減退し、搐搦、腦症等を呈して、生命をおびやかすもの、

を區別する。

第三期の悪嘔は普通鎮嘔せず、脈は百二十以上、發熱、譫語、嗜眠状態等を發して多くは死す。

(C)療法理論。卵巢ホルモンの調節を計り、大小内臟叢及び内臟動脈軸叢に、類化機能の調節術を試むるものである。

(D)鍼療法。中注、帶脈、外陵に淺刺鍼及び肝、膽、脾、三焦、に鍼二寸内外雀啄術を施し、又手の三里より反射刺

戟を企つ、氣海、大腸、關元、に同じく鍼する。

左の不容、承滿に鍼三分内外の單刺術、足の三里に三分乃至五分の單刺術を施して反射刺戟を企つ。

(E)灸療法。風池に半米粒大の灸五壯、帶脈同五壯、不容に同七壯を施灸する。

其他鍼治穴に準じ、症候に應じて要穴を取捨し、三分の一米粒大の灸八壯内外する。

(F)豫後。普通良、第三期のもの不良。

備考。悪嘔の灸療法。(昭十六年四月京都) 備考。「悪嘔に對する刺鍼の可否、刺鍼點」(昭九年秋岡山)

### 子宮血の道とは何ぞや其の灸治點

(A)子宮血の道とは。慢性子宮内膜炎、子宮位置の異常、卵巢、喇叭管の慢性炎症等、子宮及び附屬器の一切の慢性疾患及び

産前即ち妊婦の神経症狀、産後即ち褥婦の貧血、其他神経症狀等をいふのであつて、頭痛、頭重、逆上、不眠、憂鬱、腰部、薦部、下腹部等の鈍痛、下肢牽引痛、其他不定の神経痛等の症狀を主訴とするものをいふのである。

(B)其の灸治點。子宮内膜炎の部に記したる諸穴を主治穴として、其他對症的に接穴施灸すればよい。

備考。豫後は無論良である、經過は其の原因と療法とによつて長短種々である。

### 古來よりの婦人病の名穴三穴を擧げよ

(一)氣海、(二)關元、(三)血海。

### 婦人病の一ツ灸

血海。又は腰俞、或は次髎等の中から一穴を撰ぶ。

### 不妊症の原因並に其の灸治法 (昭十五年秋大阪)

(A)原因。子宮位置異常、子宮發育不全、子宮内膜炎、卵巢炎、喇叭管炎、骨盤内炎症等。

(B)療法。灸治法、中極、關元、胞胥の三穴に、小米粒大の灸炷、七壯乃至九壯宛を、六週間に互つて連續施灸する。

鍼治法、中極、胞膏、腰俞、に三番鍼を以つて刺入五分前後、心地好き程度の、廻旋術を數週間に互つて施鍼する。

備考。不妊症の過半数は、淋疾であるといふ。  
實情に即して臨機治療を行ふべきは勿論である。

### 第六篇 傳染病學

#### 總 說

- 一、病原微生物の侵入によつて發病する疾病は、即ち皆傳染病である。
- 二、傳染病の發生には(1)傳染原(細菌)、(2)菌侵入門、(3)菌の數量、(4)感受性がなければならぬ。(傳染病發生の要因)
- 一、細菌學上、病理學上、大衆衛生上、それ／＼専門的觀點から、種々區別或は分類せらるゝものである。
- 一、傳染病が個人及び大衆に及ぼす害毒は、菌の性質、菌の數量、毒性の強弱、免疫の有無、抵抗力の如何、豫防法の巧拙等によつて、疾病状態は複雑にして且つ多岐である。
- 一、チフス、肺結核、脾脱疽、インフルエンザ、疔、癰腫、耳下腺炎等に至るまで傳染病の病名だけを、列記しても數頁に及ぶであらふ。
- 一、但し傳染病篇に於て論ずるものは法律によつて豫防、隔離等を制定せられたる傳染病類及び傳染力強く危害甚しき疾病に限るものである。其の各症の重要なものは以下各論に於て記述する。

- 一、<sup>しんじやう</sup>併、傳染病の概念は、傳染病の種類。 二、法定十種傳染病。 三、地方病と流行病との區別等を考へて居らねばならぬ。

#### 地方病と流行病との區別

同じく傳染病であるが。

(A)地方病。一部地方に限局して多數の患者を出すもの。(近江湖畔のマラリヤの如き)

(B)流行病。傳染病患者が一時に多數生ずる場合である。(インフルエンザの如き)

備考。アチラコチチに傳染病が發生する時は、これを散在性といふ。

#### 所謂傳染病の種類

傳染病の種類は、多種多様である。

細菌の傳染によるものは、皆傳染病である。

傳染病豫防取締規則によつて、強制取締りを成すものは、所謂法定十種傳染病で、

或る程度の(肺結核の如く)豫防規則はあつても、自由を抗制せぬものは、單行法による傳染病である。

- 一、法定十種傳染病。……………(次の項参照)。
- 一、單行法による傳染病。……………肺結核、梅毒、淋疾、軟性下疳、トラホーム(トラコーマ)、第四性病等。
- 一、非法定傳染病。……………流行性感冒、百日咳、麻疹、肺炎、水痘、耳下腺炎、マラリヤ等。

又、臨牀上經過によつて、左の如く區別する。

- 一、急性傳染病。チフスの如く病毒の劇甚なる、熱性傳染病に多い。
- 一、慢性傳染病。トラホーム(トラコーム)結核、梅毒、淋疾、癩病等である。

### 法定十種傳染病

定義。法定十種傳染病とは、法律によつて之を強制的に取締る。

傳染率、危険率の多い急性傳染病である。

分類。此のものには十種あつて、左記の通りに之を分類する。

第一類。腸チフス、バラチフス、赤痢(疫痢を含む)、コレラ。

第二類。チフテリア、流行性腦脊髄膜炎、猩紅熱、痘瘡、發疹チフス。

第三類。ペスト。

備考一。「急性傳染性熱性病の種類及び傳染の経路」(昭六年十月長崎。)

### 各論

#### 第一節 法定十種傳染病

##### 腸チフス

(A)原 因。エーベルト氏が發見した、固有運動を有するチフス桿菌。

(B)傳染の徑路。接觸傳染(人から人に)、間接傳染(主として飲料水、食品から)。

(C)侵入の門戸。飲食物によつて、口から。

(D)症 狀。一週二週位の前驅期を経て後、固有の熱型、稽留熱、煤舌、脾腫、脈と熱の不一致、重病狀顔貌等。

(E)豫 後。良、不良あつて一定せぬ。特に二週三週頃腸出血を來すものには豫後不良のものが多い。

(F)傳染病豫防規則の定むる所に従つて隔離治療する。

(G)消 毒。喀痰、尿、糞便、汗、衣類等、法規に従つて嚴重に消毒する。

備考一。糞便の消毒には同量の石灰乳を、井水にはクロール石灰水を五百瓦に對して一瓦の割合に。

浴水に對しては一石に對し同じく二十瓦の割合に之を加へて用ひ。

又患者看護者の手は嚴重に消毒せねばならぬ。

被服等の病毒に汚染せるものは、一定の蒸氣消毒器を用ひて、消毒器内の空氣を排出せしめ、攝氏百度以上の濕熱を流通せしめて一時間以上消毒せねばならぬ。

備考二。「腸チフスの灸治法」(昭六年十月沖繩)

天柱に毎日米粒大の灸七壯乃至十壯、胃俞、三焦俞に毎日同じく七壯する。

一、天柱は古來より疫を治す名穴である。

一、胃俞、三焦俞は、消化、吸收、同化機轉を良好にす。

一、全治するまで運用する。

備考三。青地、時枝、原諸博士の實驗業績が示すが如く、灸治は免疫物質を増加する。

古來溫疫(熱性傳染病)に灸は盛んに應用せられたものである。

現今法規上チフスに灸治の應用は實際上議論あらんも、沖繩縣の試驗委員が本問題を提出せられし識見に敬服す。

### バラチフス

(A)原因。佛國のアシヤール、ベンソード氏が發見した其の菌である。

又ブリオン氏、セイゼル氏は凝集反應、培養等の差異によつてA型、B型を、區別した。

(B)傳搬の徑路。飲料水、食品、生肉等。(本菌は牛の腸によく寄生する)。

(C)菌侵入の門戸。チフスに同じ。

(D)症 狀。大體チフスに同じ、やゝ經過と症狀が軽い。

(E)豫 後。チフスと同じ。

(F)消 毒。患者を隔離し、咯痰、尿、汗、糞便、衣服等法規に従つて嚴重に消毒する。

### 赤痢

(A)原因。志賀氏の發見による赤痢菌である。細菌性赤痢、アメーバ性赤痢を分つ。

(B)傳搬の徑路。主として糞便及びそれに汚染せられたるものによる。

(C)菌侵入の門戸。口腔からである。

(D)症 狀。二日乃至八日の潛伏期を経て、單純性腸加答兒の如き下痢を以つて發病し、腹痛が發作し、次に粘液と血液を混じた下痢便があり、裏急後重等甚敷、重症は惡寒、發熱おも伴ふ。

(E)消 毒。コレラと同じ。

備考。豫防法、豫防灸又は豫防血清の注射を爲すべく、衣食住の清潔に注意し、飲食物は煮沸せるものを用ひ、糞便は必ず石灰乳で消毒せねばならぬ。

### 疫痢の原因症狀治療法

(A)原因。大腸菌屬の細菌。

備考。其の菌の本態は議論多くして未だ決定しないが、惡性赤痢の様な恐るべき幼兒の傳染病である。

赤痢に準じて法律上傳染病として取締る。

(B)誘 因。消化器の薄弱、腸管内の腐敗、消化不良、腐敗物の飲食等、つまり飲食物の不攝生と不注意に由る。

(C)症 狀。突然四十度位の高熱を發し、脈搏數數幽微、痙攣、嘔吐、昏睡等の腦症狀を來し、汚穢粘液様、或は、惡臭ある下痢便を洩し、發病の當日心臟麻痺を以つて死亡するものがある。

註。九州地方では本病を颯風といつて非常に恐れてゐる。

(D)豫 後。前記の如く急速に心臟麻痺で死亡する者が多い。

注意。疫痢の疑ある時は即時一般醫の診断をうけさせねばならぬ。

- (E)灸 治。醫療と共同して大椎、身柱に灸二十壯する。
- (F)鍼 治。は小兒皮膚鍼を應用する。
- (G)消 毒。赤痢と同じ。

虎 列 刺 (アジャコレラ)

- (A)原 因。コッホ氏が發見したコシマ状菌即ちコレラ菌、(印度の地方病)。
- (B)傳染の徑路。交通で傳搬し、主として患者の吐瀉物による汚染からである。
- (C)菌侵入の門戸。口腔から(主として飲食物による)。
- (D)症 狀。劇甚なる吐瀉、無色無臭の米粥汁便、虚脱等。
- (E)傳染病豫防規則の定むるところに従つて、隔離加療する。
- (F)消 毒。主として吐瀉物、其の接觸物、衣服、家屋等。

ヂ フ テ リ ア (馬 飛 風)

- (A)原 因。レフレル氏チフテリア菌の寄生による。
- (B)傳染の徑路。人から人に、又玩具、器具、衣服、空氣の媒介で傳染する。
- (C)菌侵入の門戸。吸氣によつて、咽喉頭、鼻腔等から。
- (D)症 狀。咽頭の粘膜、又は扁桃腺に帶黄灰白色の義膜を生じ、漸次、鼻腔、喉頭、氣管に及ぶもので、

此際、其毒素のために、發熱、脈搏微弱、譫語、呼吸困難等を來す。

- (E)法規の定むる所により隔離治療す。
- (F)消 毒。同前。

備考。此の疾患には、チフテリア血清を早期に大量の注射すれば奏效確實である。必ず早期普通醫師の治療を請ふべきである。

流行性腦脊髄膜炎

- (A)原 因。メニングゴツケン、(胞内雙球菌即ち流行性腦炎菌)。
- (B)傳染の徑路。接觸又は扁桃腺からとせられてゐる。
- (C)菌侵入の門戸。呼吸器から。
- (D)症 狀。惡寒戰慄を以て發病し、後不定の弛張熱を呈し、皮膚、筋肉は知覺過敏となる。其他坐位で下腿が伸ばせぬ(ケールニツヒ氏症狀)、刺頭痛、嘔吐、項部強直等。
- (E)豫 後。死亡率相當多く、治癒後に於ても、遺殘症狀によつて廢疾となるものがある。
- (F)法規の定むる所により隔離治療す。
- (G)消 毒。衣服、室内等規定の通り嚴重に消毒する。

猩 紅 熱

- (E)灸 治。醫療と共同して大椎、身柱に灸二十壯する。
- (F)鍼 治。は小兒皮膚鍼を應用する。
- (G)消 毒。赤痢と同じ。

虎 列 刺 (アジアコレラ)

- (A)原 因。コッホ氏が發見したコシマ状菌コシマ菌即ちコレラ菌、(印度の地方病)。
- (B)傳染の徑路。交通で傳搬し、主として患者の吐瀉物による汚染からである。
- (C)菌侵入の門戸。口腔から(主として飲食物による)。
- (D)症 狀。劇甚なる吐瀉、無色無臭の米粥汁便カホラの汁便、虚脱等。
- (E)傳染病豫防規則の定むるところに従つて、隔離加療する。
- (F)消 毒。主として吐瀉物、其の接觸物、衣服、家屋等。

チ フ テ リ ア (馬 飛 風)

- (A)原 因。レフレル氏チフテリア菌の寄生による。
- (B)傳染の徑路。人から人に、又玩具、器具、衣服、空氣の媒介で傳染する。
- (C)菌侵入の門戸。吸氣によつて、咽喉頭、鼻腔等から。
- (D)症 狀。咽頭の粘膜、又は扁桃腺に帯黄灰白色の義膜を生じ、漸次、鼻腔、喉頭、氣管に及ぶもので、

此際、其毒素のために、發熱、脈搏微弱、言語、呼吸困難等を來す。

- (E)法規の定むる所により隔離治療す。

- (F)消 毒。同前。

備考。此の疾患には、チフテリア血清を早期に大量の注射すれば奏效確實である。

必ず早期普通醫師の治療を請ふべきである。

流行性腦脊髄膜炎

- (A)原 因。メニングゴツケン、(胞内雙球菌胞内雙球菌即ち流行性腦炎菌)。
- (B)傳染の徑路。接觸又は扁桃腺からとせられてゐる。
- (C)菌侵入の門戸。呼吸器から。
- (D)症 狀。惡寒戰慄を以て發病し、後不定の弛張熱を呈し、皮膚、筋肉は知覺過敏となる。其他坐位で下腿が伸ばせぬ(ケールニツヒ氏症狀)、劇頭痛、嘔吐、項部強直等。
- (E)豫 後。死亡率相當多く、治癒後に於ても、遺殘症狀によつて廢疾となるものがある。
- (F)法規の定むる所により隔離治療す。
- (G)消 毒。衣服、室内等規定の通り嚴重に消毒する。

猖 紅 熱

- (A)原因。眞因不明。(但し近時本病の重症患者の血液中に、連鎖球菌を發見すといふ學者あり)
- (B)傳搬の徑路。本菌は強き耐久力を有し、種々な物品に附着した毒素が數ヶ月後に傳染する場合がある。
- (C)菌侵入の門戶。主として扁桃腺からではあるまいかといはれてゐる。
- (D)症 狀。普通四日乃至七日の潛伏期を経て發疹する。胸部頸部から始つて全身に及ぶ、各疹一つの疹に融合して、恰も狸々の様に全身潮紅し高熱を發するが、約一週以内に落屑期に入り、糖枇狀の落屑が甚だしく約二週間位つづく。
- (E)法規の定むる所に従ひ隔離治療する。
- (F)消 毒。患者の全排泄物、衣類、室内、器具等を三%石炭酸水で嚴重に消毒する。

痘 瘡 (ほんぼうさう)

- (A)原因。眞因不明であるが、強烈な發疹性傳染病である。
- (B)傳搬の徑路。人から人に。
- (C)菌侵入の門戶。不明。
- (D)症 狀。惡寒、高熱、譫語、腦症狀、刺しき腰痛等を前驅して後、第一日に麻疹に似た發疹を來し、第二日には丘疹にあり、第三日には水泡になり、第六日には膿胞に變じ、周圍に紅暈があつて中央が陥凹し、

其の後三四日で痂皮を作るものである、後痘瘡癩痕を残して治癒す。(不幸な場合は豫後不良)。

- (E)明治四十二年法律第十五條種痘によつて豫防する。

- (F)消 毒。膿汁、痂皮、涙液、其他衣服等の患者の接觸物等。

備考。エドワード、ジェンナー氏の發見せる種痘によつて、人類は痘瘡の不幸を救はれたのである。種痘で免疫性を得る。但し最近の學説では免疫期間は半年乃至二年位たといはれてゐるから、流行時には必ず再種痘をせねばならぬ。

發 疹 チ フ ス

- (A)原因。不明、恐るべき傳染病。
- (B)傳染の徑路。不明。人類は最も感染し易い、衛生状態の不良な場所に多い。
- (C)菌侵入の門戶。人から人に、接觸傳染が殊に劇甚で呼吸最も危険である。(空氣傳染)
- (D)症 狀。本病はチフスと何の關係もない、寧ろ發疹性傳染病である。一定の潛伏期を経て稽留性高熱を來し、微疹を發し強度の頭痛、安魏那、腦症狀、精神障礙得を來す。
- (E)法規によつて、嚴重に隔離(傳染病院に收容)治療する。
- (F)消 毒。あらゆる接觸物、排泄物、家屋等。備考。防疫用には三%防疫用石炭酸水(三%粗製石炭酸水)を用ふ。

へ ス ト

- (A)原因。北里、エルザン氏が發見したベスト桿菌。

(B) 傳染の徑路。人から人に、猫、鼠族等の獸類から人に、蚤の如き昆蟲から人に。

(C) 菌侵入の門戸。皮膚の創傷から、又は扁桃腺、咽頭等から。

特に肺ペストは強毒のある菌が、患者の咳嗽から四散して空氣傳染をするので危險最も甚だしい。

(D) 症 狀。潜伏期は二乃至五日で俄に來る惡寒、戰慄、高熱、譫語、衰弱、脈管數、腺の腫脹、化膿等。

肺ペストは重症流行性感冒、又は重症肺炎に似て、更に重篤で急死する。

(E) 明治三十八年に發布された、内務省令第五八六號ペスト豫防心得で、國家が極力之を豫防する。

(F) 消 毒。法規に定められたる所に從つて、嚴重に消毒するのであつて、

患者の唾液、喀痰、大小便等全排泄物、衣服、接觸物、家屋等。

備考。衣類、蒲團の如きものの消毒は燒却する、又室内はホルムアルデヒド瓦斯で瓦斯消毒を行ふ。

### 第二節 其の他の傳染病

#### 丹毒の原因及び症狀 (昭四年三月北海道)

(A) 原 因。丹毒連鎖球菌。

(B) 菌傳搬と菌侵入門。創傷傳染病として最も多きものである。人から人に、又は器物によつて傳染する、

皮膚の損傷部は菌侵入の門戸である。好んで顔面又は、頭部に發する事が多い。

(C) 症 狀。感染した部の皮膚は、限局して紅色を呈し、其の紅斑内に水泡を作る。

其の他、高熱、脈及び、呼吸頻數となる。

備考。豫防法、切傷、刺創、表皮剝脫、サカムケ等は危險であるから充分注意して傳染原の侵入を防止せねばならぬ。

ぬ。鍼術、灸術によつて、丹毒を誘發したる、實例を著者は持たない。

#### 破 傷 風

(A) 原 因。破傷風菌。備考。此の菌は土壤に棲息す。

(B) 菌傳搬と菌侵入門。接觸又は器物の媒介によつて傳染する。皮膚、粘膜の損傷部から傳染する。

(C) 症 狀。高熱、譫語、脈管數、顔面筋痙攣、全身痙攣、牙關緊急、角弓反張等。

(D) 豫 後。多くは不良。

備考一。「破傷風とは何ぞ鍼灸治療の可否如何」(昭五年四月佐賀)

備考二。丹毒、破傷風、脾脫疽、化膿菌等による化膿は、創傷傳染の代表的ものである。注意を要す。

#### 脾 脫 疽 (炭疽熱)

(A) 原 因。脾脫疽菌。

備考。本來は獸類の疾患である。本菌は牧場に散在して、よく牛、豚等に感染する。

殆に本菌の芽胞は、極て外界の影響に對して抵抗の強いものである。

(B) 傳搬の徑路。獸皮の使用。獸類、蟲類の刺傷、本菌を有する塵埃の吸入等。



(C) 菌侵入の門戸。皮膚の創面、口腔、肺臓等。

(D) 症 狀。數時乃至約七日位の潛伏期を経て後、傳染の局所に悪性膿疱(癰)を發生す。

初めは小結節を作り、次に壞死性痂皮となり滲潤甚しく、疼痛比較的軽く、幸運な時には治癒するが、不幸な場合には即日四十度位の高熱を發し、脾臓疽敗血症の爲に死す。

(E) 消 毒。全排泄物。

癰 (腫) (癰)

(A) 原 因。葡萄狀球菌。

(B) 菌侵入の門戸。皮膚の毛口。

(C) 症 狀。真皮、皮下結締組織の硬結、腫脹、疼痛。重症は發熱を來す事がある。

(D) 好發部位。背、項、臀部。備考。特に背部に發するものが多い。

癰 (疔)

(A) 原 因。黄色葡萄狀球菌。

(B) 菌侵入の門戸。皮膚の毛口。

(C) 症 狀。局所の硬結、赤發、腫脹、疼痛が甚しい。更に悪化すれば全身の發熱を來す。

備考一。特に上唇の附近に發生するものが、危険を招來する事が多いから注意を要する。

備考二。癰腫は俗にいふ所の疔である。顔面に發生するは面疔といふは一般に知られてゐる通りである。

備考三。癰腫、癰腫に灸治はよく奏効する。著者昭和十六年九月本書の改訂中、後頭部第五頸椎棘狀突起の上に、癰腫を發し、鍼灸則の記述を採用して癰腫の尖頭に施灸し、更に合谷を併用施灸して、二週日して全治せしめた。

### 歐洲 コレラ (霍亂)

(A) 原 因。不明、又毒物の中毒からも來る。

(B) 症 狀。腹痛があつて次で嘔吐、下痢を來し、便は黄色、帶褐色、又は血性なる事もある、重症の者は顔貌憔悴、脈管數幽微、虚脱によつて即日死する事もある。

### 流行性感冒 (インフルエンザ)

(A) 原 因。プайフェル氏が發見した極めて細小なる、インフルエンザ桿菌であつて、時とするときと多く大流行を來して、世人の心膽を寒からしむる事もある。

(B) 症 狀。一日乃至三日の潛伏期を経て突然惡寒、戰慄、高熱、劇甚なる頭痛を發す。

其の他種々なる重篤の症狀を以て經過するものである。

流行時と個人とによつて。無論輕重種々である。

(C) 豫 後。悪化せざれば普通良。(註。其の流行時によつて、豫後良、不良あつて一概に断定出來ない)。

(D) 療 法。鍼。天柱、風池、大杼、風門、手三里。

灸。風池小米粒大の灸七壯、風門同九壯。備考。豫防法、風門に小米粒大の灸十壯、一週間往ゆ。

### 嗜眠性脳炎

- (A)原因。不明の恐るべき傳染病、流行病ならんといはれてゐる。
- (B)誘因。流行性感冒(インフルエンザ)が誘因となる事が多い。
- (C)症状。嗜眠状態は特殊である。その他、不定の發熱、劇頭痛を以つて始まり、次に上眼瞼下垂、舞踏病様攣縮、複視等を來す。
- (D)豫後。其の三〇%は不良であるといふ。

備考。病理解剖の結果は、炎症性の病竈がジルウィス氏導水管、又は第三腦室にあると。

### ワイル氏病 (出血性黄痘、又は熱性黄痘)

- (A)原因。出血性黄痘スピロヘーダ。(ワイル氏病菌)
- (B)傳染の徑路。食物で口腔から、又は皮膚の損傷部から。
- (C)症状。突然惡寒戰慄を反覆し、四十度前後の高熱を來し、發病第五日目位には高度の黄痘を發す。次に皮下溢血、衄血、吐血、等の出血傾向が著明になる。同時に頭痛、腰痛、筋痛が甚しく、第二週頃には、腦症狀を起し、昏睡又は發揚の状態となる。
- (D)豫後。不良の場合が多い。但し主治醫の諒解を得て灸治は必ず之を試みるべきものである。

(E)消毒。患者を隔離し、患者の全排泄物と、接觸せる器具等を嚴重に消毒する。

### 狂犬病 (恐水病)

- (A)原因。病原體不明。
- (B)傳染の徑路。狂犬病に罹れる犬及び、狂犬病患者の咬傷。
- (C)菌進入の門戸。咬まれたる損傷部。
- (D)症状。潜伏期は三週、八週、數十週に及ぶ。

(一)發病期。病毒は終に神經纖維を傳つて、中樞神經系に至るものである。

咬創の局所は、搔痒、灼熱、疼痛を來す。

精神障礙を蒙つて、不安、憂鬱となる。

(二)發揚期。半日乃至三日間位で咽頭筋、呼吸筋に痙攣を來す。

備考。此の期には、水を見ても痙攣を起すに至るから、恐水病ともいふ。

次で、呼吸困難、不正脈、チアノーゼ、高度の發熱(四十度五分乃至四十一度五分位)を發する。

(三)麻痺期。痙攣期の終りに、全身麻痺が起り、終に呼吸麻痺によつて死亡する。

(E)豫防と療法。狂犬の撲殺、豫防注射。血清注射。

注意。即時豫防注射を受くべきは勿論であるが、

即時注射不可能の時局所に大灸して後、豫防注射を受けたるもの経過良好である。

## マラリヤとは何ぞ灸治の可否及び灸治點 (昭三年三月東京)

(A)原因。マラリア原蟲によつて起る、固有の熱性傳染病である。

(B)傳染の徑路。患者の血液を「アノフェレス」と名づくる種類の蚊が吸ひ、他の人に傳染さすものである。

(C)症狀。劇烈なる戦慄、四十度乃至四十一度位の高熱と、脾臓の腫大とが其の主症狀で、

大概は四十八時間乃至七十二時間目位に、前記の症狀を反覆するものが多い。

(D)豫後。多くは良。但し慢性症、又は小兒に來れる重症のものなどは樂觀が出来ぬ。

又日支事變等の爲に、異境に於て傳染したるものは、特に灸治が有效である事は、我等の實驗する所である。備考。灸治の可否。

古來から灸治の適應症だとせられて居る、事實灸治は効果を奏するものである。

灸治點。風池、大椎、曲池、至陰等。

註釋。本病は前記の症狀を反覆するから間歇熱ともいひ、古書では瘧と記され、俗間ではオコリと稱してゐる。

キニーネは特效薬であるが、慢性のものには灸治を併用すれば、百發百中の良效がある。

日支事變の爲めキニーネ供給不足である。國の爲め、人の爲め、先づ灸治を試みよ。(昭和十四年十月記)

## 梅毒の原因症狀區別鍼灸療法の可否

(A)原因。シヨウヂン、ホフマン氏によつて發見せられたる其の菌。

即ち繊細なる螺旋狀の「スピロヘーダ、パルリデーダ」である。

(B)傳染の徑路。其の患者との性交、接吻等の直接傳染と、器物による間接傳染と、妊娠中母體の胎盤より傳染する胎盤傳染とである。

(C)症狀。普通は、第一期、第二期、第三期を區別する。

第一期は。傳染後二週乃至三週の潛伏期を過ぎて後、違和、頭痛等の全身症狀と共に傳染の局所(陰部)に硬結を生じ、多くは硬性下疳となる。註。第一期と第二期との移行期判明せぬ事もある。

第二期は。數ヶ月後皮膚に微蕁疹を發するに始つて、後乾癬様の皮疹を發し、肛門や外陰部等に扁平贅肉横痃等を發す。

此の期は數年に及ぶものが多い。

第三期は。ゴム腫を形成し、又脊髄癆、麻痺狂等の、所謂變性梅毒を發す。

(D)豫防法。コンドームの使用、性道德の訓練、檢査の勵行。

註。今や刑罰を内容とする豫防法律が制定せられ、其の一部が實行せられてゐる。

(E)鍼灸治療の可否。不可ではないが。サルヴァルサン、蒼鉛、水銀等の特效薬がある故醫療と協力して鍼灸治療をなすは理想的である。

備考。但し夫れ等の藥物療法が無効なる變性梅毒に、灸治を試むれば意外の奏效を呈する事がある。

(F)治 穴。膏肓、氣海の兪、腰眼、三陰交、陽輔。

又横根返しの灸を施す。(此の灸法は別著「圖解經穴學」参照)

## 軟性下疳

- (A)原因。シユクレイ氏桿菌の傳染による。
- (B)症候。皮膚粘膜に、接觸傳染性潰瘍を發現するもので、男女共、性器の一小傷から傳染する。其の菌のある、患者との性交後、數時間で局所數ヶ所に赤發し、二日目には小丘疹となり、三日目位には膿疱に變じ、間もなく不潔な潰瘍となる。
- 本症は、局所病變の他、全身に何等の症候を現はさない。
- (C)經過。灸療によると、大體二週乃至三週位である。
- (D)療法。横根返しの灸法、又は打拔の灸法を應用する。

## 第四性病

- (A)原因。第四性病菌、其の有毒異性との性交による。
- (B)症候。傳染局所に、小丘疹性潰瘍を現し、疱疹となり、瘻孔性下疳となる。
- 次で有痛性横痃を來し、終に此の横痃は破れて瘻孔性となる。
- 其他、時とすれば頭痛、發熱、全身違和等を來す。普通治癒するまで日月を要する。
- (C)療法。横根返し灸法、又は打拔の灸法、或は腰眼一つ灸の大灸を應用する。

## 癩病 (レブラ)

- (A)原因。癩菌。
- (B)傳播の徑路。接觸傳染、現代では特に皮膚の小創面から傳染するものと、認めてゐる。
- (C)症候。潛伏期は數年に及ぶ。徐々に發病する。
- 斑紋癩、神經癩、混合性癩等を區別する。そして各々症候は多少異なるが、感覺異常、感覺麻痺、脱毛、潮紅、斑點等が現はれ、終には榮養障礙の爲に、四肢や鼻端が脱落する。
- (D)豫防法。患者の隔離と、消毒が大切である。
- (E)灸との關係。明治年間、中條氏、境田氏等は、癩に灸すると免疫性を賦與するであらふ事を思考し、昭和の今日原志免太郎博士は灸は癩治療に對して、何等かの關係があらふ事を提唱してゐる。
- 備考。著者の調査によれば、レブラ患者は草津温泉に入湯しつゝ、灸治を行なへる者が甚だ多い。

## 水痘 (水ぼうそう)

- (A)原因。不詳、但し痘瘡とは全く別である、よく幼児を侵す。
- (B)傳播。接觸による場合が多い。
- (C)症候。潛伏期は十日乃至十四日、三十八、九度の熱を發して、脊背部に赤色の皮疹を來し、其の中心は澄明なる水泡となり、多くは豌豆大で(時とするとき口内にも發し)連に破れて赤色又は帯白色の斑を作るが、遂に痂皮となつて、數日又は二週以内に痂皮は剥落する。癩痕を残さぬ。
- (D)豫後。良。

(E) 療法。三焦俞、身柱に小灸三壯、七壯連用する。

### 麻 疹

(A) 原因。不明、小兒は必ず經過せねばならぬ傳染病である。

(B) 傳搬の徑路。主として其の患者との接觸や分泌物によつて感染する。

又患者と接觸しなくとも(不明の徑路によつて)傳染する。

生後六ヶ月以内の乳兒は感染率が少く、且つ傳染しても輕症である。

滿一歳乃至二歳以内の小兒は最も侵され易い、一度本病を經過すると終生免疫性をうるのが普通である。

(C) 症狀。潜伏期は約十日位で、

(一) 前驅期は即ち加答兒期であつて、潜伏期を経てから三、四日目位に粘膜炎に發疹して氣管枝加答兒等の加答兒症狀を發する。

(二) 發疹期は、二日乃至三日で顔面、(特に前額とか耳の下部に) 頭部、頸部、軀幹、上肢、下肢、臀部の順序に發疹し、發疹は初め小さいが漸次大きくなる、そして、皮膚面から少し隆起して居る。

(三) 消退期、二、三日にして後消退期に這入つて、糠の粉の様なものが少し落屑する。

但し輕症のものは暫時紅斑を残すのみで落屑はせない。

(D) 診斷。内疹と、コプリック氏斑とを發見すれば、診斷は確定する。

内疹とは口蓋粘膜の發疹で、

コプリック氏斑とは、下顎の白齒の對面の粘膜炎に生ずる、數個乃至數十個の小斑である。

(E) 豫後。ハシカの内攻とは、發疹一時に消退して毛細氣管枝炎や、加答兒性肺炎や、急性腎炎を起した場合で、死亡する場合をいふ。

又發疹期に毛細氣管枝炎、加答兒性肺炎等の合併性を來して死亡するものも相當に澤山ある。

流行の時期、年齢、抵抗力等によつて豫後は一樣でない。要するに麻疹は幼兒には大敵である。

(F) 治療。發疹前期は、風に當てゝはならぬ、

備考。重症のものは、可成一般醫療によるがよい。

消退期以後に於ては、正規の消毒を嚴重にして、

小兒鍼を、特に身柱、臍、肝、

臍、脾、胃、三焦、巨闕、上腕、中腕、下腕、商曲、盲俞、天柱、風池、肩中、肩外、大椎等及び四肢の

末梢等に軽く皮膚鍼を施す事を忘れてはならぬ。

備考。麻疹や猩紅熱と鑑別せねばならぬ。

## 第八編 經 穴 學

### 十四 經 略 解

注意。一、經穴學を理解暗記するには、

- 1 十四經の名稱を記憶し、
- 2 次に經絡の大體を暗んじ、
- 3 續いて穴名暗記の歌を、反覆暗誦朗吟すれば自ら暗記出来るものである。

經穴の治療應用は、

- 1 經絡の分佈、
- 2 ヘッド氏帶との關係、
- 3 鍼灸科理論、
- 4 生理解剖學的關係、
- 5 鍼灸診斷治療學等より、一般的に考察すればよい。

一、近年迄は受験生は經絡を知らずとも、大體試験に合格出来たのであつたが、著者が従前より唱導せし、皇漢醫學の本流は、近來特に識者の注目する所となり、

日本主義の充揚と、興亞思想の勃興により、一段と識者に再檢討、再認識せらるゝに至り、經脈學の大

體(概念)は受験生と雖も、必ず知つて居らねばならぬやうになつた。

### 十四 經 と は

人體を循環するは營衛(血液、淋巴)の脈道、神經やホルモンの有機的連鎖(?)の脈道である。

この脈道即ち經脈は、東洋哲學の天地陰陽說に基きたるもので。

手と足とに三陰の脈(太陰、少陰、厥陰)と、三陽の脈(太陽、少陽、陽明)とがあるから、合せて十二經となる。

之に即ち奇經八脈。(督脈、任脈、陽蹻脈、陰蹻脈、陽維脈、陰維脈、衝脈、帶脈)の中の督脈と、任脈とを加へて、十四經といふ。

手の三陰。(肺經、心經、心包經)は即ち手の三陰の脈であつて、腹から出でて手に至つて居る。

手の三陽。(大腸經、小腸經、三焦經)は即ち手の三陽の經脈で、手から頭部に至るものである。

足の三陽。(膀胱經、胃經、膽經)は即ち足の三陽の經脈で、頭から下つて足に至るものである。

足の三陰。(脾經、腎經、肝經)は即ち足の三陰の經脈で、足より上つて腹に入るものである。

### 經脈循環の順序

手の太陰肺經、手の陽明大腸經、足の陽明胃經、足の太陰脾經、手の少陰心經、手の太陽小腸經、足の

太陽膀胱經、足の少陰腎經、手の厥陰心包經、手の少陽三焦經、足の少陽膽經、足の厥陰肝經に終つて、又手の太陰肺經に循る。

而して、常經即ち此十二經に營衛が溢るゝ時は、奇經に入るものである。

#### 一、手の太陰肺經

手の太陰の脈は、中焦(三焦の中の中焦である)に起りて、下つて大腸を絡ひ、還りて胃口を循り、膈に上りて、肺に屬す。

#### 二、手の陽明大腸經

手の陽明の脈は、大指の次指(第二指即ち示指)の端に起り、指の上廉を循りて、合谷兩骨の間に出づ、上りて兩筋の中に入る、臂(上膊)の上廉を循りて、肘の外廉に入り、膈外の前廉を循り肩に上る。

偶骨の前廉を出で、柱骨の會上に出づ、下りて缺盆に入りて肺を絡ひ、膈に下り、大腸に屬す。

其枝別なるものは、缺盆より上り、頸にゆき、頰を貫き、下齒の縫中(上唇繫帶中)に入る。

還りて出で、口を挟み、人中(鼻中隔の直下の溝)に交り、左は右に之き、右は左に之き鼻口を挟む。

#### 三、足の陽明胃經

足の陽明の脈は、鼻に起り額中(鼻梁)に交る。太陽の脈を下つて鼻外を循り、上齒の中に入る。還つて出でて口を挟み、唇を循り、下つて承漿に交り、額顛(顛頂骨の前方)に至る。

其枝別なるものは、大迎の前より人迎に下り、喉嚨を循り缺盆に入り、膈に下り、胃に屬し脾を絡ふ。

其の直なる者は、缺盆より乳の内廉に下る。下りて臍を挟み、氣衝の中に入る。

其枝なる者は、胃の下口に起り、腸裏を循り下りて至りて、氣衝の中に合す。

以て脾關(股關節部)を下り、伏兔に至り、膝膕中(膝蓋骨の下)に下る。下に胫骨(脛骨)の下廉を循り、

足附に下りて中趾の外間に入る。

其枝なる者は、膝を下る事三寸、別れて以て下り、中趾の外間に入る。

其支なる者は、跗上(足跗骨の上)に別れて、大指の間に入り其の端に出づ。

#### 四、足の太陰脾經

足の太陰の脈は、大趾(躡趾)の端に起り、指の内側、白肉の際を循り、覈骨(楔狀骨)の後を過り、内髌の前廉に上る。端内(腓腸筋)に上り、胫骨の後を循り、厥陰の前に交り出づ、上りて、膝股の内の前廉を循り腹に入りて、脾に屬し、胃を絡ふ。

膈に上つて咽を挟み、舌本(舌根)に連り、舌下に散ず。其の枝別なるものは、復胃に従り別れて膈に

上り、心中に注ぐ。

### 五、手の少陰心經

手の少陰の脈は、心中に起り出でて、心系に屬し、膈に下つて小腸を絡ふ、

其の支たる者は、心系従り上りて、咽を挟み目に系る、

其直なる者は、復心系従り、却りて肺に入り、腋下に出づ。下りて臑(肘尖)内の後廉を循り、太陰心主の後を行き肘の内廉に下る。

臂内後廉を循り、掌後兌骨の端に抵り、掌の内廉に入り、小指の内を循りて其の端に出づ。

### 六、手の太陽小腸經

手の太陽の脈は、小指の端に起り、手の外側を循り、腕に上りて髌中(長骨表面の隆起、此所では尺骨の莖狀突起)に出づ。直に下りて、臂骨の下廉を循り、上りて臑外(肩の外下方)の後廉を循り、肩解(肩循のある所)に出づ。肩胛を循り肩の上に交はる、缺盆に入り、心を絡ひ、咽を循り、膈に下り、胃に抵り小腸に屬す。

其の支なる者は、別れて缺盆に従り、頸を循り頰に上り、目の銳眥(外眥)に至り、却つて耳中に入る。其の支なるものは、頰に別れて頤(目の下)に上り、鼻に抵り目の内眥に至る。

### 七、足の太陽膀胱經

足の太陽の脈は、目の内眥に起り、額に上りて巔上(いたゞき)に交り、其の支なる者は、巔より耳の上角に至る。

其の直行なるものは、巔より入りて腦を絡ひ、還つて出でて項(後頸部)に下る。

肩膊の内を循り、脊を挟み腰中に抵り。入つて脊(脊の傍の肉)を循り、腎を絡ひ、膀胱に屬す。

其の支別は、腰中より下つて臀を貫いて、臑中(膝關節背面の横紋)に入る。

其の支別なる者は、臑内(肩背の肉)より左右に分れ、下りて胛(背の兩傍の肉)を貫き、脊肉を挟んで髀樞(股關節)を過ぐ。

髀外の後廉を循り、下りて臑中に合し、以て下つて臑内を貫き、外髌の後に出でて京骨を循り、小指の外側の端に至る。

### 八、足の少陰腎經

足の少陰の脈は、小趾の下に起りて、斜に足心に滯ふ。然骨の下に出でて、内髌の後を循り別れて跟中に入る。

臑内に上り、臑(膝關節)の内廉に出づ、股内の後廉に上り、脊を貫き腎に屬し、膀胱を絡ふ。



其の直なる者は、腎より上りて、肝、膈を貫き、肺中に入り喉嚨(喉頭氣管)を循り舌本(舌根)を挾む、其の支なるものは、肺より出で心を絡み胸中に注ぐ。

#### 九、手の厥陰心包經

手の厥陰の脈は、胸中に起り、出で、心包に屬し、膈に下つて三焦を歴絡す。

其の支なる者は、胸を循りて脇に出でて、腋三寸を下り、上りて腋下に至り、下りて臑(肘の節)内を循り太陰、小陰の間を行きて肘中に入る。

臂(前膊)に下りて、兩筋の間を行き、掌中に入り、中指を循りて其の端に出づ、其の支なる者は、掌中より、小指の次指を循りて其の端に出づ。

#### 十、手の少陽三焦經

手の少陽三焦の脈は、小指の次指の端に起りて、次指の間に出で、手の表腕(腕の背面)を循りて、臂外兩骨の間(前膊の撓、尺骨間)に出で、下りて肘を貫く、

臑外(肘の節の外)循り、肩に上りて交り、足の少陽の後に出でて、缺盆に入り臑中(兩乳の間)に交り、散じて、心包を絡み、膈に下り、偏く三焦に屬す。

其の枝なるものは、臑中に依りて下りて、缺盆に出づ、直なるものは、上りて耳の上の角に出で、以て

屈して頰に下り頤(鼻背)に至る。

其の支なる者は、耳後より耳中に入り、却つて出で眼の銳眥(外眥)に至る。

#### 十一、足の少陽膽經

足の少陽の脈は、目の銳眥(外眥)に起り、上りて角に抵り、耳後に下る。頸を循りて、手の少陽の前を行きて、肩に至り、却りて少陽の後に出で、缺盆に入る。

其の支なる者は、耳後より耳中に入り、耳前に走り、目の銳眥の後に至る、

其の支なる者は目の銳眥に別れて大迎に下り、手の少陽に合して、頤(鼻梁)に抵り下つて頰車を加へ、頸に下り、缺盆に合し、胸中に下り、膈を貫き、肝を絡み、膽に屬す。

脇裏を循り、氣衝に出で、毛際(陰毛の際)を循りて、横に髀(股の骨)脈(股關節外面の陷凹部)の中に入る。

其の直なる者は、缺盆より、腋に下り、胸を循り、季脇を過り下つて、髀脈(髀脈は髀樞の中)の中に合し、以て下つて、髀陽(大腿の外側)を循り、膝の外廉に出づ。

外輔骨(腓骨)の前に下り、直に下つて絶骨の端に抵り、外髌の前に出で足跗を上つて循り、小指の次指(第四指)の間に入る。

十二、足の厥陰肝經

足の厥陰の脈は、大趾聚毛(一名又三毛ともいふ、踰趾上面毛のある所)の上に起り、足跗の上廉の内髁を去る事一寸を循る。

髁に上る事八寸にして、交り太陰の後にいでて、臍の内廉に上る。股を循り陰中に入り、陰器を循り、小腹に抵りて、胃を挟み、肝に屬し、膽を絡ふ。

上りて頰額(頰は咽、額は額)に入る。目系(目の深き處の脈)に連り、上りて額にいでて、督脈と與ともに巔いたたまに會す。

其の支なる者は、目系(目の深き所の脈)より頰裏に下りて、唇内に還る、其の支なる者は復肝またかんより別れて膈を貫き、上りて肺に注ぐ。

十三、督脈

督脈は、下極の兪(尾骨骨尖端長強から始まるの意)に起り、脊裏(軀幹の背面)に並び上りて、風府に至り、腦に入り。巔(嶺)に上り、額を循り、鼻柱に至る。

陽脈の海に屬す。

註釋。陽脈の海とは、陽經を綜括するとの意。

備考。經脈は大體に於て

(イ)末梢神經の徑路に一致する所が相當多い。

(ロ)動、靜脈と一致する所が相當にある。

(ハ)ヘッド氏帶の最高知覺過敏點に一致するものも少くはない。

(ニ)疾病の時、感覺異常を現す部位が多い。

十四、任脈

任脈は、中極の下に起り以て毛際(恥骨弓上縁)に上り、腹裏を循り、關元(關元)に上り、喉嚨に至る。陰脈の海に屬するなり。

註釋。任脈は、陰經を綜括するものである。

備考二。奇經八脈

註釋。營衛は、以上の十二經を循つて、尙餘りある時は、奇經を循る。

(一)督脈。十四經略解前記(十三)、及び六二二頁の十三を見よ。

(二)任脈。十四經略解前記(十四)、及び本頁六行目を頁の十四を見よ。

(三)陽蹻脈。は、跟中に起つて、外髁を循り、上行して風池に入る。

(四)陰蹻脈。は、是も跟中に起り、内髀を循りて、上行して咽喉に至り、衝脈に交り貫く、脈氣の發する所は照海である。

(五)衝脈。は、任脈と共に胞中に起り、脊裏を循つて後、其の外に浮ぶ者は腹を循りて、上行して咽喉に會す、別れて唇口に絡ふ。

故に曰く、衝脈は氣衝に起つて、足の少陰の經に並び、臍を出で上行して胸中に至つて散ず、と。

(六)陽維脈。は、諸陽脈の會する所に起る、其の脈氣の發する所は金門である。其の督脈と會する所は、風府及び瘡門である。

(七)陰維脈。は、其脈諸陰の交はる所に起る。其脈氣の發する所は築賓である。其任脈と會する所は天突と廉泉である。

(八)帶脈。は、季脇に起つて帶の如く身を廻る。其の脈氣發する所は即ち帶脈(經穴)である。以上の奇經八脈の詳細は、

李時珍氏の本草綱目の奇經考篇と、張介賓氏の類經圖翼とを參考して併せ考へなければならぬ。余は爰に初學者の爲にたゞその概念丈を記したにすぎぬ。學者は上記の原著によつて研究されたい。

備考三。一、奇經八脈には、任脈、督脈にだけ專屬の穴がある。

二、其の他の六脈は、十四經中の穴を歴絡するものである。

三、故に專屬せる穴のある、任脈、督脈の穴所を、正穴中に加へたものである。

備考四。一、經穴とは、經脈の循環する所(即ち經絡)の要所に鍼灸すべき點を定めたもので、純粹の皇漢醫學である。

二、現今では皇漢醫學が時代の西洋醫學と接觸して、本書第四編の如く鍼科學、灸科學として稍々面目を齊へんとしてゐる。

三、此の經穴を、何病に何々の穴等を應用して、鍼何分何寸、灸柱は大か小か及び艾何壯を用ひて、治療すべきかは、

鍼灸科學を反復熟讀して後、更らに第七編病理學の部を精讀せられたい。

備考五。「奇經の名稱」「昭九年秋千葉」

### 第一章 經穴暗記の歌

註。下記の歌を詩吟のごとく、又は好きな調子、リズムで朗吟して記憶すると、穴名をよく覺るものである。穴名を暗記すれば、自ら脈道と穴とが明かになる。暗記ばかりでなく、大ひに理解を助けるものである。

一、手の太陰肺經

雲門、中府、天府に列る。俠白、尺澤、孔最存す。  
列缺、經渠、大淵に涉り、魚際、少商、非の葉の如し。

二、手の陽明大腸經

商陽、二間、三間、合谷に藏る。陽谿、偏歷、溫溜を經、下廉、上廉、三里長し。  
曲池、肘髎、五里を迎へ、臂臑、肩髃、巨骨に當る、天鼎、  
扶突、禾膠に接り、終りに迎香を以て二十穴。

三、足の陽明胃經

承泣、四白、巨膠經る。地倉、大迎、頰車峠つ、下關、頭維、人迎に對す。  
水突、氣舍、缺盆連りて、氣戶、庫房、屋翳屯す。膺窓、乳中、乳根に延び、  
不容、承滿、梁門起つ、關門、大乙、滑肉門、天樞、外陵、太巨に在す。水道、歸來、氣衝に次ぐ、  
脾關、伏兔、陰市に走り、梁丘、犢鼻、足の三里、巨虛上廉、條口の位に連り、巨虛下廉は與に豐隆に  
及ぶ、

解谿、衝陽、陷谷の中、内庭、厲兌終穴にをはる。

四、足の太陰脾經

陰白、大都、大白に従ふ。公孫、商丘、三陰交、漏谷、地機、陰陵泉拗し、  
血海、箕門、衝門開く、府舍、腹結、大横横はる。  
腹哀、食竇、天谿に接し、胸鄉、周榮、大包隨ふ。

五、手の少陰心經

極泉、青靈、少海深し、靈道、通里、陰郄迷ふ、  
神門の少府。少衝を尋ねて九穴に終る、

六、手の太陽小腸經

少澤、前谷、後谿合す。腕骨、陽谷、養老すべし。支正、小海、肩貞を伴ふ。  
臑俞、天宗、秉風、曲垣、肩外俞、肩中の俞、天窓、天容、額髎に上り聽宮を拜す。

七、足の太陽膀胱經

晴明、橫竹、曲差に參る、五處、承光、通天に上り、絡却、玉枕、天柱崩し、

大杼、風門、肺俞に引く、厥陰俞、心俞、膈の俞、上下を隔つ、肝の俞、膽の俞、脾の俞に續く、胃の俞、三焦俞、腎の俞中る、大腸俞、小腸俞、膀胱の俞、中脘内俞、白環俞に輸す。

大杼より白環に至るは、脊中を挟む事三寸、上膠、次膠、中膠、復下膠、會陽、承扶、殷門につく、浮郛、委陽、委中の間、腓内脊を挟んで附分當る、太陽背を行く第三行、魄戶、膏肓、神堂と譚諱、膈關を隔つ、魂門、陽網、意舍、胃倉に乃る。育門、志室、胞の育、二十椎の下に秩邊あり。委中以下合陽之也、承筋、承山に下る飛陽、附陽、崑崙に泊り、僕參、申脈、金門に連り、京骨、束骨、通谷、小趾外側、至陰に至つて六十三穴をはる。

八、足の少陰腎經

湧泉、然谷、大谿溢る。大鐘、照海、水泉に沈み、復溜、交信、築賓に至る。陰谷、横骨、大赫明か也、氣穴、四滿中注に注ぐ、育俞、商曲、石關の關、陰都、通穀、幽門開く、步廊、神封、靈墟の位、神藏、或中、俞府、少陰腎經了る。

九、手の厥陰心包經

天池、天泉、曲澤深し、郄門の間使、内關に對す。

大陵、勞宮、中衝に至る。

十、手の少陽三焦經

關衝、腋門、中渚の傍ら、陽池、外關、支溝會す、會宗、三陽絡、四瀆、天井に合して清冷淵に去る。消灑、臑會、肩髃、偏に天膠、天牖、翳風、瘰癧續く、顛息、角孫、耳門をくゞり、和膠を経て絲竹空に昇るは手の少陽三焦の經。

十一、足の少陽膽經

瞳子膠行く事超々聽會、容主人、頷厭集る。懸顛、懸釐、曲鬢崩し、卒谷、天衝、浮白つく、竅陰、完骨、本神の社、陽白、臨泣、目窓の窓、正營、承靈、腦空と、風池、肩井、淵腋は長し、輒筋、日月、京門立つ、帶脈、五樞、維道の道、居膠、環跳、中瀆に至る、陽關、陽陵泉又陽交、外丘、光明、陽輔の鋪、懸鐘と接し丘墟、臨泣に泣いて地五會の夾谿は竅陰となる。

十二、足の厥陰肝經

大敦、行间、大衝を衝く、中封、蠡溝、中都、都、膝關、曲泉、陰包を包む、五里、陰廉は章門と期門を開いて厥陰肝經をはる。

十三、督脈經

長強に初り腰俞、陽關、命門に循る。懸樞、脊中、筋縮に至り、至陽、靈臺、神道つぐ、身柱、陶道、大椎の俞、瘻門、風府、腦戸に連り、強間、後頂、百會の前、前頂、額會、上星圓し、神底、素膠、水溝の裏、兌端、顴交こゝに止む。

十四、任脈經

會陰に起り曲骨、中極、關元を経て、石門、氣海、陰交交る。神闕、水分、下脘、建里にめぐり、中脘、上脘、巨闕したがふ、鳩尾、中庭、臚中に上る、玉堂、紫宮、華蓋、璇璣ひらめき、天突、廉泉を経て、承漿をうく。

身體各部位による經穴

凡 例

⊗の符號は………文部省選定新孔穴。

□の符號は………禁灸穴。

△の符號は………禁鍼穴。 □の符號は………禁鍼禁灸穴。

腦頭蓋之部

△⊗神庭。鼻根直上、前頭部髮際。前頭動脈、同靜脈、前頭神經、三叉神經分枝。

上星。神庭の後(即ち上方)一寸。筋、神經、動脈同前。

△⊗額會。前髮際を入る事二寸。帽狀腱膜中、淺額動脈前枝、上眼窩神經、同名動脈、前頭神經。

前頂。前髮際を入る事三寸五分。其他同前。

⊗百會。前髮際を入る事五寸。頭部頂上、左右耳角の結合線と矢狀縫合との交叉部、帽狀腱膜中、後頭動脈、大後頭神經、上眼窩動脈、上眼窩神經。

⊗後頂。百會の後一寸五分。帽狀腱膜中、後頭動脈、大後頭神經。

強間。後頂の後一寸五分。後頭三角縫合部の下、其他同前。

△□⊗腦戶。強間の後一寸五分。後頭骨外後頭結節の上の陷中、其他同前。

□風府。外後頭結節の下方陷凹中、瘻門の上五分。左右俯筋縫間、其他同前。

□⊗橫竹。眉の内端より一分眉中に入る(即ち内眦の直上)。眼輪匝筋中、前頭動脈、前頭神經。

⊗曲差。内眦直上の髮際。神庭の傍一寸五分、前頭筋、前頭動脈、前頭神經。淺額動脈前枝、額面神經額前枝。

五處 曲差の上方、髮際を入る事一寸。帽狀腱膜中、其の他同前。

承光 五處の後方一寸五分。其の他同前。

通天 承光の後一寸五分。顳額動脈、後頭動脈、額面神經顳額枝、大後頭神經。

絡却 通天の後一寸五分。顳頂骨と後頭骨との縫合部、後頭筋停止部、後頭動脈、大後頭神經。

玉枕 絡却の後一寸五分後頭髮際を入る三寸。後頭骨上項線の中央陷凹部、頭夾板筋、動脈、神經同前。

陽白 眉上約五分。正座して瞳の直上一寸に捺る。前頭筋、上眼窠動脈、上眼窠神經。

臨泣 前髮際を入る事五分。陽白の直上。上眼窠動脈、上眼窠神經、額面神經。

目窓 臨泣の上一寸。帽狀腱膜中、前頭動脈、前頭神經、淺顳額動脈前枝、上眼窠神經。

正營 目窓の上一寸。其の他同前。

承靈 顳頂結節の上部、正營の後一寸五分。帽狀腱膜中、後頭動脈、大後頭神經。

腦空 承靈の後一寸五分。外後頭結節の外下側、即ち顳頂結節の後下側、其の他同前。

項部

瘧門 風府の下五分。後髮際を入る陷凹せる中。僧帽筋離開、後頭動脈、大後頭神經。

天柱 瘧門の兩傍、一寸三分。僧帽筋體の外縁、頭長筋、頭夾板筋、動脈、神經同前。

風池 腦空の直下の陷凹部。頭夾板筋中、後頭動脈、靜脈、大、小後頭神經、後頭下神經。

完骨 乳嘴突起尖端の後方陷中。胸鎖乳嘴筋停止部、耳後動脈、耳後神經。

顳額部附近

絲竹空 眉弓の外端より眉毛に入る事一分。前頭筋、眼輪匝筋、淺顳額動脈前枝、顳額神經。

本神 絲竹空の直上髮際を入る事三分。前頭筋、淺顳額動脈前枝、上眼窠動脈、三叉神經分枝。

瞳子髎 外眥を外へ去る事五分。眼輪匝筋、額骨眼窠動脈、額面神經の眼輪匝筋枝。

頭維 上關の直上、髮際を入る事四分。前頭筋部、淺顳額動脈の前枝、額面神經顳額枝、三叉神經の顳額神經。

額厭 額角、米嚙の上、懸顳の上一寸。顳額筋前線中、淺顳額動脈、神經同前。

懸顳 額厭の直下一寸、米嚙の正中。筋、動脈、神經同前。

懸釐 懸顳の直下一寸、米嚙の下縁。其の他同前。

備考。額厭、懸顳、懸釐の三穴は、米嚙即ち顳額筋中に、上、中、下と一直線にあつて、各一寸を隔つるものである。

曲鬢 耳の上の髮際、口を開けば空ある中。其の他同前。

率谷 耳上髮際の上一寸五分の處を前に行く事三分。顳額筋、淺顳額動脈の後枝、額面神經顳額枝。

天衝 耳の上髮際の上二寸處を後に六分。顳額筋、耳後動脈、顳額神經。

浮白 天衝の下一寸、耳後髮際を入る事一寸。乳嘴突起上部の後、耳後動脈、耳後神經。

⑤ 瘖陰。耳後髮際を入る事六分、浮白と完骨との中央。乳嘴突起の後上部、後頭筋停止部、後頭動脈、大後頭神經。

顔面部

△ 客主人。一名上關。顴骨突起弓根部の直上。耳前筋、横顔面動脈の分枝、顔面神経終枝、下眼窠神経分枝。

和膠。耳門の前上方、鋭髮の後。動脈手に應ず。耳前筋、淺顔面動脈、耳顔面神経。

耳門。耳前小辨の中央缺けたる中。耳前筋、耳前動脈、耳顔面神経。

△ 角孫。耳を前に折りて耳角の當る所、口を開いて壓へると凹む所。額筋、淺顔面動脈後枝、額面神経。

△ 顙息。一名顙顙。耳翼根の上部陷中。耳後筋、耳後動脈、耳後神経。

瘖脈。耳翼後部にて耳の孔と相對する部の骨陷中。其の他同前。

□ 素膠。鼻の尖端陷かなる中。鼻壓縮筋間、鼻背動脈、外鼻神経、顔面神経分枝。

⑤ 水溝。一名人中、鼻中隔下端と上唇との中央。口輪匝筋中、上唇動脈、三叉神経、顔面神経の分枝。

兌端。水溝の下、外皮と上唇唇紅部との中間。筋、神經、動脈同前。

顴交。上門齒の間上唇繫帯の正中。口輪匝筋、口冠狀動脈、顴面神経。

承漿。頤脣溝中央の陷凹中。方形顙筋、下唇動脈、下顎皮下神經、頤神經。

□ 睛明。内眥を去ること一分、陷中。内眼瞼複帶部、眼輪匝筋、内眥動脈、滑車上神經、顔面神経終枝。

□ 迎香。鼻孔の傍五分。鼻翼下繫筋、上唇動脈、下眼窠神経分枝、顔面神経分枝。

□ 禾髎。鼻孔の直下人中の兩傍五分。方形上唇筋、鼻翼下繫筋、上唇動脈、下眼窠神経の分枝、顔面神経分枝。

承泣。瞳子の直下五分。眼輪匝筋、下眼窠動脈、下眼窠神経、顔面神経の眼輪匝筋枝。

⑤ 四白。承泣の下五分。頬筋、下眼窠動脈、下眼窠神経、顔面神経頬筋枝。

⑤ 巨髎。鼻孔の傍八分。方形上唇筋、横顔面動脈、下眼窠神経の分枝、顔面神経分枝。

⑤ 地倉。口角の外側四分。口輪匝筋、上、下唇動脈、三叉神経末枝、顔面神経末枝。

□ 顴膠。顴骨最高部の直下。大顴骨筋、笑筋、横顔面動脈、下眼窠神経、顔面神経末枝。

□ 下關。上關の直下、顴骨弓の下。咬筋、外翼狀筋、横顔面動脈、三叉神経分枝、顔面神経額骨枝。

⑤ 大迎。下顎隅角の前一寸三分。咬筋附着の前縁、外顎動脈、下顎皮下神經、三叉神経分枝。

聽宮。耳前面中央の少し下、聽會の上方。耳前動脈、顔面神経、三叉神経の終枝。

⑤ 聽會。耳前の陷中、上關の下一寸。口を開けば空ある中。耳前動脈、淺顔面動脈、顔面神経分枝。三叉神経終枝。

⑤ 頰車。下顎隅角の少し前上方。咬筋の後縁、外顎動脈分枝、下顎皮下神經、三叉神経終枝。

頸部



廉泉。頤下に於て結喉の中央の上、即ち甲状軟骨隅角の直上。潤頸筋、上甲状腺動脈、上、下頸皮下神經。  
 天突。結喉の下四寸、胸骨頸截痕、左右胸鎖乳嘴筋間、潤頸筋下緣、上甲状腺動脈、下頸皮下神經。  
 人迎。結喉の兩傍一寸五分。上頸三角部、胸鎖乳嘴筋の前緣、潤頸筋中、總頸動脈、下頸皮下神經、迷走神經。

水突。人迎の直下、人迎と氣舍との中央。潤頸筋中、下甲状腺動脈、下頸皮下神經。

氣舍。天突の外方の陷中。胸鎖乳嘴筋の二頭間、下甲状腺動脈の分枝、下頸皮下神經、鎖骨下神經。

扶突。結喉の外方三寸。人迎の後方一寸五分。胸鎖乳嘴筋、胸鎖乳嘴筋動脈、同名神經、頸神經叢の分枝。

天鼎。扶突の下一寸。鎖骨上窩の上方、胸鎖乳嘴筋の後緣、横肩胛動脈、下頸皮下神經。

天容。天窻の上一寸。耳下腺部の直下、下顎隅角の後、胸鎖乳嘴筋停止部の前下方、後頭動脈、大耳神經。

翳風。耳翼根の後下部の陷中。耳後動脈、後頭動脈、顏面神經、大耳神經。

天缺。鎖骨上窩の中央陷中。肺尖部、前、中斜角筋、潤頸筋、鎖骨下動脈、膺神經叢。

天窓。天容の直下、人迎の併行部。胸鎖乳嘴筋中、胸鎖乳嘴筋動脈、胸鎖乳嘴筋神經、上、下頸皮下神經。

天牖。乳嘴突起の下部、天柱と天容との中間。頭夾板筋、後頭動脈分枝、小後頭神經、頸椎神經分枝。

胸部

璇璣。天突の下一寸。胸骨劍柄の中央、左右大胸筋の間、内乳動脈分枝、肋間神經前穿行枝。

華蓋。璇璣の下一寸。ルイズ角の正中、其他同前。(注意。以上二穴は各々一寸隔つ。)

紫宮。華蓋の下一寸六分。左右大胸筋の間、其他同前。

玉堂。紫宮の下一寸六分。其他同前。

中庭。玉堂の下一寸六分。兩乳の中央、其他同前。(注意。左右乳嚙の中間である。)

中府。中庭の下一寸六分。其他同前。(注意。以上四穴は各々一寸六分を隔つ。)

中府。鎖骨の直下、璇璣を去る事二寸。鎖骨下筋、大胸筋、鎖骨下神經、鎖骨下動、靜脈、前胸廓神經、肋間神經。(注意。第一肋間で、第一肋骨の直下によせて中府をとり、第二肋骨の直上に或中をとる。)

中府。第一肋骨の下、神藏の上一寸六分。大胸筋、内、外肋間筋、前肋間動脈、前胸廓神經、肋間神經。

神藏。或中の中の下一寸六分。第二、三肋骨間、其他同前。

靈墟。第三、四肋骨間、神封の上一寸六分。大、小胸筋、前肋間動脈、肋間神經、前胸廓神經。

神封。第四、五肋骨間、中府を左右に去る事二寸、其他同前。

步廊。第五肋間、神封の下一寸六分。直腹筋起始部、内、外肋間筋、肋間動脈、内乳動脈、肋間神經、前胸廓神經。

氣戶。鎖骨の直下、正中線を左右に去る事各四寸の所。大胸筋、内外肋間筋、肋間動脈、其他同前。

庫房。氣戶の下一寸六分、第一肋間。其他同前。

(注意。第一肋間で第一肋骨の直下によせて氣戶をとり、第二肋骨の直上に庫房をとる。)

⊗屋翳 庫房の下一寸六分、第二肋間。大、小胸筋、前胸廓神經、肋間神經、内乳動脈分枝。

⊗膺窓 屋翳の下一寸六分、第三肋間。其他同前。

△乳中 乳頭の正中、其他同前。(注意。俗にいふ、乳嘴のまんなかである)。

⊗乳根 第五肋間、乳中の下一寸六分。他は同前。

△雲門 璇璣の兩傍六寸。肩胛骨鳥喙突起の下部、大胸三角筋窩の外端、腋窩動脈分枝、長胸神經、肋間神經。

⊗中府 雲門の下一寸。前胸壁上外端、大、小胸筋、腋窩動脈分枝、肋間神經側穿行枝、長胸神經分枝。

⊗周榮 第二肋間、中府の下一寸六分。小胸筋、内、外肋間筋、前大鋸筋、長胸動脈、長胸神經、肋間神經側穿行枝。

⊗胸鄉 第三肋間、周榮の下一寸六分。正中線を去る事六寸、内外肋間筋、前大鋸筋、其他動脈、神經同前。

備考。胸部肋骨間に於ける、各穴の間隔一寸六分といふは、古法による一種の表穴法であつて、絶對的のものではない。實地上、各々肋間、即ち各肋骨の中央に取穴する。

天谿 第四肋間、中府の下四寸八分。其他同前。

食竅 第五肋間、天谿の下。其他同前。

天池 乳中と天谿との間、第四肋間。大胸筋、前大鋸筋、肋間筋、肋間動脈、長胸動脈、肋間神經側穿行枝。

備考。極泉の下三寸、第四肋間。前大鋸筋、内外肋間筋、動脈神經同前。腋筋の後方、側胸部第四肋間。前大鋸筋、肋間筋、長胸動脈肋間動脈、長胸神經、肋間神經側穿行枝。

大包 淵腋の下三寸、側胸部第六肋間。其他同前。(注意。長胸神經は一名側胸廓神經である)。

極泉 腋窩横紋の前端より約五分腋窩に入る。前大鋸筋と二頭膊筋短頭との間、腋窩動脈、肩峰動脈分枝、長胸神經、第一肋間神經分枝。

天谿以下大包までの各穴は、初心者が下手に刺鍼すると、肋間神經痛を誘發する事があるから、初學者は注意せねばならぬ。

腹部

備考。一、腹部、各穴上下の隔りは、例外一、二を除く他は、各々一寸宛である。

二、左右各穴の隔りは、正中線、即ち白條の兩傍五分の處と、二寸の處と、その次は四寸で稍々散在性である。

△鳩尾 胸骨劍尖の下五分。白條起始部、上腹壁動脈。肋間神經前穿行枝。

⊗巨闕 臍の上六寸。白條線中其他同前。

⊗上腕 臍の上五寸。胃部其他同前。

⊗中腕 臍の上四寸。深部は横行結腸部、其他同前。

⑤建里。臍の上三寸。劍尖の下五寸、白條線中、動脈神經同前。

⑥下腕。臍の上二寸。其他同前。

△水分。臍の上一寸。中腹部、其他同前。

△神關。臍の正中。上、下腹壁動脈、肋間神經前穿行枝。

注意。以上各穴は、腹部正中線で、各々一寸宛の間隔であるから、初心者にも、わかり易い。

交。臍の下一寸、白條線中、下腹壁動脈、腸骨下腹神經、小腸部。

氣海。臍の下一寸五分。其他同前。

備考。氣海丈け、上の穴との間が五分である。此の點注意を要する。

□石門。臍の下二寸、其他同前。(注意。女子に灸すれば不妊となるといふ)。

⑦關元。臍の下三寸。其他同前。

(注意。氣海、石門、關元の三穴は何れも一名を丹田といふ)。

中極。臍の下四寸。恥骨軟骨接合上際の上、白條線中、下腹壁動脈、腸骨下腹神經、腸骨鼠蹊神經。

曲骨。中極の下一寸。白條停止部、三稜腹筋中、下腹壁動脈、腸骨下腹神經、腸骨鼠蹊神經。

△會陰。會陰部の中央。淺、深會陰筋、外痔動脈、會陰動脈、會陰神經。

⑧幽門。臍の傍五分の處を上る事六寸。巨關の兩傍五分、直腹筋、上腹壁動脈、肋間神經前穿行枝。

⑨通穀。上腕の兩傍五分、肱門の下一寸。其他同前。

⑩陰都。中腕の兩傍五分、通穀の下一寸。其他同前。

⑪石關。建里の兩傍五分、陰都の下一寸。其他同前。

⑫商曲。臍の傍五分の處を上る事二寸。同前。

⑬盲俞。臍の兩傍五分。直腹筋、上、下腹壁動脈、肋間神經前穿行枝。

中注。盲俞の下一寸。直腹筋、下腹壁動脈、神經同前。

⑭四滿。盲俞の下二寸、石門の兩傍五分。直腹筋、下腹壁動脈、腸骨下腹神經。

氣穴。盲俞の下三寸、關元の兩傍五分。直腹筋、其他同前。

⑮大赫。盲俞の下四寸、中極の兩傍五分。直腹筋下端、下腹壁動脈、腸骨鼠蹊神經。

△橫骨。盲俞の下五寸、曲骨の兩傍五分。内外斜腹筋、橫腹筋、淺廻旋腸骨動脈、腸骨鼠蹊神經。

⑯不容。第八肋軟骨下際、白條の兩傍二寸。天樞の直上六寸、直腹筋外縁、上腹壁動脈、肋間神經前穿行枝。

⑰承滿。不容の下一寸、上腕の兩傍二寸。其他同前。

⑱梁門。不容の下二寸、中腕の兩傍二寸。其他同前。

⑲關門。不容の下三寸、建里の兩傍二寸。其他同前。

⑳大乙。不容の下四寸、下腕の兩傍二寸。其他同前。

滑肉門。不容の下五寸、水分の兩傍二寸。其他同前。(註、上腹部正中線は上下の穴の間、各々一寸を隔つ)。

天樞 臍の正中神闕を去る事二寸。其の他同前、但し動脈は上、下腹壁動脈吻合部。  
 外陵 天樞の下一寸。直腹筋外縁、下腹壁動脈、肋間神経前穿行枝、腸骨下腹神経。  
 大巨 天樞の下二寸、石門の兩傍二寸。直腹筋外縁、下腹壁動脈、腸骨下腹神経。  
 水道 天樞の下三寸、關元の兩傍二寸。其の他同前。  
 歸來 天樞の下四寸、中極の兩傍二寸。直腹筋、下腹壁動脈、腸骨下腹神経、腸骨鼠蹊神経。  
 △氣衝 歸來の外下方一寸。股動脈部、プーパルト氏靱帯中央の上、淺廻旋腸骨動脈、腸骨鼠蹊神経。  
 期門 承滿の傍一寸五分、乳頭の直下の骨のはづれ。肋間神経、肋間動脈、上腹壁動脈、横腹筋、内外斜腹筋。  
 日月 第九肋骨尖端の下方、期門の直下五分。内外斜腹筋、横腹筋、肋間動脈、肋間神経側穿行枝。  
 腹哀 中腕の傍各四寸。内、外斜腹筋、横腹筋、上腹壁動脈、肋間神経側穿行枝。  
 大横 臍を兩傍に去る事四寸。筋は同前、淺腹壁動脈分枝、下腹壁動脈、腰動脈、腸骨下腹神経。  
 腹結 大横の下一寸三分、其の他同前。  
 府舍 大横を下る事四寸三分。恥骨地平枝の上部、内斜腹筋中、淺腹壁動脈分枝、腸骨下腹神経、腸骨鼠蹊神経。  
 衝門 大横を下る事五寸。府舍の下一寸、内、外斜腹筋の臑部、下腹壁動脈分枝、腸骨鼠蹊神経。  
 章門 第十一肋軟骨尖端。内、外斜腹筋、横腹筋、肋間動脈分枝、肋間神経側穿行枝。

京門 第十二肋軟骨の尖端。内、外斜腹筋、横腹筋、淵背筋、後肋間動脈、肋間神経側穿行枝。  
 帶脈 第十一肋軟骨尖端の下一寸八分。其の他同前。  
 五樞 帶脈の下三寸。腸骨前上棘の上部、内、外斜腹筋、横腹筋、廻旋腸骨動脈、腰動脈、腸骨下腹神経。  
 維道 五樞の下五分。筋、神經は同前、動脈腰動脈の分枝。  
 居膠 維道の下を斜に内方に三寸。其の他同前。

肩背の部

肩井 鎖骨と肩胛棘との中間。僧帽筋前縁、棘上筋、横肩胛動脈、副神経、肩胛上神経。  
 天膠 肩井の後下方一寸。肩胛棘の稍々中央の前上縁、其の他同前。  
 曲垣 天膠の後方一寸。肩胛棘の上中央、棘上窩、僧帽筋、棘上筋、横肩胛動脈、副神経、肩胛上神経。  
 肩外 第一胸椎棘状突起の外方三寸。僧帽筋、菱形筋、後上鋸筋、横頸動脈、副神経、後胸廓神経、背椎神經後枝。  
 肩中 第七頸椎棘状突起外方二寸。其の他同前。  
 臑俞 腋窩横紋後端の上方、肩峰突起の後下際、肩貞と秉風との稍々中央。棘下筋、僧帽筋、肩胛動脈、肩胛下神経。  
 天宗 臑俞より二寸内下方。其の他同前。

乘風。肩胛棘外端の下内隅、天宗から約二寸の上方で。曲垣の外方、其の他同前。

巨骨。鎖骨外端の後部陷中、雲門の後上方。三角筋、起始部、肩峰動脈分枝、肩胛上神経。

肩髃。肩端で凹む所、肩峰突起と鎖骨の關節部。上肢を舉げると肩の外端で凹む所、三角筋、前廻旋上膊動脈、腋窩神経、肩胛上神経。

肩髃。肩峰突起の後下部、肩髃と臑兪との中間。大圓筋の上外端、後廻旋上膊動脈、腋窩神経、肩胛上神経。

肩髃。肩髃の後部、肩峰突起と上膊骨との關節部の後面。三角筋、小圓筋、棘下筋、後廻旋上膊動脈、肩胛下神経、腋窩神経。

大椎。第一胸椎の上。第七頸椎と第一胸椎棘状突起の間、僧帽筋間、棘筋中、横頸動脈分枝、背椎神經後枝。

陶道。第一胸椎棘状突起の下、即ち第一、二胸椎棘状突起間。其の他同前。

身柱。第三胸椎棘状突起の下、即ち第三、四胸椎棘状突起間。僧帽筋間、棘筋中、後肋間動脈の背枝、背椎神經後枝。

神道。第五胸椎棘状突起の下、即ち第五、六胸椎棘状突起間。其の他同前。

靈臺。第六胸椎棘状突起の下、即ち第六、七胸椎棘状突起間。僧帽筋間、棘筋中、後肋間動脈の背枝、背椎神經後枝。

至陽。第七胸椎棘状突起の下、即ち第七、八胸椎棘状突起間。左右僧帽筋間、棘筋中、後肋間動脈の背枝、背椎神經後枝。

背椎神經後枝。

筋縮。第九胸椎棘状突起の下、即ち第九、十胸椎棘状突起間。其の他同前。

中樞。第十胸椎棘状突起尖端の下、即ち第十、十一胸椎棘状突起間。左右鷹骨脊柱筋間、潤背筋の間、棘筋、胸椎神經後枝、後肋間動脈背枝。

脊中。第十一胸椎棘状突起尖端の下、即ち第十一、十二胸椎棘状突起間。其の他同前。

大杼。第一胸椎棘状突起の尖端の兩傍一寸五分。即ち第一、二胸椎横突起間、脊椎を去る左右各一寸五分。僧帽筋、菱形筋、後上鋸筋、肩胛背動脈、副神經、後胸廓神經、脊椎神經後枝。

風門。第二胸椎棘状突起の尖端の兩傍一寸五分。即ち第二、三胸椎横突起間、脊椎を去る事各一寸五分。其の他同前。

肺兪。第三胸椎棘状突起の尖端の兩傍一寸五分。即ち第三、四胸椎横突起間、脊椎を去る事各一寸五分。其の他同前。

厥陰兪。第四胸椎棘状突起の尖端の兩傍一寸五分。即ち第四、五胸椎横突起間、脊椎を去る事各一寸五分。其の他同前。

心兪。第五胸椎棘状突起の尖端の兩傍一寸五分。即ち第五、六胸椎横突起間、脊椎を左右に去る事各一寸五分。僧帽筋、後上鋸筋、後肋間動脈背枝、副神經、後胸廓神經、脊椎神經後枝、横頸動脈下行枝。

膈兪。第七胸椎棘状突起の尖端の兩傍一寸五分。即ち第七、八胸椎横突起間。僧帽筋、後下鋸筋、後肋間動脈背枝、副神經、後胸廓神經、背椎神經後枝。

⑤肝俞。第九、胸椎棘狀突起の尖端の兩傍一寸五分。即ち第九、十胸椎横突起間、脊椎を去る事各一寸五分。

⑤膽俞。第十胸椎棘狀突起の尖端の兩傍一寸五分。即ち第十、十一胸椎横突起間。其の他同前。

⑤脾俞。第十一胸椎棘狀突起の尖端の兩傍一寸五分。即ち、第十一、第十二胸椎横突起間。其の他同前。

⑤胃俞。第十二胸椎棘狀突起の尖端の兩傍一寸五分。即ち第十二胸椎と第一腰椎の横突起間。同前。

⑤附分。第二胸椎棘狀突起の尖端の兩傍三寸。即ち第二、三胸椎横突起間の外方、脊椎を去る事各三寸。僧帽筋、菱形筋、後上鋸筋、肩胛動脈、横頭動脈、副神經、後胸廓神經、肋間神經、背椎神經後枝。

⑤魄戶。第三胸椎棘狀突起の尖端の兩傍三寸。即ち第三、四胸椎横突起間の外方。其の他同前。

⑤膏肓。第四胸椎棘狀突起の尖端の兩傍三寸。即ち第四、五胸椎横突起間の外方。其の他同前。

⑤神堂。第五胸椎棘狀突起の尖端の兩傍三寸。即ち第五、六胸椎横突起間の外方、兩傍三寸。僧帽筋、後下鋸筋、横頭動脈下行枝、後肋間動脈、副神經、肩胛背神經、肋間神經。

⑤譚諱。第六胸椎棘狀突起の尖端の兩傍三寸。即ち第六、七胸椎横突起間の外方。潤背筋、後下鋸筋、其の他同前。

⑤膈關。第七胸椎棘狀突起の尖端の兩傍三寸。即ち第七、八胸椎横突起間の外方。其の他同前。

⑤魄門。第九胸椎棘狀突起の尖端の兩傍三寸。即ち第九、十胸椎横突起間の外方。潤背筋後下鋸筋、後肋間動脈、肋間神經、背椎神經後枝。

⑤陽綱。第十胸椎棘狀突起の尖端の兩傍三寸。即ち第十、十一胸椎横突起間の外方。其の他同前。

⑤意舍。第十一胸椎棘狀突起の尖端の兩傍三寸。即ち第十一、十二胸椎横突起間の外方。脊椎の左右各三寸、其の他同前。

⑤胃倉。第十二胸椎棘狀突起の尖端の兩傍三寸。即ち第十二胸椎と第一腰椎横突起間の外方。其の他同前。

腰 椎 之 部

⑤懸樞。第一腰椎の棘狀突起の下。即ち第一、二腰椎棘狀突起間。腰背筋膜、左右薦骨脊柱筋間、腰動脈背枝、腰椎神經後枝。

⑤命門。第二腰椎棘狀突起の下、即ち第二、三腰椎棘狀突起間。腰背筋膜、左右薦骨脊柱筋間、棘筋中、腰動脈背枝、腰椎神經後枝。

⑤陽關。第四腰椎の下。即ち第四、五腰椎棘狀突起間、其の他同前。

⑤腰俞。第四薦骨椎假棘狀突起の下。即ち第四、五薦骨椎の癒着部、腰背筋膜、下臀動脈、薦骨神經後枝。

⑤長強。尾呂骨尖端の下、外肛門括約筋起始部、大臀筋、下痔動脈、尾呂骨神經、會陰神經。

⑤三焦俞。第一腰椎棘狀突起の下を、兩傍に去る事、各一寸五分。即ち第一、二腰椎横突起間、潤背筋、薦骨脊柱筋、腸腰筋、腰動脈背枝、腰椎神經後枝。

⑤腎俞。第二腰椎棘狀突起の下を、兩傍に去る事、各一寸五分。即ち第二、三腰椎横突起間、其の他同前。

⑤大腸俞。第四腰椎棘狀突起の下を、兩傍に去る事、一寸五分。即ち第四、五腰椎横突起間、其の他同前。

小腸俞

第一薦骨椎假棘狀突起の下。即ち第一、二薦骨假棘狀突起間の外方、兩傍一寸五分、腰背筋膜、大、中臀筋、上臀動脈、上臀神經、上臀皮下神經、薦骨神經後枝。

膀胱俞

第二薦骨椎假棘狀突起の下。即ち第二、三薦骨假棘狀突起間の外方、兩傍一寸五分、腰背筋膜、側薦骨動脈、薦骨神經後枝、上臀皮下神經。

中脊内俞

第三薦骨椎假棘狀突起の下。即ち第三、四薦骨假棘狀突起間、大、中臀筋、上臀動脈、上臀神經、薦骨神經後枝。

白環俞

第四薦骨椎假棘狀突起の下、左右一寸五分。即ち薦骨管裂孔の兩傍一寸五分、大臀筋、梨子狀筋、下臀動脈、下臀神經、薦骨神經後枝。

育門

第一腰椎棘狀突起の外方三寸。即ち第一、二腰椎棘突起間の外方、脊柱の兩傍三寸。淵背筋、薦骨脊柱筋、腰動脈背枝、腰椎神經後枝。

志室

第二腰椎棘突起の下。即ち第二、三腰椎棘突起外端の間、脊柱の兩傍三寸。腰背筋膜、神經、動脈同前。

胞育

第二薦骨假棘狀突起の下、兩傍三寸。即ち第二、三薦骨椎の間、兩傍三寸。大、中臀筋、上臀動脈、下臀神經、薦骨神經後枝、坐骨神經分枝。

秩邊

第三薦骨假棘狀突起の下、兩傍三寸。即ち第三、四薦骨假棘突起外端の間、其他同前。

上髎

第一後薦骨孔部、腰背筋膜、側薦骨動脈、薦骨神經後枝。(古書の所謂腰骨の下、第一空)。

次髎

第二後薦骨孔部、其他同前。(古書の所謂腰骨の下、第二空)。

中髎

第三後薦骨孔部、其他同前。(古書の腰骨の下、第三空)。

下髎

第四後薦骨孔部、其他同前。(古書の所謂腰骨の下、第四空)。

會陽

尾骨尖端を兩傍に去る事約五分。大臀筋起始部、下痔動脈、會陰神經、薦骨神經後枝。

上膊之部

臂臑

上膊の前外側、曲池の上七寸。三角筋停止部、後廻旋上膊動脈、撓骨神經、外膊皮下神經。

五里

曲池の上三寸。上膊の外側、二頭膊筋外筋溝、三頭膊筋外緣、撓骨副側動脈、外膊皮下神經。

肘髎

曲池の後上方一寸五分。膊撓骨筋起始部の上、三頭膊筋體の外側、返廻撓骨動脈、頭靜脈、外膊皮下神經。

天泉

腋窩横紋前端から曲澤を的に二寸下。二頭膊筋内筋溝中、上膊動脈、正中、尺骨神經、外膊皮下神經。

青靈

肘横紋内端の上三寸。二頭膊筋内筋溝、上膊動脈、正中神經、尺骨神經。

天府

腋窩横紋の前端より拇指側に下る事三寸。二頭膊筋、烏喙膊筋、上膊動脈、筋皮神經(外膊皮下神經)。

俠白

天府の下一寸、上膊骨前内側の中央。二頭膊筋内筋溝、上膊動脈、正中神經、外膊皮下神經。

肩髃

肩髃より天井を的に三寸の處。三角筋と三頭膊筋との間、後廻旋上膊動脈、後膊皮下神經、撓骨神經。

⑤消 深。上膊後面、三角筋停止部の下約一寸。螺旋狀溝部、三頭膊筋、後廻旋上膊動脈、後膊皮下神經、撓骨神經。

⑥清冷淵。消深の下二寸。鷹嘴突起尖端の上方、三頭膊筋中、下尺骨側副動脈、後膊皮下神經、撓骨神經。

⑦天井。尺骨鷹嘴突起の上一寸。小肘筋、三頭膊筋中、肘關節動脈網、後膊皮下神經、撓骨神經筋枝。

肘關節部

⑧曲池。肘窩横紋の外端。膊撓骨筋起始部、返廻撓骨動脈、外膊皮下神經、撓骨神經。

⑨尺澤。肘窩横紋の稍々尺側、動脈を感じる部。二頭膊筋腱の小指側、肘關節動脈網、正中神經、外膊皮下神經。

曲澤。肘窩横紋で尺澤と小海との中間。二頭膊筋腱の下端、内膊筋内側、深屈指筋、上膊動脈、尺骨神經分枝、正中神經。

少海。肘窩横紋内端。即ち小指側、内膊筋停止部、返廻尺骨動脈、尺骨神經、内膊皮下神經。

小海。尺骨鷹嘴突起を小指側に去る五分陷中。尺骨神經溝、内尺骨筋起始部、下尺側副動脈、尺骨神經。

備考。肘關節部の經穴は外側、拇指側より數へて以上五穴である。

前膊部

孔最。尺澤より拇指に向つて下る事三寸。膊撓骨筋内側、長屈指筋、廻前圓筋停止部、撓骨動脈、撓骨神經。

□經渠。撓骨莖狀突起内側、腕横紋の上一寸。廻前方筋、撓骨動脈、撓骨神經。

郄門。前膊前面の正中、腕横紋の上五寸。内撓骨筋と長掌筋との間、前骨間動脈、前骨間神經。

間使。掌側腕横紋の上三寸。其の他同前。

内關。掌側腕横紋の上二寸。間使の下一寸、其の他同前。

靈道。掌側腕横紋の小指側の上一寸五分。内尺骨筋腱の撓骨側、廻前方筋中、尺骨動脈、尺骨神經。

通里。掌側腕横紋の上一寸。神門の上一寸、其の他同前。

陰郄。掌側腕横紋の上五分。其の他同前。

⑩三里。曲池の下方二寸。膊撓骨筋と長外撓骨筋の間、廻前圓筋、撓骨動脈分枝、撓骨神經、外膊皮下神經。

⑪上廉。三里の下一寸。膊撓骨筋と長外撓骨筋の間、撓骨神經、外膊皮下神經、撓骨動脈分枝。

⑫下廉。三里の下二寸。其の他同前。

⑬溫溜。腕後五寸。其の他同前。

⑭偏歷。腕横紋の上方二寸。其の他同前。

⑮四瀆。前膊後面の正中。腕後五寸、總指伸筋と固有小指伸筋との間、骨間動脈、撓骨神經後枝。



△三陽絡

腕後四寸。尺骨莖狀突起の直上、總指伸筋と外尺骨筋との間、後骨間動脈、撓骨神經後枝、後下膊皮下神經。

會宗

支溝より撓骨側に一寸。(會宗は拇指側、支溝は小指側)、總指伸筋、後骨間動脈、撓骨神經分枝、外膊皮下神經。

⊗支溝

腕後三寸、三陽絡の下一寸。總指伸筋、後骨間動脈、撓骨神經、外膊皮下神經。

外關

腕後二寸。長外撓骨筋、後骨間動脈、撓骨神經、後下膊皮下神經。

支正

腕後五寸。尺骨後内側中央部、外尺骨筋、前骨間動脈、尺骨動脈分枝、尺骨神經。

養老

腕後一寸。尺骨莖狀突起直上、外尺骨筋、腕骨背側動脈、尺骨動脈分枝、尺骨神經。

列缺

腕横紋の外側、上方一寸五分。内撓骨筋、撓骨莖狀突起の上内側、長屈拇筋外頭、撓骨動脈、撓骨神經。

腕關節之部 (昭十五年十月京都)

大淵

撓腕關節部、内撓骨筋、腕關節動脈網。

大陵

腕關節横紋の中央。廻前方筋下縁、横腕骨靱帯部、腕關節動脈網、尺骨神經分枝、正中神經。

神門

掌面腕横紋の小指側。内尺骨筋停止部、尺骨動脈分枝、尺骨神經分枝。

陽谷

手の背側(小指側)腕骨と尺骨莖狀突起の間。固有小指伸筋内部、腕骨背側動脈、尺骨神經末枝。

□陽池

腕骨と尺骨との關節部。陽谷と陽谷の稍中央、總指伸筋、腕骨背側動脈網、尺骨神經分枝。

陽谿

第一掌骨背面の上。撓腕關節背面、短伸拇筋、長伸拇筋、撓骨動脈分枝、撓骨神經。

手之部

□魚際

第一掌骨の後(上方)と舟状骨との關節部の外角。外轉拇筋停止部、指背動脈、撓骨神經。

勞宮

手掌に於て中指と示指とを屈した兩指頭の間。拇指球の小指側、手掌腱膜、淺、深屈指筋、骨間筋中、淺掌動脈、正中神經、尺骨神經。

少府

環指と小指とを屈めて兩指頭の間を當る。勞宮と横に列ぶ、小指球の拇指側、手掌動脈、尺骨神經。

⊗合谷

第一掌骨と第二掌骨の接際の岐骨部。長伸拇筋、總指伸筋との間、骨間筋中、撓骨動脈、撓骨神經。

三間

第二掌骨と示指第一節との關節部の拇指側。背側骨間筋中、指掌動脈、撓骨神經。

中渚

小指と環指の間第一節の後。骨間筋の前端、指背動脈、尺骨神經。

腕骨

第五掌骨と鈎状骨との關節部。外轉小指筋、腕骨背側動脈、尺骨神經分枝。

後谿

小指第一節と第五掌骨との外側で關節の後。外轉小指筋、指背動脈、尺骨神經終枝。

□少商

拇指外側爪甲を去る事一分。長屈拇筋の腱と長伸拇筋との間、指掌動脈、撓骨神經末枝。

商陽。示指の拇指側爪甲を去る事一分。固有示指伸筋と同屈筋の間、指掌動脈、正中神經淺枝、撓骨神經淺枝。

二間。示指第一節と第二節との關節部の拇指側。總指伸筋腱の外側、指背動脈、撓骨神經皮枝。

中衝。中指背面爪根の拇指側爪甲の角を去る事一分。總指伸筋腱の附着部。指掌動脈、正中神經の末枝。

關衝。環指爪根の小指側、爪甲の角を去る事一分。其の他同前。

腋門。環指第一節の根部。即ち背面にて第四指と第五指との間、總指伸筋腱部、指背動脈、尺骨神經。

少衝。小指外側爪甲を去る事一分。指背動脈、尺骨神經末枝、總指伸筋停止部。

前谷。第五指骨第一節の前内部。第一節の前内部、短小指屈筋、指背動脈、尺骨神經末枝。

少澤。小指内側爪甲の角を去る事一分。總指伸筋停止部、指背動脈、尺骨神經末枝。

大 腿 之 部

⑤陰廉。鼠蹊溝中央の直下、氣衝の二寸。長内轉股筋、内廻旋股動脈、閉鎖神經、内股皮下神經。

五里。大腿の内側、陰廉の下一寸。短内轉股筋、股動脈の分枝、閉鎖神經、内股皮下神經。

陰包。大腿骨内側の上四寸。薄股筋と大内轉股筋の間、股動脈の分枝、閉鎖神經、内股皮下神經。

△箕門。膝蓋骨内縁の上八寸。血海の上六寸、薄股筋と内大腿筋との間、閉鎖神經、内股皮下神經。

血海。膝蓋骨上内縁の上二寸。縫匠筋下部、内大腿筋中、膝關動脈分枝、閉鎖神經、内股皮下神經。

⑥中瀆。膝關窩横紋の外端より環跳を的に五寸上。大腿外側、股鞘、直股筋と外大腿筋の間、股動脈分枝、外股皮下神經。股神經筋枝。

□陽關。大腿骨上縁の直上陷凹中。外大腿筋外縁、上外膝關節動脈、股神經分枝。

髀關。膝蓋骨上縁の上方一尺二寸。腸骨前下棘の下外側、股鞘張筋、下臀動脈、下臀神經。

伏兔。大腿外側膝蓋骨上方六寸。外大腿筋、股動脈分枝、外股皮下神經、股神經の筋枝。

□陰市。膝蓋骨外縁の上方三寸。其の他同前。

梁丘。膝蓋骨外側の上方二寸。其の他同前。

⑦文承扶。坐骨下溝横紋の中央。半膜様筋、半腱様筋、坐骨神經隨行動脈、下臀神經、後股皮下神經、坐骨神經。

□殷門。承扶の下六寸。二頭股筋と半腱、半膜様筋の間、深在股動脈筋枝、坐骨神經、後股皮下神經。

膝 關 節 之 部

陰谷。膝關窩横紋内端。半膜様筋の前、薄股筋停止部、膝關動脈分枝、股神經、坐骨神經分枝。

委陽。膝關窩横紋の外端。腓腸筋外頭、二頭股筋の腱、膝關節動脈網、腓骨神經分枝。

浮郛。委陽の上一寸。二頭股筋外端、膝關動脈の分枝、坐骨神經分枝。

□委中。膝關窩横紋の中央。膝關筋、膝關動脈、脛骨神經。

膝眼。注意。(阿是穴也)膝蓋固有靭帯の兩側陷凹中。關節囊、腓骨神經、脛骨神經分枝、膝關節動脈網。

下 腿 之 部

積鼻。脛骨結節と腓骨小頭との中間。長總趾伸筋、膝關節動脈網、脛骨神經、腓骨神經。

⑤三里。外膝眼の下三寸。脛、腓骨間、長腓骨筋、前脛骨筋、前脛骨動脈、返廻脛骨動脈、淺、深腓骨神經。

巨虛上廉。(一名上巨虛、足の上廉)、三里の下三寸。長總趾伸筋、前脛骨筋、前脛骨動脈、前脛骨神經。

條口。三里の下五寸、其の他同前。

巨虛下廉。(一名下巨虛、足の下廉)條口の下一寸。其の他同前。

豐隆。下脛外髁の上八寸、下巨虛の後方約一寸。其の他同前。

⑤陽隆泉。膝の下一寸、外廉の陷中。腓骨小頭の後内部。長腓骨筋、長總趾伸筋起始部、下内膝關節動脈、腓骨神經分枝。

⑤陰陵泉。下脛内側、脛骨頭内緣の下。陽陵泉と内外相對す。比目魚筋、腓腸筋、脛骨動脈の分枝、脛骨神經の分枝。

陽交。陽陵泉の下三寸。長腓骨筋と腓腸筋の間、前脛骨動脈分枝。

外丘。陽光より腓骨側に五分。短腓骨筋、長總趾伸筋、前脛骨動脈、淺腓骨神經。

光明。下脛外髁の上五寸。長總趾伸筋と長腓骨筋の間、神經動脈同前。

陽輔。(一名絶骨)下脛外髁の上四寸を脛骨側に三分程の處。長總趾伸筋、其の他同前。

⑤懸鐘。(一名絶骨)外髁の上三寸。長、短腓骨筋の間、其の他同前。

⑤飛陽。下脛外髁の上七寸。腓腸筋、比目魚筋、前腓骨動脈、深腓骨神經。

附陽。外髁の直上三寸の少し後方。其の他同前。

合陽。膝關節窩中の下三寸。腓腸筋、後脛骨動脈、後脛骨神經(一名脛骨神經)

承筋。腓腸筋の正中、(コブラの最高部)。脛骨動脈、後脛骨神經。

承山。承筋の下方、アキリス腱より指で軽く壓上して指止まる所。其の他同前。

築賓。腓腸筋下垂部、復溜の下三寸。内髁の上五寸、動脈、神經同前。

復溜。内髁の後方五分の處の上二寸。後脛骨筋、長總趾屈筋、後脛骨動脈、淺腓骨神經。

交信。復溜の前五分。筋、神經、動脈、同前。

曲泉。膝關節窩横紋の内端の下方。半膜、半腱様筋停止部の前、下内膝關節動脈、脛骨神經、腓骨神經。

膝關。膝關節横紋の内端の直下、曲泉の直下。腓腸筋内頭、動脈、神經同前。

⑤陰陵泉。脛骨内關節窩の下際。比目魚筋と腓腸筋との間、脛骨動脈分枝、脛骨神經、陽陵泉と内外相對す。

地機。陰陵泉の直下。三陰交の上五寸、脛骨後内緣、比目魚筋、脛骨動脈分枝、脛骨神經、サフエナ神經。

漏谷。地機の下二寸。其の他は同前。

⑤三陰交。内髁の一握上、即ち内髁の上三寸。脛骨後内縁、長總趾屈筋、後脛骨動脈、脛骨神經、サフエナ神經。  
中都。内髁の上方七寸。脛骨面の陷中、比目魚筋、動脈、神經同前。  
蠡溝。内髁の上方五寸。其の他同前。

足 跗 之 部

中封。内髁の下一寸より前方に一寸陷凹中。第一楔状骨内側、前脛骨筋腱の跗趾側、前内髁動脈、深腓骨神經終枝。  
解谿。大衝の直上、商陽の後一寸半。横十字靭帯中、長總趾伸筋内側、前脛骨動脈、齶薇神經、淺腓骨神經。  
丘墟。外髁の直下を前方に一寸、稍々陷凹せる部。長總趾伸筋腱の小指側、前外髁動脈、腓骨神經。  
崑崙。外髁の後、跟骨上方の陷中。アキリス腱の外側、長總趾屈筋腱の外側、淺腓骨筋神經。  
僕參。跟骨の外側、崑崙の直下約一寸五分の陷中。外轉小趾筋、淺腓骨神經分枝。  
照海。内髁の直下一寸、之を壓せば空ある中。長屈跗筋、後脛骨動脈、後脛骨神經。  
⑤水泉。照海の後約一寸、照海と水平に接る。其の他同前。  
大鐘。内髁の後方、大谿の後上方の陷凹部。アキリス腱の内側、長總趾屈筋の前下縁、動脈、神經同前。

大谿。内髁の後下方五分、脈搏動する部。長屈跗筋、動脈、神經同前。  
商丘。内髁の下部を前にゆく事約五分の陷中。前脛骨筋腱の跗趾側、内髁動脈、脛骨神經末枝。

足 之 部

湧泉。趾を巻き屈むれば趾面に於て陷凹現はるゝ中。長屈跗筋腱の内側、長、短總趾屈筋、足趾動脈、足趾神經。  
然谷。下腿内髁の前、舟状骨と第一楔状骨との關節の下部。外轉跗筋、脛骨動脈分枝、内足趾神經。  
大白。第一趾骨内側尖端の下。外轉跗筋、足背動脈の分枝、淺腓骨神經。  
公孙。第一趾骨と第一楔状骨との關節部の内側。足背と足趾の境界部、外轉跗筋、短伸跗筋、神經、動脈同前。  
大衝。(一名太冲)、第一、二趾骨と第一楔状骨との關節部。長伸跗筋と總趾伸筋腱との間、足背動脈、深腓骨神經の終枝。  
大都。跗趾等一節内側の後、陷中。外轉跗筋停止部、趾背動脈、淺腓骨神經。  
衝陽。第二趾骨と第三趾骨との接際部の少し前、陷谷を去る事三分。背側骨間筋、足背動脈、淺腓骨神經。  
陷谷。第二、第三趾骨間腔前端。短總趾伸筋腱、背側骨間筋中、前脛骨動脈終枝、淺腓骨神經終枝。  
地五會。第四、五趾骨間の前端。背骨間筋中、長總趾伸筋、背骨間動脈、腓骨神經末枝。

- 申脈 外髁の少し下方、空現はるの部。外轉小趾筋上端、趾背動脈、外足趾神經。
- 金門 外髁の下約一寸、申脈の前部五分。外轉小趾筋、神經、血管同前。
- 京骨 第五趾骨後外側、膨大部の下。短小指屈筋、外轉小趾筋、足背動脈分枝、外足趾神經、淺腓骨神經。
- 束骨 第五趾骨と小趾第一節との關節部外側の前下部。外轉小趾筋、趾背動脈、淺腓骨神經末枝。
- 陰白 躡趾の内側爪甲の角の上一分。外轉躡筋の腱中、趾背動脈、淺腓骨神經末枝。
- 大敦 躡趾外側爪甲を去る事一分。長、短伸躡筋附着部、趾背動脈、淺腓骨神經末枝。
- 行間 躡趾と第二趾との趾の股の部。長伸躡筋と總趾伸筋との腱の間、背骨間動脈、深腓骨神經の終枝。
- 內庭 第二趾と第三趾の岐れる部。背骨間動脈、淺腓骨神經末枝。
- 厲兌 第二趾外側、爪甲の角を去る事一分。長總趾筋附着の外縁、趾背動脈、淺腓骨神經。
- 夾谿 第四趾第一節の前方、臨泣を去る事一寸五分の陷中。長總趾伸筋附着の外縁、趾背動脈、脛骨神經。
- 竅陰 第四趾外側爪根部。其他同前。
- 臨泣 外髁の直下を前方に一寸。第四第五、趾骨聯接部の上、長總趾伸筋腱の小指側、前外髁動脈、脛骨神經。
- 通谷 小趾第一節前外側。長總趾伸筋の外縁、趾背動脈、淺腓骨神經。
- 至陰 小趾外側爪甲の角を去る事一分。其他同前。

注意。十四經の各穴はこれら全部である。

又古學としての十四經の詳細は當出版物より續刻發行せる『假名付繪入訓釋十四經發揮』を讀むがよい。

十四經の經穴の全部の系統は、經穴暗記の歌の通りである。

熱心な勉學者は、自ら歌の通り十四經に配列して筆記せよ。

以上經穴の疾病治療上の應用は六〇六頁で述べたように、

(一) 經脈分佈の領域に現はれる病的現象。

(二) ヘッド氏帶の出現。

(三) 鍼灸科學理論。

(四) 生理、解剖學的關係。

(五) 鍼灸病理學(實は治療學)等より、考察すればよい。(一層詳細に知らんとせば著者の別著「經穴學」を參照せられたい)

### 備考一。新孔穴の排列

註。文部省囑託改正經穴調査委員(富士川游、大澤岳太郎、吉田弘道、富岡兵吉、町田則文、三宅秀氏)が調査して、經穴の數を多きにすぎるとして減少した時の報告書(大正二年)の要旨は、

經穴は鍼科の重要なものである、その説く所によると氣血が貫通する道を経路といふ、經路が臟腑から出で、手足、腹

背に循環するに當つて、出づる所、入る所、流る所、注ぐ所に一定の點を定めて孔穴といふ。

現今鍼科といふもの、滑伯仁の十四經を採用して金科玉條としてゐるが、十四經の流通によると、數穴相接する所は混錯し易い。故に今孔穴の名稱を頭、額、胸、腹、背、上肢、下肢等に分類して經絡につながるの説を廢し、經穴の稱を改めて孔穴の古に復した。(中略)

六百六十穴(左右合せて)の中、身體局所の關係から考へて、左程重要でないと思ふものを省いて百二十穴を決定した。但し身體の正中線以外は、孔穴は左右にあるから、名稱は百廿穴で孔穴の數は左右合せて二百廿二穴となる。(文部省報告から)

但し關東地方では此の孔穴によつて檢定試驗が行はれてゐる所もある。文部省撰定新孔穴の報告書には其の總計百二十穴である。

それを左記の通りに分類排列してゐる。

頭部正中線……六穴

神庭、額會、百會、後頂、腦戶、掖門。

頭部第一側線……(四穴)

曲差、承光、通天、天柱。

頭部第二側線……五穴

臨泣、正營、承靈、腦空、風池。

額部……二穴

橫竹、陽白。

顛部……三穴

頭維、曲髮、絲竹空。

顛頂部……二穴

率谷、竅陰。

耳前部……二穴

上關、聽會。

耳下部……一穴

翳風。

顔面部……九穴

迎香、四白、巨髎、地倉、下關、頰車、大迎、額髎、水溝。

頸部……二穴

天鼎、天突。

胸部……十二穴

兪府、或中、神藏、靈墟、神封、步廊、氣戶、庫房、屋翳、膺窓、乳根、中府。

腹部正中線……七穴

鳩尾、巨闕、上腕、關元。

腹部第一側線……八穴

幽門、通谷、陰都、石關、商曲、育俞、四滿、大赫。

腹部第二側線……八穴

不容、承滿、梁門、關門、大乙、天樞、外陵、水道。

側腹部……六穴

腹哀、大橫、腹結、衝門、居髎、五樞。

背部正中線……四穴

大椎、身柱、命門、長強。

背部側線……十三穴

大杼、肺俞、心俞、膈俞、肝俞、胃俞、腎俞、大腸俞、白環俞、上髎、次髎、中髎、下髎。

肩部……二穴

曲垣、肩外。

上肢……十三穴

消瀉、清冷淵、四瀆、天井、俠白、尺澤、曲池、三里、肩貞、肩髃、支溝、合谷、陽池。

下肢……十一穴

陰廉、環跳、承扶、中瀆、陽陵泉、飛陽、三陰交、懸鐘、水泉。

注意。一、新孔穴によつて勉強せんとする人は以上の穴名と部位を經穴の部より書き出して記憶すればよい。

一、新孔穴は十四經に排列せられたる以前の俞穴、孔穴の或る部分即ち實地上重要な穴を多分に逸脱してゐる。

一、新孔穴は檢定に應用せらるゝ場合が少ない。

一、新孔穴を撰定したる理由と根據が薄弱である。

一、矛盾と誤謬が多すぎる。

一、新孔穴は之を揆穴するに、大人にあつては、術者の指の横徑を一寸とし、小兒に於ては被術者の指の横徑を一寸として用ふるものである。(此の點又大層不都合のやうに思はれる)

備考二。同名異穴

頭の臨泣、足の臨泣、背の陽關、足の陽關。頭の竅陰、足の竅陰。腹の通谷、足の通谷、手の三里、足の三里。手の五里、足の五里。

其の他、「衝門(しょうもん)」、「章門(しょうもん)」の如く同音異字のものもある。

經穴異名

一穴二名ある經穴

神庭、髮際。	曲差、鼻衝。	後頂、交衝。	通天、天白。	腦空、額顛。	強間、大羽。
目窓、至榮。	顛息、顛顛。	癩脈、資脈。	竅陰(頭)、枕骨。	素髻、面王。	迎香、衝陽。
地倉、會椎。	大迎、髓孔。	顛顛、兌骨。	懸顛、髓空。	人迎、天五會。	水突、水門。
扶突、水穴。	天鼎、天項。	天窓、窓籠。	缺盆、天蓋。	肩井、膊井。	大椎、百勞。
神道、臑命。	厥陰俞、關俞。	心俞、背竅。	腎俞、高蓋。	中膈內俞、脊內俞。	中膈、中空。
會陽、利機。	魄戶、魂戶。	志室、精宮。	玉堂、玉英。	俞府、輸府。	乳中、當孔。
乳根、辟息。	巨闕、心募。	下脘、幽門。	幽門、上門。	石門、石闕。	商曲、高曲。
四滿、膻府。	大巨、脾門。	歸來、竅穴。	氣衝、氣街。	期門、肝募。	大橫、餐氣。
淵腋、腋門。	天地、天會。	維道、外樞。	少商、鬼信。	大淵、鬼心。	列缺、童玄。
間使、鬼路。	天泉、天溫。	少衝、經始。	少海、曲節。	商陽、絕陽。	二間、間谷。
三間、少谷。	合谷、虎口。	陽谿、中魁。	肘髻、肘尖。	五里、手尺ノ五里。	陽池、別陽。
支溝、飛虎。	三陰絡、通門。	少澤、少吉。	前谷、手太陽。	漏谷、大陰絡。	地機、脾舍。
血海、百虫窠。	中封、懸泉。	蠡溝、交儀。	陰包、陰胞。	湧泉、地衝。	梁丘、跨骨。
陰市、陰鼎。	僕參、安邪。	懸鐘、絕骨。	金門、關梁。	跗陽、附陽。	飛陽、厥陽。
承扶、肉郛。	太衝、太冲。				

一穴三名ある經穴

絡却、強陽、腦蓋。	綠竹空、巨髻、日髻。	晴明、泪孔、淚孔。	聽宮、多所門、窓籠。
禾髻、顛、長類。	廉泉、本池、舌本。	承泣、髓穴、面髻。	聽會、腦髻、顛交。
脊中、神宗、脊俞。	命門、屬累、竹杖。	天突、玉戶、天霍。	中脘、大倉、胃募。
水分、中守、分水。	神闕、臍中、氣會。	陰都、食宮、通闕。	氣穴、胞門、子戶。
大赫、陰維、陰闕。	橫骨、下極、風骨。	日月、膽募、神光。	衝門、茲宮、上茲宮。
尺澤、鬼受、鬼堂。	大陵、心世、鬼心。	溫溜、逆注、蛇頭。	曲池、鬼臣、陽澤。
臂臑、頭衝、頭衝。	隱白、鬼疊、鬼眼。	三陰交、承命、太陰。	然谷、龍淵、然骨。
大敦、水泉、大順。	中髻、中郛、太陰。	衝陽、會原、會湧。	巨虛下廉、下廉、下巨虛。
巨虛上廉、上廉、上巨虛。	伏兔、外包、外丘。	陽輔、絕骨、分肉。	陽交、別陽、足髻。
環跳、臑骨、分中。	申脈、鬼路、陽蹻。	承筋、臑陽、直腸。	三里(足)、下陵、鬼邪。

一穴四名ある經穴

上星、鬼堂、明堂、神堂。	勞宮、五里、鬼路、掌中。	臑會、額下、鬼門、額門。
腦戶、匝風、會顛、合顛。	瞳子髻、太陽、前關、後曲。	頰車、機關、鬼牀、曲牙。
臑中、元兒、上氣海、元見。	中府、膈中俞、肺募、府中俞。	陰交、少關、橫戶、丹田。
氣海、辟映、下盲、丹田。	中極、氣原、玉泉、膀胱募。	曲骨、尿胞、風骨、風骨端。
京門、氣府、氣俞、腎募。	復溜、伏白、昌陽、外命。	太谿、昌細、照海、陰蹻。
神門、兌衝、中都、鏡中。	陽關、關陵、陽陵、關陽。	承山、魚腹、肉柱、傷山。



一穴五名ある經穴

風府、舌本、鬼枕、鬼穴、曹谿。 瘡門、舌橫、舌厭、瘡門、舌腫。 承漿、天地、鬼市、懸壺、垂漿。  
 上關、客主人、客主、容主、太陽。 肩髃、肩髃、中府、肩髃、肩髃。 鳩尾、尾髃、髀髀、神府、髀髀。  
 會陰、屏翳、金門、平髀、下極。 腹結、腹風、腸結、腸風、腸風。 章門、長平、腸髀、脾髀、助髀。  
 委中、郄中、委中央、血郄、腿門。

一穴六名以上ある經穴

水溝、鼻人中、鬼宮、鬼客聽、鬼市、人中。 橫竹、員在、始光、夜光、明光、元柱。  
 石門、利機、精露、丹田、命門、三焦募。 關元、下紀、次門、丹田、大中極、小腸募。  
 天樞、長谿、谷門、大腸募、循際、長谷。  
 百會、三陽五會、鬼門、涅丸宮、嶺上、天滿、三陽、五會。  
 腰俞、背解、髓空、腰戶、髓孔、腰柱、髓府。  
 長強、靈骨、骶上、骨骶、氣之陰郄、龜尾、尾翠骨、龍虎穴、曹谿路、三分間、河車路、朝天嶺、上天梯、骶骨、尾間、氣郄。  
 一、以上は單に參考の爲にこゝに記したのである。  
 一、別段記憶しなくてもよい。  
 一、但し、横に印の符號ある異名丈、記憶せねばならぬ。

備考三。臨牀上(實地上)重要な奇穴

印 堂 (神經)

部位。眉間の中央。(眉と眉との真中)  
 主治。嘔吐、眼痛、小兒瘰癧、頭痛、眩暈等。  
 技法。鍼二分、灸三壯乃至七壯。

天 聰 (神經)

部位。鼻尖より髮際までの寸をとつて兩折し、之を髮際正中より上方に當て、盡くる所。  
 主治。諸種の熱性病。  
 技法。灸七壯乃至三七壯。

神聰四穴 (類經)

部位。百會の前、後、左、右、各一寸。  
 主治。頭痛、眩暈、中風、癲癇、精神病等。  
 技法。鍼一分乃至二分、灸七壯乃至三七壯。

光 明 (銀海精微)

部位。眉弓の中央。  
 主治。眼瞼縁炎、結膜炎、眼筋痙攣等。  
 技法。鍼一分乃至三分、灸三壯。

部位。眉弓中央の直上髮際を入る事一寸。  
 主治。鼻加答兒、感冒、眼神經痛等。  
 技法。鍼一分乃至三分、灸年齢の數を用ふ。

太 陽 (鍼灸大成)  
 部位。眉毛後方の髮際凹なる部。  
 主治。眼科一切の疾患、偏頭痛等。  
 技法。鍼三分、灸三壯乃至七壯。

鬼 狀 (明堂灸經)  
 部位。耳前髮際(ハエサガリ)、上關の後上方耳翼の前上起始部の凹なる中、  
 主治。耳疾、中風等。

技法。灸三壯。

陽 維 (千金翼)

部位。耳後の中央(耳後筋の起始部)

主治。耳鳴、難聴、中耳炎等。

技法。灸五十壯。

耳 尖 (千金方)

部位。耳翼を前方に屈けて其の上角に之をとる。

主治。偏頭痛、中耳炎等。

技法。灸三壯乃至七壯。

明 堂 (養生經)

部位。項部後髮際を入る事五分、瘰癧門と風府の中央。

主治。衄血、後頭神経痛等。

技法。鍼三分、灸三壯。

太 祖 (鍼灸極秘傳)

部位。大椎の上の小椎の下、即ち第六頸椎の下。

主治。百日咳、催嘔、咳嗽等。

技法。鍼一分乃至三分、灸三壯乃至七壯。

百勞四穴 (鍼灸極秘傳)

部位。大椎の直上二寸の處の左右各一寸(二穴)

大椎の兩傍一寸三分の處(二穴)。

主治。百日咳、咳嗽等。

技法。鍼三分、灸七壯。

胸 堂 (千金方)

部位。兩乳の間に於て胸骨の兩側緣。

主治。氣管枝炎、喘息、食道痙攣、咯血、心臟神経痛等。

技法。灸三壯乃至三七壯。

脇 堂 (外臺秘要)

部位。極泉の直下、第二肋間。

主治。喘息、咯血、吃逆、肺氣腫等。

技法。灸三壯乃至五十壯。

玉 泉 (千金方)

部位。男子陰莖根の上、陰阜と陰莖根との間、臍の下

方六寸五分。

主治。膀胱麻痺、睪丸炎、精系神経痛、淋疾等。

技法。灸七壯乃至百壯。

臍中四邊 (千金方)

部位。臍の正中及び其の上下左右各一寸。

主治。小兒一切の瘰癧、慢性腸加答兒等。

技法。灸七壯。

腸 遣 (千金方)

部位。中極の兩傍一寸。

主治。慢性腸加答兒、便秘、鼠蹊ヘルニア(鼠蹊部脱腸)等。

技法。鍼三分乃至二寸、灸、年の數を用ゆ。

子 宮 (鍼灸大成)

部位。中極の兩傍三寸。

主治。不妊症、子宮血腫、子宮内膜炎等。

技法。鍼一寸、灸七壯乃至三七壯。

急 脈 (素問氣府論)

部位。奇穴玉泉の兩傍二寸五分。

主治。横痃、下腹神経痛等。

技法。灸七壯。

羊 矢 (類經)

部位。會陰の傍三寸。

主治。脱腸、睪丸炎、痔疾、子宮内腺炎等。

技法。灸七壯。

盲 募 (經穴彙解)

部位。元結にて乳嘴から臍中までを斜に計り、  
(取穴法) 之を兩斷して一片を捨てる。

兩斷したる元結の一つをとりて  
乳嘴から腹部に下し、  
其の元結の盡くる處に灸す。

主治。一切の慢性病、鍼術藥治も効なきものも治す。  
技法。灸、患者の年の數を用ゆ。

肋 頭 (千金方) (昭十四年六月島根)

部位。第十肋骨の尖端。

主治。癰、卵巢神經痛、肝硬變症等。

技法。灸三壯乃至七壯。

肩 上 (五瀉抄)

部位。大椎と肩胛との正中。

主治。肩の凝、齒神經痛、咽、喉頭加答兒等。

技法。灸七壯乃至二十一壯。

肩 頭 (經穴彙解)

部位。肩端起骨の尖上。

鎖骨と肩胛關節との上際の陷凹部。

主治。肩の凝、齒痛、腺病、三角筋麻痺等。

技法。灸三壯乃至七壯。

督 脊 (千金方) (昭十四年春島根)

部位。大椎と長強との正中。

主治。小兒急癇、脊椎の疾患等。

技法。灸三壯乃至七壯。

接 脊 (明堂灸經)

部位。第十二胸椎と第一腰椎の間。

主治。腸疝痛、慢性腸加答兒等。

技法。鍼三分、灸三壯。

八 躍 (名家灸選)

部位。大椎の八方各一寸宛、  
大椎を中心として八角となる。

主治。胃一切の疾患、頑固なる嘔吐、妊娠惡阻等。

技法。灸七壯乃至十五壯。

督 俞 (資生經)

部位。第六胸椎の兩傍一寸五分。

心俞と臍俞との中間。

主治。狭心症、心臟痛、肋間神經痛、消化不良等。

技法。灸七壯乃至二十一壯。

濁 沿 (千金翼)

部位。臍俞の兩傍二寸五分。

主治。黃疸、胃加答兒、神經衰弱等。

技法。灸、年の數を用ゆ。

廻 氣 (類經)

部位。脊の窮骨の上、赤白肉の下、

即ち尾呂骨部、長強の上、腰俞の下、骨の尖り  
の上。

主治。痔、腸潰瘍、尿失禁等。

技法。灸百壯。

夾 脊 (類經)

(一) 取穴法) (一) 上肢を體の側部より大腿に向つて伸して伏  
臥す。

(二) 元結を持つて左右の肘尖(尺骨鷹嘴突起)を  
横にさしわたす。

(三) 二の元結と脊骨の交叉點に假點する。

(四) 三の假點の兩傍一寸五分の處に眞點す。

主治。霍亂、腓腸筋痙攣等。

技法。灸百壯。

氣海俞 (醫學入門)

部位。第十五椎の兩傍一寸五分、腎俞と大腸俞の間。

主治。腰筋ロイマチス、腰神經痛、下痢、鼓腸、腸疝痛、子宮内膜炎、月經異常等。  
技法。鍼二寸乃至三寸、灸三壯乃至五十壯。

精 宮 (醫學入門)

部位。第十四椎即ち第二腰椎の兩傍三寸。  
主治。夢精、遺精、早漏、性感障礙等。  
技法。鍼八分乃至一寸五分、灸七壯乃至三七壯。

關 元 俞 (醫學入門)

部位。第十七椎即ち第五腰椎、第一薦骨假棘狀突起の間兩傍一寸五分。  
主治。疝痛、慢性腸加答兒、消渴、婦人の胃痙攣、子宮痙攣等。  
技法。鍼三分乃至二寸、灸三七壯乃至五十壯。

奪 命 (鍼灸聚英)

技法。灸一壯乃至七壯。

虎 口 (神應經)

部位。合谷の前下方。  
取穴法。手指を展して拇指と示指を接着した指の分れ目。  
主治。頭痛、腦充血、眩暈、心臟神經痛、胃痛等。  
技法。鍼三分、灸七壯。

鬼 當 (千金翼)

部位。拇指第一節と第二節との横紋の頭、拇指の示指側でない方。  
主治。扁桃腺炎、マラリア等。  
技法。鍼一分灸三壯。

鬼 哭 (醫學入門) (昭十一年大阪) (昭十六年春徳島)

部位。拇指の傍、爪と肉との間、即ち示指側で無い方。  
取穴法。手掌を合せ、拇指を展してくゞり、爪根部に之をとりて灸をする。

部位。尺澤と肩髃の中間。  
主治。腹膜炎、失神、丹毒等。  
技法。鍼三分。

肘 尖 (千金翼)

部位。肘骨の尖端即ち尺骨鷹嘴突起の尖端。  
主治。瘰癧。  
技法。灸、患者の年の數丈けを用ゆ。

地 神 (千金方)

部位。拇指本節横紋の中央即ち拇指第一節と第一掌骨との關節部掌面の中央。  
主治。癡首假死。  
技法。灸七壯。

手 心 (千金方)

部位。手掌の正中。  
主治。黃疸、小兒疳蟲、百日咳等。

主治。腦溢血、牙關緊急、癲癇、膀胱麻痺、遺精等。  
技法。灸三壯乃至二十壯。

五 虎 (類經圖翼)

部位。示指環指、第一節基底の背面、中指を挟む。  
主治。書瘰、手指痙攣等。  
技法。灸五壯。

關 儀 (千金方)

部位。大腿骨外上髁の直上一寸。  
主治。拔<sup>ペルトリ</sup>氏<sup>氏</sup>腺炎、子宮痙攣等。  
技法。灸百壯。

膝 眼 (類經圖翼)

部位。膝蓋骨下端の兩側即ち膝蓋固有靭帯の兩側陥る部。  
主治。脚氣、膝關節炎、下腿麻痺等。

技法。鍼三分。

交 儀 (千金方)

部位。脛骨前面、正中線、内髁の上五寸。

主治。慢性腹膜炎、下腹痛等。

技法。灸七壯。

少 陽 維 (外臺秘要)

部位。大谿と復溜の中間の動脈中。

主治。下腿慢性濕疹、狼瘡等。

營 地 (千金方)

部位。内髁の前後の陷なる處。

主治。尿閉、子宮出血、子宮内膜炎、月經過多、腸出

九 曜 灸 の 取 穴 法 及 適 應 症 (昭十一年山口、島根)

(阿 足 要 穴)

瘡、上肢より上方にあるものには、

元結を用ひ肩毛上を一周したる長さを量り、之より一手掌と中指爪の中央の中とを切り去り、

血等。

技法。灸七壯乃至三十壯、鍼三分。

華 佗 (明堂灸經)

部位。躡趾内側爪甲の角を去る事五分、赤白肉の間、

即ち背面と臚面との中間。

主治。精系神経痛、副腎丸炎。

技法。灸三壯。

泉 生 足 (醫宗金鑑)

部位。足の第二趾の第二節臚面の正中。

主治。腦疾患、嘔吐、吞酸、食道痙攣等。

技法。鍼二分、灸三壯乃至十五壯。

残れる元結を兩折して、結喉にかけて背後に廻し、兩端を一ヶ所に寄せて盡る處に點す。是一穴(實驗上多くは第二椎に當る)。

別に上唇の長さを計り、三分して其一を去りたるものを用ひ、

先の點に其中央をあて、左、右、上斜、下斜に四點する時は八角形の八穴となる。

前の一穴と共にこれで九穴。

瘡癰幹に生ずるものには、兩乳頭を一周したる寸をとりて用ゆ。以下同じ。

瘡足に生ずるものには、兩足を靴を並べたる如く足を揃へて、

赤白肉の間を一周したる尺度をとりて用ゆ。以下同じ。

### 第九篇 檢定試験問題集

緒言

將來を待望すべき親愛なる受験者諸君へ

- 一、過去、現在、未來(想定)の全部、數限りなき、しかも類似の試験問題を、全部探究するが如きは、痴人無用の努力である。
- 一、本書の本文中に著述せられたる全文と、注意、解題、備考等を理解すれば、必ず凡百の試験問題を、解答し得る實力が出来るものである。
- 一、必ずしも本年度の、問題なきを苦しむに及ばぬ。
- 一、又題の下に最近の年月縣名等一々記入するは煩雜故、其一、二を摘録し多くは省略した。
- 一、本書を精讀理解すれば、來年度の問題おも、必ず解答し得るものである。

#### 受験心得

##### 受験と睡眠

- 一、前夜は、充分に寝る。
- 二、當日は、成丈け早起する。

##### 食事

- 一、消化し易き、食品を撰ぶ。
- 二、控目に食す。
- 三、必ず紅茶、又はコーヒ、玉露、濃茶等、一杯を飲む。

##### 便

- 一、入場前、大、小、便をしておく。

##### 記憶の整理

- 一、系統的に、頭で整理する。
- 二、要點を、理解しておく。

##### 試験場

- 一、知らぬ府縣の受験の時は、前日場所を見ておく。

##### 場内

- 一、氣を落着ける。
- 二、あわてぬ。
- 三、樂な問題から、始める。
- 四、不得手な問題は、後廻しにする。

- 五、簡明に、個條書にする。
- 六、文字は楷書で、はつきりと書く。
- 七、時間の最後迄、落付いて、書いた答案を、何度も読み返して見る。

檢定試験問題

群馬縣 (昭十年春)

- 一、手指の消毒及び鍼によつて傳染する病名
- 一、手指の消毒及び器具の消毒
- 鹿兒島縣 (昭十年春)
- 一、小腸の構造並びに生理的作用
- 一、三叉神經に就いて知る所を記せ
- 一、化學的消毒に就いて使用上其の優劣を説明せよ
- 一、ヘッド氏帶の意義及び其の出現の理由並びに之が經穴との關係
- 一、直達興奮及び介達興奮とは何ぞや例を擧げて説明し、且つ兩者の治療的價値を述べよ (以上鍼術)
- 一、肺結核の症狀並びに施灸時期に就

いて述べよ (以上灸術)

三重縣 (昭十年春)

- 一、肝臓の位置形狀作用
- 一、腦神經の名稱及び其の分佈部位
- 一、鍼術の血球に及ぼす影響を述べよ (以上鍼術)
- 一、消化器疾患中施灸に適する病名を擧げ、奏効理由を記せ
- 一、施術者は常に手指に就いて如何なる注意を要するか
- 一、日光消毒に就いて (以上共通)
- 一、皮膚の構造を述べよ
- 一、臟腑の位置及び作用を記せ
- 一、灸の血球に及ぼす影響を記せ (以上灸術)

愛知縣 (昭十年春)

- 一、腰神經の分佈經路を問ふ
- 一、白血球の生理的作用を記せ
- 一、鍼の消毒に昇汞水の適否を論ぜよ
- 一、偏頭痛の症狀及び療法
- 一、施術の禁すべき部位を記せ (以上鍼術學說)
- 一、身體内臓の位置を畫にて示せ
- 一、赤白血球の生理的作用を問ふ
- 一、灸術を施したる部位の化膿するは何か、其の處置及び豫防法
- 一、大赫、竅陰、俠白、飛陽、消滌の部位と解剖的關係を記せ
- 一、灸術の禁忌症 (以上灸術學說)

兵庫縣 (昭十年春)

- 一、小腸に於ける消化作用
- 一、迷走神經の起始、經過、分佈の狀態を記せ
- 一、上肢禁鍼の穴名を記せ
- 一、煮沸消毒法に就いて (以上鍼術學說)
- 一、肩胛に分佈する神經の名稱
- 一、唾液の化學的成分及び其の作用
- 一、神經性疼痛と炎症性疼痛との區別を記せ
- 一、灸の血管及び神經に及ぼす影響如何
- 一、煖性石灰の消毒方法及び用途を記せ (以上灸術學說)
- 朝鮮 (慶南) (昭十年春)
- 一、大腿部に於ける動脈の名稱
- 一、體溫發生の理由
- 一、施灸上注意すべき事項
- 一、神經衰弱に對する施灸法 (以上灸術學說)
- 一、上肢に分佈する神經の名稱
- 一、血液循環を説明せよ

- 一、鍼治の禁忌症及び禁忌部位を記せ (以上鍼術學說)
- 一、顔面神經麻痺の原因症候、豫防及び中樞性末梢性の鑑別法其れに對する刺鍼點、灸治點。
- 一、下肢三里の解剖的部位及び三里刺鍼の實地 (雀啄術) 又打撲症には刺鍼の效ありや (以上實地)

静岡縣 (昭十年春)

- 一、腦髓神經を機能的區別に列舉せよ
- 一、腎臟の生理的作用を詳記せよ
- 一、便秘に對する鍼治法如何
- 一、左の五穴に就いて刺鍼の可否及び其の理由を記せ
- 三陰交、石門、鳩尾、人迎、膻中 (以上鍼術學說)
- 一、痔疾に對する灸治法如何
- 一、左の五穴は如何なる疾病に應用されるか
- 百會、天突、身柱、命門、筋縮 (以上灸術學說)

千葉縣 (昭十年六月)

- 一、皮膚の構造を問ふ
- 一、頸部の筋、血管、神經の名稱を問ふ
- 一、金屬器具類の適切なる消毒方法を記せ
- 一、神經性心悸亢進の症狀並びに鍼治穴如何
- 一、補瀉迎隨の鍼治法に就いて記せ (以上鍼術學說)
- 一、胸廓内にある臟器の名稱と其の位置を問ふ
- 一、腸の生理的作用を問ふ
- 一、肩胛部の筋と神經の名稱を問ふ
- 一、消毒の定義を記せ
- 一、肺の結核に對する施灸時期並びに灸治法を記せ (以上灸術學說)
- 埼玉縣 (昭十年春)
- 一、迷走神經は何れに分佈するや
- 一、四頭肢筋の起始停止及び其の作用を記せ (共通)

- 一、四肢に鍼を刺入する場合は如何なる注意を要するや
- 一、施鍼を避くべき部位を記せ
- 一、横隔膜痙攣に對する刺鍼點を記せ
- 一、施鍼局所と器械の消毒方法を記せ (以上鍼學說)
- 一、灸治を禁忌すべき場合を記せ
- 一、灸術を施す前後の處置
- 一、麻痺に灸術を施す時は如何なる作用あるや
- 一、消毒を施すべき理由 (以上灸術)

栃木縣 (昭十年春)

- 一、心臟、腎臟、盲腸、坐骨結節、大轉子の位置を問ふ
- 一、延髓の機能を問ふ
- 一、胃アトニーの原因並びに症狀を問ふ
- 一、脊髄癆の症狀を問ふ
- 一、鍼治併發症として化膿を起す理由並びに其の豫防法を問ふ
- 一、鍼治上左記物品を使用するに當り如何なる注意を要するや

- (イ)昇汞水 (ロ)聽診器
- (ハ)檢溫器 (ニ)重曹
- (ホ)電氣 (以上鍼學說)

- 一、慢性胃カタルの鍼治法及び取穴法
- 一、天樞、腹衰、大杼、消滯、三陰交の解剖的部位及び取穴法 (以上鍼實地)
- 一、腰神經叢の構成、位置並びに之より出づる神經の名稱を問ふ
- 一、胃に分佈する神經を挙げ其の作用を問ふ
- 一、坐骨神經痛の症狀を述べよ
- 一、腕膀麻痺の原因及び症狀を記せ
- 一、灸療法を如何なる場合か及び其の豫防法を問ふ (以上灸術學說)
- 一、腰痛の灸治法を問ふ
- 一、陽陵泉、懸鐘の解剖的部位及び取穴法を述べよ (以上灸術實地)

群馬縣 (昭十年春)

- 一、骨盤の位置、形狀、及び構成骨の名稱を問ふ
- 一、心臟の位置、形狀、及び構造を記せ

せ

- 一、血液の生理的作用及び其の成分を問ふ
- 一、ロイマチスと打撲症の鑑別
- 一、三陰交、心俞、曲垣の解剖的位置並びに筋血管、神經の關係を問ふ
- 一、膽石痛の徴候並びに鍼治法 (以上鍼學說)
- 一、肩胛骨烏喙突起に附着する筋の名稱並びに起始、停止を問ふ
- 一、甲狀腺の位置、區別、構造を問ふ
- 一、飲用したる水分は何れの部を通じ體外に排泄せらるゝや
- 一、中樞麻痺と末梢麻痺との鑑別
- 一、足三里に施灸すれば如何なる徴候を呈するや、例を挙げて説明せよ
- 一、黃疸とは何ぞや灸治法を記せ (以上灸術學說)

長野縣 (昭十年春)

- 一、鼠蹊管に就いて記せ
- 一、胃の位置を脊椎骨と肋骨にて示せ
- 一、横隔膜神經に就いて記せ

- 一、血液型に就いて記せ
- 一、胃瘰癧の鍼術(灸術)的治療法
- 一、ホルマリンの消毒作用並にホルマリン及び法定消毒藥ホルマリソルニ含有スル、ホルムアルデヒドガスの含有率を示せ (以上鍼灸共通)
- 一、偏頭痛に對する施灸點を述べよ
- 一、螺旋條溝にある穴名を述べ且つ指壓せよ (以上實地)

福井縣 (昭十年春)

- 一、上膊に分佈する血管神經を問ふ
- 一、血壓に就いて知るところを記せ
- 一、鍼術の禁忌症と禁忌點を問ふ
- 一、理學的消毒方法に就いて記せ
- 一、坐骨神經痛の症狀及び其の鍼治法を問ふ
- 一、二多クレンジール水五百グラムの調製方法を問ふ (以上鍼學說)
- 一、肩胛關節を構成する骨の名稱並に主なる筋の名稱を記せ
- 一、大循環と小循環の區別を記せ

- 一、施灸の禁忌症並に禁忌點
- 一、脚氣の症狀及び其の灸治を問ふ
- 一、消毒藥の種類三種を挙げ其の用途及び使用時の注意を記せ (以上灸術學說)

神奈川縣 (昭十年七月)

- 一、腦神經の名稱
- 一、動脈血と靜脈血の區別
- 一、石炭酸水の製法と使用上の注意
- 一、患者の手指消毒
- 一、腹部正中線の穴名
- 一、禁鍼穴の名稱 (以上鍼學說)
- 一、胸鎖乳筋筋に刺鍼
- 一、曲池の解剖的部位、合谷の部位 (以上鍼實地)
- 一、消化器の名稱を問ふ
- 一、皮膚の生理的作用
- 一、消毒藥の名稱及び用法
- 一、衣類の消毒方法
- 一、灸の種類
- 一、灸の血液循環に及ぼす作用 (以上灸術學說)

- 一、脚氣に對する灸治法
- 一、脚氣に對する灸治點及び其の内四穴の解剖的部位 (以上灸術實地)

大阪府 (昭十年九月)

- 一、心臟の構造を圖解し併せて直接之と關係ある血管を附加せよ (以上共通學說)
- 一、小腦の機能を述べよ
- 一、折鍼の豫防法を詳記せよ
- 一、大迎、歸來、天府、委陽、身柱の五穴に關し詳述せよ (以上鍼學說)
- 一、施灸に際して注意すべき事項を問ふ
- 一、天柱、不容、石門、陽交、曲澤の部位並に應用を問ふ (以上灸術學說)
- 一、昇汞の稀釋度並にその使用上の注意を述べよ
- 一、蒸氣消毒に就いて説明せよ (以上共通學說)

栃木縣 (昭十年十月)

- 一、腋窩を構成する筋の名稱及び同窩



を通過する血管神経に就いて述べよ

- 一、血脈に就いて知る所を述べよ
- 一、肺結核の發病に就いて記せ
- 一、顯瘤とは如何なる疾病なりや
- 一、稀アルコールと純アルコールとは何れが消毒力強きや、且つ理由を問ふ
- 一、不隨意運動とは如何なるものなるや症例を挙げよ (以上鍼術學說)
- 一、陽關の取穴法及び其の解剖的部位
- 一、幽門、肩貞、三里の部位を問ふ (以上鍼術實地)
- 一、上膊に存する主なる神経の名稱及び其の經過を問ふ
- 一、内分泌腺に就いて記せ
- 一、灸術の本態及び治効作用に就いて記せ
- 一、慢性胃加答兒の原因及び症候を述べよ
- 一、不隨意運動とは如何、症例を挙げ説明せよ

一、如何なる缺點のために灸痕は化膿するや (以上灸術學說)

- 一、月經異常とは
- 一、經穴二、三あり、各人別也 (以上灸術實地)
- 福 島 縣 (昭十年十月)
- 一、腎臟の位置、形狀機能を記せ
- 一、頸部に分佈する血管神経、筋肉の名稱 (以上鍼灸共通學說)
- 一、背部の禁鍼穴並に解剖的部位を記せ
- 一、施術に際し施術者は如何なる注意を要するや (以上鍼術學說)
- 一、背部の禁灸穴並に其の解剖的部位を記せ
- 一、施術に際し施術者は如何なる注意を要するや (以上灸術學說)
- 一、榮養素とは如何
- 一、坐骨神経痛に對する鍼(灸)の治療法 (以上實地)
- 青 森 縣 (昭十年九月)

一、血液の循環に就いて知る處を記せ

- 一、下肢に分佈する主なる血管及び神經を説明せよ (以上鍼術學說)
- 一、皮膚の作用に就いて説明せよ (以上灸術學說)
- 一、消毒の方法及び目的を問ふ
- 一、皮膚の消毒薬として用ひらるゝ主なる薬物の名稱及び稀釋度
- 一、次の經穴の解剖的位置を問ふ 承山、大横、尺澤、胃脘、陽谿
- 一、神経性心悸亢進の鍼灸療法に就いて記せ (以上共通學說)
- 茨 城 縣 (昭十年十一月)
- 一、呼吸器に屬する器官の名稱、部位及び形狀を記せ
- 一、腎臟の機能を記せ
- 一、鍼術實地に當り消毒を怠る時は如何なる障害を惹起するや (以上鍼術學說)
- 一、健康、保健、衛生に對する刺鍼法 (以上鍼術實地)
- 一、胃の位置、形狀、及び各部の名稱

を記せ

- 一、耳の生理的機能を記せ
- 一、衣類の消毒を記せ (以上灸術學說)
- 一、翳風、客主人、曲池、を灸治點として如何なる疾病に應用するか (以上灸術學說)
- 宮 城 縣 (昭十年十月)
- 一、(イ)坐骨神経の起始經過及び分佈を記せ
- 一、(ロ)脊髓の位置及び機能を記せ
- 一、肋間神経痛に對する刺鍼法
- 一、左の消毒薬の調製法並に其の優劣を記せ
- 一、(イ)クレゾール石鹼液
- 一、(ロ)昇汞水 (以上鍼術)
- 一、三問は鍼術と共通
- 一、半身不隨に對する灸治法 (以上灸術)
- 岩 手 縣 (昭十年十一月)
- 一、肝臟の位置及び構造を記せ
- 一、心臓の機能を説明せよ

一、鍼術の神經に及ぼす作用

- 一、脚氣症に對する鍼治法及び灸治法を問ふ
- 一、消毒薬の種類を挙げ其の調製法を記せ (以上鍼灸共通學說)
- 山 形 縣 (昭十年十月)
- 一、顔面神経の經過及び分佈
- 一、肝臟の機能
- 一、作業衣(白衣)の消毒法如何
- 一、鍼の禁忌部位及び其の場合 (以上鍼術學說)
- 一、鍼の治療的作用
- 一、拔鍼困難の處置
- 一、折鍼の處置
- 一、八髒とは何ぞ及び其の部位
- 一、咀嚼筋痙攣の症狀及び其の穴
- 一、鍼を後頭部に刺す實地 (以上鍼術實地)
- 一、咀嚼を營む筋の名稱
- 一、呼吸に就いて
- 一、灸痕化膿の理由及び處置
- 一、顔面部の禁忌穴の名稱及び解剖的

部位 (以上灸術學說)

- 一、艾柱の大小壯數及び病氣との關係
- 一、翳風、合谷、身柱、腎俞、關元、三陰交
- 一、膀胱麻痺の症狀及び其の穴 (以上灸術實地)
- 福 岡 縣 (昭十年十月)
- 一、膝關節を通過する血管神経の關係
- 一、延髓の作用を問ふ
- 一、鍼治に於ける制止法とは如何
- 一、腓腸筋痙攣の原因、症候及び治療法 (以上鍼術學說)
- 一、總頸動脈の起始、經過及び枝別
- 一、内分泌に就いて知る處を記せ
- 一、動脈硬化症の原因及び症候、灸治法
- 一、問診の目的並に其の事項を記せ (以上灸術學說)
- 一、五十八歳の男子、職業は教員、骨質は神經質、既往症としては腦充血、神經衰弱、現症としては前額部後頭部、顛頂部、時によりは

頭部全體に限局性疼痛あり、一進一退、常に憂鬱思考減退、惡心嘔吐あり。右の病名、原因、治療法 (以上實地)

廣島縣 (昭十年十月)

- 一、頸部の表面にある筋の名稱を記せ
- 一、肝臓の機能を記せ
- 一、偏頭痛に對する灸治の目的及び穴名
- 一、胃擴張に對する鍼治法の目的
- 一、飛陽、頰車、隱白の解剖的部位
- 一、器具の消毒法 (以上鍼灸共通)
- 一、肋間神経痛に對する鍼治法及び其の各穴の指壓
- 一、寸六、毛、毫鍼にて無管刺鍼
- 一、各經穴名の指壓 (以上實地)

島根縣 (昭十年十月)

- 一、頭蓋を形成する骨の名稱及び其の位置
- 一、消化器の名稱及び之に分佈する神經に就いて記せ

- 一、刺鍼法の手技及び其の生理的作用
- 一、不眠症に對し、鍼術の效ある理由及び其の主治穴を問ふ
- 一、痛風の原因、症候及び其の主治穴名を記せ
- 一、手の小陰心經に屬する穴名を擧げ其解剖的部位を記せ
- 一、(イ)免疫の特異性に就いて詳記せよ
- 一、(ロ)溶菌素とは如何なるものを言ふか

熊本縣 (昭十年秋)

- 一、腕部筋の名稱作用及び分佈する神經
- 一、交感神經の中樞點並に分佈作用
- 一、石炭酸、アルコール、昇汞水の消毒上の價值
- 一、酒精を用ひる消毒の順序方法其の他の注意事項

- 一、刺鍼して死亡する事あり其の理由
- 一、疼痛に刺鍼の出來ざる場合
- 一、血管に直刺すれば如何なる症狀を呈するや (以上鍼術學說)
- 一、尺骨神經の分佈作用
- 一、僧帽筋及び胸鎖乳嘴筋の起始停止分佈する神經
- 一、施灸前後の消毒方法
- 一、酒精を消毒するに用ひる場合の注意
- 一、灸の血液に及ぼす影響
- 一、施灸の目的
- 一、胃アトニーの灸治 (以上鍼術學說)

徳島縣 (昭十年秋)

- 一、迷走神經の起始經過並に其の分佈を記せ
- 一、膽汁の效用を記せ
- 一、石炭酸の性状效能を記せ
- 一、左の穴名の部位並に解剖學的關係を記せ
- 一、雲門 二、巨髀 三、氣舍

- 四、鞍鼻 五、神堂
- 一、手の小陰神經の種類並に部位を記せ
- 一、膀胱結石の原因症候並に鍼治を記せ
- 一、灸治の血液に及ぼす作用

長崎縣 (昭十年秋)

- 一、副腎の位置機能
- 一、内呼吸と外呼吸に就いて
- 一、鍼の消毒順序方法
- 一、浮白、陰廉、血海の部位、血管、神經との關係
- 一、氣管枝喘息の鍼治法 (以上鍼術學說)
- 一、膀胱の位置各部の名稱及び機能
- 一、體溫調節に就いて
- 一、皮膚消毒の方法
- 一、酒精の價值
- 一、ヒステリーの灸治法 (以上鍼術學說)

愛知縣 (昭十年十月)

- 一、呼吸に必要な筋の名稱
- 一、體溫の調節作用
- 一、左記のものにより鍼及び手を消毒せんとする利害を説明せよ
- 一、(イ)昇汞水 (ロ)煮沸 (ハ)クレゾール水 (ニ)石炭酸水 (ホ)酒精
- 一、顔面神經麻痺の原因及び療法
- 一、肋間神経痛に對する施術法を記せ (以上鍼術學說)
- 一、左記各項の位置を問ふ
- 一、(イ)蟲様突起 (ロ)廻後筋 (ハ)腓骨神經 (ニ)無名動脈 (ホ)下鼻甲介
- 一、腎臓の生理的作用
- 一、消毒薬五つを擧げ手の消毒に利害を述べよ
- 一、遺尿症の原因及び療法
- 一、四華の穴は如何なる疾病に用ひられるか (以上鍼術學說)

朝鮮(慶南) (昭十年十一月)

- 一、胸部に存する血管神經の名稱
- 一、血液の生理的作用
- 一、灸痕化膿の理由及び其の防止法
- 一、顔面神経痛に對する灸治法 (以上鍼術學說)
- 一、頸部に於ける血管神經の名稱
- 一、反射中樞に就いて記せ
- 一、鍼の作用
- 一、三叉神経痛に對する鍼治法 (以上鍼術學說)
- 一、鍼灸術は如何なる場合に禁止するか
- 一、鍼の折込みたる時の處置
- 一、拇指捻挫して痛む時の刺鍼法を實際患者に對すると同様に施して見よ (以上實地)

秋田縣 (昭十年秋)

- 一、肝臓の作用を問ふ
- 一、延髓の位置及び其の機能を問ふ (以上鍼灸共通學說)
- 一、鍼尖轉位術の方式及び其の目的 (以上鍼術學說)

- 一、消毒藥の種類並に其の應用に就き知る處を記せ
- 一、傳染性皮膚疾患者に接したる後は如何なる處置をとるか  
(以上鍼灸共通學說)
- 一、灸柱の大小は如何なる條件により決定されるか  
(以上灸術學說)

靜岡縣 (昭十年秋)

- 一、横隔膜に就いて記せ
- 一、腎臓の生理的作用を問ふ  
(以上鍼灸共通學說)
- 一、偏頭痛に對する鍼灸法如何
- 一、腹部に於ける禁鍼穴を解剖的に舉げよ  
(以上鍼灸學說)
- 一、扁桃腺炎に對する鍼灸法  
(以上鍼灸實地)
- 一、胃腸のアトニーに對する灸治法を問ふ
- 一、翳風、孔最、太谿の應用範圍を舉げよ  
(以上灸術學說)
- 一、秩邊、地機、大腸俞、飛陽の應用

範圍及び取穴法 (以上灸術實地)

長野縣 (昭十年秋)

- 一、腹壁を構成する筋の名稱を腹壁の各部に就き外側より順に列記せよ
- 一、赤血球及び白血球に就きて記せ
- 一、股神經の經過に就きて記せ
- 一、關節の一般的構造を記せ
- 一、坐骨神經痛の鍼灸治療法を記せ
- 一、鍼灸術の施術の際に於ける消毒方法を詳記せよ

新潟縣 (昭十年秋)

- 一、肺臓の構造及び其の機能
- 一、坐骨神經の經過及び脈管、筋肉との關係 (以上共通)
- 一、刺鍼の血管系統に及ぼす生理的現象
- 一、心臓部にある穴名を舉げよ  
(以上灸術學說)
- 一、消毒の必要なる所以及び主なる消毒藥液の調製方法

施術時に於ける消毒方法 (以上鍼灸共通學說)

- 一、三叉神經痛の症狀及び刺鍼法
- 一、胸鎖乳嚔筋に當る穴名及び刺鍼法  
(以上鍼灸學說)

灸の生理的作用

- 一、下腿後側に存する穴名灸の壯數
- 一、胃下垂の症狀及び灸治法
- 一、胃痙攣と膽石痛の區別及び灸治法  
(以上灸術學說)

石川縣 (昭十年秋)

- 一、(イ)上膊中央の横面を畫き之を説明せよ
- 一、(ロ)肺呼吸の機械的作用を記せ
- 一、(イ)急性腎臟炎の病症、豫後、及び治療法
- 一、(ロ)左記經穴の解剖的位置及び禁穴の別を記せ  
神庭、翳風、背脊、飛陽、日月
- 一、施術に際し業者が應用すべき消毒方法及び順序 (以上鍼灸學說)

福井縣 (昭十年秋)

- 一、頸部に於ける筋肉神經及び血管の名稱並に分佈の概要  
(以上鍼灸共通)
- 一、腦神經の名稱を問ふ
- 一、氣管支喘息の原因症候並に刺鍼の目的
- 一、消滯、風池、足の三里の解剖的位置及び其の應用する場合
- 一、鍼術施行の際使用する金屬器具類の消毒方法
- 一、鍼術施行の際消毒不完全なる場合如何なる障礙を來すや  
(以上鍼灸學說)
- 一、顔面神經麻痺に對する刺鍼法
- 一、神經性胃痛の刺鍼法 (以上鍼灸實地)
- 一、齒牙に分佈する血管神經の名稱並に其の起始
- 一、灸の血液に及ぼす作用
- 一、有痕灸と無痕灸との優劣を問ふ
- 一、灸術施行に當り消毒不完全の際如何なる障礙を來すや

ヨードチンキの消毒的意義を問ふ (以上灸學說)

遺尿症の灸治法

- 一、慢性胃加答兒に對する灸治法  
(以上灸實地)

岐阜縣 (昭十年秋)

- 一、腕關節を構成する骨の名稱
- 一、膝關節を構成する筋の名稱及び之を通過する主なる血管神經の名稱
- 一、窒息とは如何、並に之を惹起せしむる理由を問ふ
- 一、無水アルコール使用の皮膚に及ぼす影響を問ふ
- 一、折鍼に就き左の事項を説明せよ
- 一、(イ)豫防 (ロ)處置 (ハ)身體に及ぼす影響
- 一、妊婦便秘症に對する鍼術の可否及び其の理由を舉げ、曲池に就き左の事項を説明せよ
- 一、(イ)取穴法 (ロ)主治效用
- 一、血行器に及ぼす灸術の作用をあげ足の三里に就き左の事項を説明せよ

よ

- 一、(イ)取穴法 (ロ)有效なる位置
- 一、神經炎及び神經痛に對する灸術法並に其の目的

滋賀縣 (昭十年九月)

- 一、腸間膜動脈の起始及び分佈を問ふ
- 一、鼓腸の原因、症狀及び其の治療法を述べよ
- 一、痛痛の原因となるべき疾病を挙げ之等に對する施鍼上の禁忌を述べよ
- 一、左の事項を問ふ  
(イ)石炭酸水の調整法  
(ロ)酒精の消毒方法及び應用の範圍 (以上鍼灸學說)
- 一、顔面神經の起始、經過及び分佈に就いて述べよ
- 一、横隔膜痙攣の原因症狀、灸治法
- 一、半身不隨の原因並に治療法
- 一、左の事項を問ふ  
(イ)理學的消毒方法の種類を列記

せよ  
(ロ)昇汞水の製法及び消毒實施上の注意 (以上灸術學說)

奈良縣 (昭十年秋)

- 一、總頸動脈の起始、經過並に神経との關係を記せ
- 一、小腦の位置及び其の生理的作用を記せ
- 一、鍼に依る興奮術、鎮靜術との手技の差異を記せ
- 一、肝俞、隱白、四瀆、大赫の位置と其の解剖的關係並に應用疾病を記せ
- 一、肘關節部に存する經穴名と各其所屬の經名を記せ
- 一、氣管枝喘息に對する最も有效なる經穴名一つを挙げ其の奏效する理由を説明せよ
- 一、皮膚の消毒方法を詳記せよ
- 一、シメメルプツシュ氏の消毒方法

京都府 (昭十年秋京都)

- 一、腋窩神經の經過並に筋と脈管との關係を記せ
- 一、腸管の構造及び胆汁の作用を記せ
- 一、施灸に適應する肋膜炎を挙げ、是に用ふる經穴並に最も注意すべき點
- 一、陽陵泉、命門に就いて知る所を記せ
- 一、溫溜、復溜の部位と其の解剖的關係並に應用疾患を記せ
- 一、胃痙攣に應用する經穴名を各々其の應用の理由を説明せよ
- 一、消毒の必要なる理由
- 一、十倍昇汞水の調製法及び其の用途並に原消毒薬の性状を問ふ

兵庫縣 (昭十年十月)

- 一、迷走神經の起始及び分佈する内臟を問ふ
- 一、舌の構造及び神經動脈に就いて記せ
- 一、腦充血に對する刺鍼法
- 一、麻痺とは何ぞや
- 一、昇汞の性状及び消毒作用 (以上灸術學說)
- 一、前膊を屈伸する筋を列舉せよ
- 一、脊髄に就いて略記せよ
- 一、灸の適應症と禁忌症
- 一、腸痙攣と腹膜炎の鑑別を問ふ
- 一、クレゾール、石炭酸の性状、溶解法及び用途 (以上灸術學說)

千葉縣 (昭十年十月)

- 一、頸部の筋名及び血管神經の名稱
- 一、皮膚の構造
- 一、白血球の作用
- 一、神經性心悸亢進症の症候及び穴名
- 一、補湯迎隨と刺鍼法
- 一、金屬器具の適切なる消毒法 (以上灸術學說)
- 一、胸廓内にある臟器の名稱と其の位置
- 一、腸の生理的作用を問ふ
- 一、肩胛部の筋と神經の名稱を問ふ
- 一、消毒の定義を記せ

一、肺結核に對する施灸時期並に灸治法

一、灸術の禁忌症に就いて記せ

(以上灸術學說)

埼玉縣 (昭十年十月)

- 一、迷走神經は何れに分佈するや
- 一、四頭股筋の起始停止並に其の作用 (以上灸術學說)
- 一、四肢に鍼を刺入する場合如何なる注意を要するや
- 一、施鍼を避くべき部位
- 一、横隔膜痙攣に對する刺鍼點を記せ
- 一、施鍼局處と器械的消毒法を記せ (以上灸術學說)
- 一、灸治の禁忌すべき場合
- 一、灸治を施す前後の處置
- 一、麻痺に灸術を施す時は如何なる作用ありや
- 一、消毒を施すべき理由を記せ (以上灸術學說)

神奈川縣 (昭十年十月)

- 一、腦神經の名稱
- 一、動脈血と靜脈血との差異
- 一、石炭酸水の製法及び其の使用上の注意
- 一、手指の消毒法
- 一、腹部正中線の穴名
- 一、禁鍼穴の名稱 (以上灸術學說)
- 一、消化器の名稱
- 一、皮膚の生理的作用
- 一、衣類の消毒法
- 一、消毒薬の名稱及び其の製法
- 一、灸の種類
- 一、灸の循環器に及ぼす作用 (以上灸術學說)

岡山縣 (昭十年十月)

- 一、胸廓を構成する骨の名稱並に聯接
- 一、ビタミンに付いて
- 一、軟骨の作用
- 一、舌を運動する神經の名稱及び起始經過
- 一、化學的消毒法
- 一、鍼具の理想的消毒法

一、法定石炭酸の製法

一、灸痕化膿の原因

一、鍼の遺感とは如何

一、驚口蒼の症候並に鍼治法

一、書瘰の灸治法

一、バゼドー氏病の症候及び灸治法 (以上學說)

一、アテトーゼ病症状並に之に鍼治の方法並に灸の灸方及び刺鍼取穴 (以上實地)

一、坐骨神經の起始經過

一、血壓に就いて知る處を記せ

一、クレゾール水の性状並に其の消毒的價値を問ふ (以上共通)

一、胸腹部の禁鍼穴を説明せよ

一、急性氣管枝加答兒の原因症候及び其の鍼治法を問ふ

一、下腿の禁灸穴を説明せよ

一、遺尿症とは何ぞや及び其の灸治法を説明せよ

一、消毒の定義を記せ

一、坐骨神經の起始經過

一、血壓に就いて知る處を記せ

一、クレゾール水の性状並に其の消毒的價値を問ふ (以上共通)

一、胸腹部の禁鍼穴を説明せよ

一、急性氣管枝加答兒の原因症候及び其の鍼治法を問ふ

一、下腿の禁灸穴を説明せよ

一、遺尿症とは何ぞや及び其の灸治法を説明せよ

沖繩縣 (昭十年秋)

- 一、唾液腺の所在及び生理的作用を記せ
- 一、誘導の目的に對する刺鍼の方式を記せ
- 一、鳩尾、石門、京門、三陰交、湧泉の解剖的位置を示せ
- 一、鍼術の臨牀消毒法の順序方法を記せ
- 一、三叉神經の起始、分佈を記せ
- 一、鍼術に於ける制止法、興奮法とは如何、各例を示し説明せよ
- 一、刺鍼によりて交感神經に及ぼす影響如何
- 一、肋間神經痛の症候並鍼治點、術式を記せ (以上鍼術學說)
- 一、皮膚の構造及び感覺の性質に就いて述べよ
- 一、有熱患者に灸術を施す時は如何なる影響を及ぼすや
- 一、脚氣病の下肢に施すべき穴名を明記し其の部位を示せ
- 一、灸術を行ふに消毒の必要なる理由及び其の順序方法を記せ

- 一、人體に於ける新陳代謝機能の概要を述べよ
  - 一、灸點後の皮膚組織並に血液に及ぼす變化
  - 一、神經系病の灸の適應症を挙げよ
  - 一、氣管枝喘息の原因症狀並に之に對する灸治法如何 (以上灸術學說)
- 北海道 (昭十年九月)
- 一、刺戟と興奮との關係に就いて知れる所を記せ
  - 一、大腿骨に起始を有する筋肉並に其の支配神經の名稱を挙げよ
  - 一、刺鍼の禁忌症並に禁忌部位を記せ
  - 一、小兒麻痺に對する刺鍼の方法
  - 一、刺鍼に際して行ふべき消毒の方法を記せ
  - 一、十種傳染病を挙げ各種原體の侵入門戸に就いて記せ (以上鍼術學說)
  - 一、皮膚の構造及び作用
  - 一、施灸に依つて起る皮膚の組織學的變化を記せ

- 一、坐骨神經痛に對する灸治療法を記せ
  - 一、灸治作用に就いて記せ
  - 一、化學的消毒法に就いて述べよ
  - 一、左記傳染病傳染の徑路  
結核、腸チフス、デフテリア、發疹チフス、淋疾、赤痢、トラホー  
ム (以上灸術學說)
- 鹿兒島縣 (昭十年秋)
- 一、坐骨神經の經過分佈並に筋との關係
  - 一、吾人の一日に必要な營養素量並にカロリーに就いて説明せよ
  - 一、普通使用せらるる消毒藥三種を挙げ其の藥液調製法及び使用上注意すべき點を記せ
  - 一、次に示す經穴の部位を問ふ  
(イ)光明 (ロ)膝關 (ハ)中極  
(ニ)梁門
  - 一、鍼の細大長短が疾病治癒に及ぼす影響

- 一、膽石痛の原因、症候及び之に對する鍼治療の可否に就き述べよ
  - 一、胃擴張と胃アトニーとの相違點並に灸治法に就いて述べよ
  - 一、膀胱麻痺に對する灸治の目的及び灸點の部位 (以上鍼灸共通學說)
- 東京府 (昭十一年三月)
- 一、(イ)延髓の位置、構造の概略及び其の機能
  - 一、(ロ)白血球を説明せよ
  - 一、(イ)理想的消毒藥としての條件 (ロ)石炭酸に就いて述べよ (以上鍼灸共通學說)
  - 一、頭部二側線に存する穴名を挙げよ
  - 一、鍼に適する頭痛の種類と施術の方法を述べよ
  - 一、肩背部の刺鍼法 (以上鍼術實地)
  - 一、上肢に存する穴名
  - 一、神經性胃痛に對する施灸の方法如何
  - 一、膝關節ロイマチスに對する灸治療

- 法 (以上灸術學說)
- 北海道 (昭十一年三月)
- 一、心臟の構造、特に腔辨及び心臟に開口する血管に就いて説明せよ
  - 一、唾液の性状及び作用を記せ
  - 一、慢性胃加答兒に對する療法を記せ
  - 一、頭部に於ける刺鍼點を解剖學的に説明せよ
  - 一、創傷傳染病とは何ぞや
  - 一、加熱消毒法の一を挙げて其の方法を記せ (以上鍼術學說)
  - 一、腹壁を構成する筋の名稱
  - 一、體溫調節の作用を説明せよ
  - 一、脚氣に對する療法
  - 一、灸治に於ける反射作用を説明せよ
  - 一、消毒及び滅菌の意義を記せ
  - 一、丹毒に對する豫防法を記せ (以上灸術學說)
- 山梨縣 (昭十一年三月)
- 一、胸廓を構成する骨名
  - 一、脾臟の位置、機能

- 一、心臟の神經機能
  - 一、手の完全なる消毒法
  - 一、左の孔穴の位置を問ふ  
上關、或中、腹哀、清冷淵、大杼  
(以上鍼術學說)
  - 一、淋巴腺の主なる所在及び機能を問ふ
  - 一、腎臟の位置、機能
  - 一、大動脈より分岐する神經の名稱
  - 一、皮膚の消毒法を問ふ
  - 一、左の孔穴の位置を問ふ  
天鼎、氣戶、卒谷、支溝、身柱  
腦溢血の原因、症狀、療法  
(以上灸術學說)
- 徳島縣 (昭十一年春)
- 一、喉頭軟骨相互の連接
  - 一、赤血球の作用
  - 一、消毒の種類 (以上共通學說)
- 山形縣 (昭十一年春)
- 一、副交感神經の作用
  - 一、横隔膜痙攣の症狀並に療法

- 一、理學的消毒及び化學的消毒に就いて且つ其の利害得失
- 一、刺鍼時に當り注意事項

兵 庫 縣 (昭十一年春)

- 一、前膊前側諸筋を列舉せよ
- 一、血液の性分
- 一、施鍼に對し注意事項
- 一、鍼の腸管に及ぼす作用
- 一、消毒藥としての必要條件

(以上鍼術學說)

一、脾白關節の構成

一、動脈血の靜脈血區別

一、神經の反射機能

一、灸の筋肉に對する作用

一、沃度チンキの消毒效果

(以上灸術學說)

三 重 縣 (昭十一年春)

- 一、頭蓋骨縫合の種類及び所在
- 一、喉頭の構造及び作用
- 一、四肢に存する禁鍼穴及び其の位置
- 一、急性關節炎に對する施鍼法

一、加熱消毒方法に於ける注意點

一、日本藥局方石炭酸六十瓦を使用し  
て三多石炭酸水の調製法

(以上鍼術學說)

一、人體の組織に就いて知る處を記せ

一、知覺作用を述べよ

一、灸の刺戟療法としての價值如何

一、喘息に對する灸療法

一、蒸氣消毒に就いて知る處を記せ

一、左の物品の適當なる消毒法

金ダラヒ、タオル、革財布、書籍  
硝子製コップ (以上灸術學說)

青 森 縣 (昭十一年春)

- 一、足の陽明胃經中腹部にある穴名並に分佈神經及び此の穴に當る内臟
- 一、黃疸の原因及び鍼術(灸術)療法
- 一、大腿の筋肉を擧げ各々に就いて運動神經及び血管の分佈を説明せよ
- 一、心臟の機能及びその支配神經を述べ且つ末梢部血管との關係を記せ
- 一、施術時に於ける消毒の目的
- 一、消毒藥品の名稱及び其の稀釋度

(以上鍼灸學說共通)

滋 賀 縣 (昭十一年春)

- 一、頸部に於ける主要なる神經及び動脈の名稱並に位置的關係
- 一、腹痛を招來する疾病の種類を擧げ鍼術施術上の禁忌すべき場合
- 一、横隔膜痙攣の原因、症候、治療法
- 一、左の消毒藥品に適當する物件の種類
- (イ)アルコール
- (ロ)石 炭 酸 (以上鍼術學說)
- 一、大腿に於ける筋と神經、脈管の關係
- 一、黃疸の發來原因施灸上の注意事項
- 一、腰痛を惹起する疾病及び灸療法
- 一、左の物件の最適と認むべき消毒法
- (イ)手指 (ロ)衣服 (ハ)喀痰
- (ニ)尿管 (以上灸術學說)

香 川 縣 (昭十一年春)

- 一、肝臟の位置、構造、作用
- 一、腋窩を構成する筋の名稱及び此の部を通過する血管、神經の名稱を

記せ

(イ)純アルコールを適度に稀釋する時は消毒力を増す理由

(ロ)手指の消毒法

(イ)耳に近接する穴名十記をせ

(ロ)左の諸穴の位置、分佈神經並に禁鍼灸に該當するものを記せ

五里(大腸經)、腦戶、神門、陰市、肩貞 (以上鍼灸共通學說)

一、鍼の神經に對する作用 (灸術)

一、胃疾患に對する灸療の目的及び方法 (灸術)

熊 本 縣 (昭十一年春)

- 一、脊髓の構造並に其の機能
- 一、大腿中央部に於ける筋肉、神經及び血管の關係
- 一、理學的消毒に就いて記し其の種類を擧げよ
- 一、鍼器並に局所の消毒法 (以上鍼術學說)

一、腎臟の構造並に其の機能

一、腋窩の筋と神經脈管の關係

一、手指の消毒法

一、石炭酸、酒精、昇汞の消毒價值 (以上灸術學說)

一、減乳症に對する刺戟法

一、撓骨神經の深枝に刺戟せよ (以上鍼術實地)

一、腦溢血に對する施灸時期及び點灸法

一、肩外、天膠、温溜、京門、京骨の部位 (以上灸術實地)

福 井 縣 (昭十一年春)

- 一、腸各部の名稱及び其の機能
- 一、三叉神經の起始及び分佈狀態
- 一、鍼の神經に及ぼす作用
- 一、孔最、三陰交、天柱の解剖的部位又其を應用する場合
- 一、施術に臨み消毒を行ふ順序
- 一、患者の消毒に最も有效なる消毒法 (以上鍼術學說)
- 一、胃の位置及び各部の名稱並に機能

一、顔面神經の經路を問ふ

一、施灸の血管及び神經に及ぼす作用

一、灸の深達作用に就いて記せ

一、酒精を以て消毒を行ふ場合如何にすべきや

一、左の物件に適當なる消毒方法

(イ)白衣 (ロ)手指 (ハ)患部 (以上灸術學說)

靜 岡 縣 (昭十一年春)

- 一、坐骨神經の經路を問ふ
- 一、肩胛關節の構造及び其の運動に與る筋の起始、停止を簡單に記せ (以上鍼灸共通學說)
- 一、坐骨神經痛の鍼治療法
- 一、胃瘧瘵の鍼治療法及び其の應用穴名並に重要なもの三個の取穴法 (以上鍼術學說)
- 一、慢性胃加答兒に對する灸療法
- 一、合谷、天柱、足の三里、巨闕、曲骨の應用病名及び部位 (以上灸術)

新 潟 縣 (昭十一年四月)

一、大腿部に於ける筋肉血管、神経の關係を述べよ

一、呼吸作用を説明せよ

一、鍼の興奮作用 (以上鍼灸共通)

一、頸部に於ける刺鍼の深さ並其注意、消毒の目的及び主なる消毒薬の種類 (以上鍼術學說)

一、鍼、手指、施術、局處の消毒方法、三叉神経痛の症狀及び其の刺鍼法 (以上鍼灸共通學說)

一、腹部正中に位する穴名及び刺鍼法 (以上鍼術學說)

一、胃に當る穴名及び灸の壯數如何、灸の生理的作用

一、筋肉ロイマチスと神経痛との區別及び灸治法

一、灸點後の處置 (以上灸術學說)

千葉縣 (昭十一年六月)

一、陰陵泉、陰谷、解谿の部位及び指壓

一、下腿前側に刺鍼、手技、間歇術

一、鍼の強弱に就いて (以上鍼術實地)

一、通里、會宗、陽谿の部位及び指壓、痔疾に對する灸治法及び壯數

一、灸の強弱に就いて (以上鍼術實地)

埼玉縣 (昭十一年四月)

一、心臟の位置、形狀、及び作用、胃を支配する神経の名稱及び作用を記せ

一、子宮痙攣に對する刺鍼の部位及び目的を記せ

一、折鍼の理由處置を問ふ

一、頸部に刺鍼の際注意すべき點、鍼器の消毒に使用する藥品名及び其の使用方法を記せ

一、灸の種類及び方法を記せ

一、灸の禁忌の部位及び場合を記せ

一、高熱患者に對する施灸の可否、消毒薬の名稱及び消毒の必要なる理由を記せ (以上灸術學說)

一、捻骨神経痛に對する療法

一、同右の間に對する施鍼法

一、腸痛に對する鍼治療法の必要條件

一、同術式

一、直接、間接、反射の三刺鍼とは如何なるものなりや例を挙げよ

一、偏頭痛に對する療法(術式)

一、肩胛痛とは如何なるものなるや、肩胛痛に對する術式

一、捻骨神経痛に對する灸療法

一、灸の治療的効用に就いて (以上實地)

大阪府 (昭十一年四月)

一、内頸動脈の起始經過枝別の名稱及び靜脈、神経との關係を記せ

一、脊髓の反射作用を圖を以て記せ

一、乾熱滅菌と濕熱滅菌の優劣を比較せよ

一、消毒薬の備ふ可き必要を問ふ

一、施鍼の血球に及ぼす影響並に其の理由を問ふ (以上鍼灸共通學說)

方法を明記すべし (以上鍼術學說)

一、神經性胃痛の原因症候及び鍼治點

一、肺俞、神封、環跳の解剖的部位取穴法及び主治 (以上鍼術實地)

一、迷走神経の起始及び之が分佈する内臟を示せ

一、延髓の機能及び諸中樞を述べよ

一、膀胱麻痺の症狀を詳記せよ

一、痛痛とは如何なる病なるか

一、最も適當なる手術衣(白衣)の消毒方法を問ふ

一、次の事項につき説明せよ

イ、消毒用アルコール

ロ、皮脂腺

ハ、卒中様發作 (以上灸術學說)

一、屋翳、建里、肝俞、陰陵泉の解剖的部位及び、主治應用

一、坐骨神経痛の症候及び灸治點 (以上灸術實地)

岩手縣 (昭十一年五月)

一、坐骨神経の起始及び其の分佈を問

一、肘關節にある穴名を挙げ其の經名解剖學的部位並に取穴法を記せ (以上灸術學說)

一、灸の適應症及び不適應症二三を挙げ其の理由を説明せよ

一、前頂、中腕、四瀆、肝俞、陰陵泉の部位應用並に經名を問ふ (以上鍼術學說)

朝鮮慶南道 (昭十一年四月)

一、折鍼の防止及び折鍼時に於ける處置を記せ

一、小腸の生理的作用

一、神經性消化不良に對する鍼治法 (以上鍼術學說)

一、顔面神経の分佈を問ふ

一、唾液の消化作用

一、灸を忌避すべき箇所と場合

一、膀胱麻痺の治療法 (以上鍼術學說)

愛知縣 (昭十一年四月)

一、皮膚の構造を説明せよ

一、反射運動の刺戟傳導を説明せよ

一、化學的消毒法に就き述べよ

一、腹痛に對する刺戟上の注意事項を記せ

一、神經性心悸亢進症の症狀及び療法如何 (以上鍼術學說)

一、左の各項の位置を問ふ

1、下鼻甲介 2、延髓 3、人中 4、白線 5、胸腺

一、口腔の作用に就いて

一、石炭酸、昇汞は如何にして使用するや

一、骨系統に及ぼす灸の影響に就いて

一、高血壓症に對する施灸法を記せ (以上灸術學說)

栃木縣 (昭十一年春)

一、腹膜の解剖及び機能を問ふ

一、淋巴腺の構造及び作用を問ふ

一、黄疽の原因及び症候を問ふ

一、尺骨神經麻痺の症狀を記せ

一、震顫麻痺の原因及び症候を述べよ

一、鍼に適當なる消毒薬及び其の消毒

- 一、新陳代謝とは如何
- 一、鍼術及び灸術の禁忌症と禁忌點如何
- 一、偏頭痛の原因、症候及び其の鍼治療法並に灸治療法如何
- 一、手背及び衣服の消毒に就いて記せ (以上鍼灸共通學說)

富山縣 (昭十一年四月)

- 一、脾臓の位置形状機能を記せ
- 一、交感神経に就いて知る所を記せ
- 一、顔面神経痛の原因並に之に對する鍼治法を記せ
- 一、腸痛の症狀並に之が鍼治法
- 一、結核と、トラホーム豫防上の要點
- 一、理學的消毒法に就いて (以上鍼術學說)
- 一、肝臓の位置、形状、構造を記せ
- 一、迷走神経に就いて記せ
- 一、尺骨神経麻痺の症狀並に灸治法
- 一、胃下垂症の症狀並に灸治法を記せ
- 一、主なる呼吸器傳染病に就いて其の

主要症狀を述べよ

石川縣 (昭十一年五月)

- 一、アルコールの性状並に其の應用
- 一、横隔膜の機能及び之に接する臓器の名稱を挙げよ
- 一、腕骨神経麻痺の原因症狀及び治療法
- 一、アルコール(酒精)の消毒力に就いて (以上灸術共通學說)

奈良縣 (昭十一年五月)

- 一、頸部に於ける血管神経に就いて記せ
- 一、腎臓の位置、形状作用に就いて
- 一、腹部刺鍼法並に注意すべき事項
- 一、肝臓、委中の部位並に解剖的關係と其の穴の應用せらるゝ場合を問ふ
- 一、日光の消毒的價値に就いて
- 一、消毒藥品三種を挙げ各調製法並に消毒上の應用に就いて記せ (以上鍼術學說)

一、頸骨神経の起始、經過並に分佈を記せ

一、利尿作用に就いて説明せよ

一、麻痺に對する施灸法と奏効する理由

一、肺結核に對する施灸の時期並に施灸時に於ける注意事項

一、室内消毒に就いて詳記せよ

一、理學的消毒と化學的消毒の應用範圍を記せ (以上灸術學說)

和歌山縣 (昭十一年六月)

- 一、下肢の主なる神経並に動脈の經過
- 一、腎臓の位置、形状並に機能を記せ
- 一、腹痛に對する鍼治法並に施術時の注意
- 一、顔面神経麻痺に對する鍼治法
- 一、左の消毒藥の用法並に長所短所を記せ
- 一、石炭酸水、クレゾール、アルコール、昇汞水 (以上鍼灸共通學說)

廣島縣 (昭十一年五月)

一、胸廓を構成する骨の名稱及び其の聯接に就いて知る所を記せ

一、大循環に就いて詳記せよ

一、下腿前側に在る穴名を記せ

一、肋間神経痛に對する鍼治法其の目的

一、肩胛神經痛に對する灸治法を問ふ

一、消毒藥の種類及び其の溶解法 (共通)

一、金屬器具に對する消毒法 (共通)

長崎縣 (昭十一年四月)

- 一、腹膜に就いて記せ
- 一、内分泌に就いて知る所を記せ
- 一、腹溜、腋門、秉風の位置及び其の部に於ける筋、血管、神經の關係を記せ
- 一、鍼術の血液循環に及ぼす作用に就いて記せ
- 一、鍼の消毒に於ける注意 (以上鍼術學說)
- 一、膀胱の位置及び機能
- 一、血壓に就いて

一、外丘、内關、天谿の位置及び其の部位に於ける筋、血管、神經の關係

一、灸術の白血球に及ぼす作用に就いて

一、クレゾール水の調製法及び其の用途 (以上灸術學說)

山口縣 (昭十一年五月)

- 一、脾臓の位置、形状及び生理作用
- 一、肘窩を通過する主要なる血管及び神經の名稱
- 一、各種消毒藥の名稱及び其の溶解法 (以上鍼灸共通學說)
- 一、麻痺に對する鍼治療法
- 一、三角筋周縁に存する經穴の名稱及び部位を問ふ (以上鍼術學說)
- 一、灸の中毒作用は如何なるものか
- 一、氣管枝加答兒に對する灸治療法 (以上灸術學說)

宮崎縣 (昭十一年五月)

一、鼠蹊窩を構成する筋及び通過する脈管、神經の名稱並に位置を問ふ

一、肝臓の位置、構造及び機能に就いて

一、消毒藥五種を挙げ消毒の必要なる理由 (以上鍼灸共通學說)

一、腸痛とは如何、其の刺鍼法及び奏効する理由

一、上肢、下肢に於ける禁鍼穴を記せ (以上鍼術學說)

一、氣管枝喘息の原因、症候及び灸治法に就いて

一、上肢、下肢に於ける禁灸穴を記せ (以上灸術學說)

秋田縣 (昭十一年春)

- 一、筋の興奮疲勞を説明せよ
- 一、淋巴、淋巴管、淋巴腺を説明せよ
- 一、アルコールを用ふる消毒藥につきて知る所を記せ
- 一、昇汞水使用上の注意を述べよ (以上鍼灸共通學說)
- 一、回旋法の方式及び其の作用を問ふ



(鍼術學說)

一、施灸の際注意すべき事項

(灸術學說)

京都府 (昭十一年春)

一、胸鎖乳筋筋に蔽はれたる神経脈管を説明せよ

一、肺臓及び肋膜の構造並に作用を記せ

一、化學的消毒法四種を挙げ其の特徴及び應用を記せ

一、クレゾール水と昇汞水との消毒上の優劣並に應用を記せ

(以上鍼灸共通學說)

一、天柱、水泉、至陽、大淵の部位並に應用せらるゝ場合を問ふ

一、坐骨神経痛に對する刺鍼法と之に用ふる經穴の部位を問ふ

(以上鍼術學說)

一、半身不隨に施灸の可否及び注意

一、張氏四華の取穴法 (以上灸術學說)

鳥取縣 (昭十一年五月)

一、後頭骨を圖解せよ

一、腦神経中味覺に關係あるものに就き説明せよ

一、左の語に就き説明せよ

(イ)血液型 (ロ)内呼吸 (ハ)ホルモン

一、大腿前側に於ける筋肉に就き詳記せよ

一、吃逆に關係ある神経の名稱及び其の分佈を述べよ

一、胃に分佈する血管に就いて

一、理學的消毒法の種類

一、消毒用昇汞水を調製する場合食鹽を加ふる目的如何

(以上鍼灸共通學說)

一、肋間神経痛に對する治療點指壓

(以上鍼灸共通學說)

一、同經穴の解剖的關係の説明

(以上鍼術實地)

一、四華患門の取穴法 (以上灸術實地)

大分縣 (昭十一年春)

一、顔面を構成する骨の名稱、之に起

始停止する筋分佈する血管、神經

一、甲狀腺並に胸腺に就いて

一、昇汞水の消毒力を有する理由、及び溶解法並に應用時の注意

一、肩井、臑中、大敦の部位解剖的關係及び適應症 (以上鍼灸共通學說)

一、關節炎に對する鍼の利害如何

(鍼術學說)

一、灸の種類並に施術方法

(灸術學說)

滋賀縣 (昭十一年九月)

一、胸廓を形成する筋肉の名稱及び起始停止に就いて述べよ

一、偏頭痛の原因、症狀及び鍼治法

一、脚氣の原因、症狀及び鍼治法

一、左の物品に對し最も適する消毒法

(1)吐物 (2)作業衣 (3)略褌 (4)鍼具 (以上鍼術學說)

一、腎臟の位置、形狀及び構造を述べ、其の機能に就いて詳述せよ

一、炎症とは如何、又之に對する灸治法の實地價値を問ふ

一、肩痛を惹起する疾病を挙げ之等に對する灸治法を問ふ

一、左の物體の消毒法を問ふ

皮膚、病室、書籍、便所及び便器時計 (以上灸術學說)

大阪府 (昭十一年九月)

一、皮膚の構造及び知覺作用を説明せよ

一、消毒劑は如何なる條件の上に最も其の効力を發起するか

一、胃療學の鍼治法を挙げ其の選びたる經穴部位を述べよ

一、鍼術に依る反射作用とは何ぞ且其の實例に就いて説明せよ

一、艾の良否鑑別要點を挙げよ

一、脚氣八處の灸穴とは何ぞ、其の名稱部位解剖的關係並びに其の應用上の價値に就いて (以上灸術學說)

富山縣 (昭十一年九月)

一、血液の生理的作用

一、副神經の經過及び機能

一、胃擴張の原因鍼治法

一、坐骨神経痛の原因鍼治法

一、手指消毒法

一、法定傳染病中の發疹病の種類及び豫防法 (以上鍼術學說)

一、腎臟の位置、形狀、機能

一、小腦に就いて

一、脚氣の症狀及び灸治法

一、胃下垂症の主なる症候及び灸治法

一、蒸氣消毒施行法

一、消化器傳染病の豫防法及び潜伏期

(以上灸術學說)

青森縣 (昭十一年九月)

一、腹痛に刺鍼(灸點)の際如何なる點に注意すべきか

一、鍼灸の誘導作用とは如何、例を舉げて説明せよ

一、上肢を構成する主なる筋肉を挙げ其の分佈神經及び脈管に就いて

一、横隔膜の作用及び之を通過する器官の名稱

一、消毒藥品の名稱を挙げ各々につき

稀釋度並びに其の消毒に適する物體を問ふ

一、理學的消毒法に就き知る所を記せ

(以上鍼灸共通學說)

奈良縣 (昭十一年十月)

一、膝關節の構成を記し此の部に於ける血管神經の關係に就いて

一、尿の分泌、排泄作用を述べよ

一、陽池、血海、脾俞、大横の部位並びに之が應用疾病を記せ

一、神經痛に對する刺鍼の方式並びに奏効の理由

一、昇汞水の用途並びに其の禁忌を問ふ

(以上鍼術學說)

一、三叉神經第三枝に就いて

一、咽頭の構造並びに嚥下作用を述べよ

一、腦溢血に對する施灸の豫防的價値に就いて

一、鼻疾患の適應症と其の應用穴名部位

一、理學的消毒法種別を挙げ且各消毒

法の長短を記せ (以上灸術學說)

三 重 縣 (昭十一年十月)

- 一、神經系統に就いて知る處を述べよ
- 一、膝臟の位置、形狀、作用を述べよ
- 一、肩胛關節「ロイマチス」に對する鍼治法に就いて
- 一、鍼の消毒作用に就いて
- 一、室内の消毒方法
- 一、鍼具の消毒方法 (以上鍼術學說)
- 一、左の臟器の位置、形狀、作用、脾臟、甲狀腺
- 一、靱帯の性状、種類及び作用を述べよ
- 一、肺結核に對する灸の處方及び其の撰穴理由
- 一、灸の新陳代謝に及ぼす影響如何
- 一、室内の消毒方法 (以上灸術學說)
- 一、蒸氣消毒の方法。 (以上灸術學說)

長 野 縣 (昭十一年十月)

- 一、胸腺に就いて
- 一、交感神經の作用

- 一、脊髄癆の症狀を述べよ
- 一、舞踏病の徴候を記せ
- 一、ヨードチンキの消毒薬として優れる點に就いて
- 一、左に就いて知れる處を記せ
- 一、偏癱、蟻走感、ミハエリ氏菱形窩

(以上鍼術學說)

- 一、脊柱を構成する骨數及び區別を問ふ
- 一、膽汁の性状、成分並びに作用に就いて
- 一、艾灸に依る火傷の種類に就いて
- 一、防腐法、制腐法の區別を記せ
- 一、胃瘻瘻の症狀及び鑑別
- 一、坐骨神經痛の原因及び症狀

(以上灸術學說)

島 根 縣 (昭十一年十月)

- 一、十二指腸並びに之に關係ある臟器の名稱を擧げ其の主なる機能に就いて詳記せよ
- 一、交感神經に就いて知る處を記せ (以上鍼灸共通學說)

- 一、腹水の原因症候に就いて記し之が療法及び其の注意を問ふ
- 一、胃擴張の原因、症候、治穴並びに之に奏効するの理由如何

(以上鍼術學說)

- 一、低溫殺菌法に就いて詳記せよ
- 一、イ、乾熱滅菌と煮沸消毒に就き例を擧げて説明せよ
- 一、法定傳染病患者の排泄物の消毒法を記せ (以上鍼灸共通學說)

横隔膜瘻瘻

- 一、正中神經麻痺(刺鍼)(以上鍼術實地)
- 一、糖尿病に對し施灸經穴中主なる者五穴を擧げ其の効ある理由
- 一、膝關節の穴の名稱、解剖的關係並びに其の治療的効果に就いて詳記せよ (以上灸術學說)
- 一、肩胛痛
- 一、足關節ロイマチス (以上灸術實地)

栃 木 縣 (昭十一年十月)

- 一、膝關節は何關節の種類に屬するや

及び何筋に依りて屈伸するや及び其の効用を記せ

- 一、淋巴管とは何ぞや及び其の効用を記せ
- 一、ヘツド氏帶と鍼術との關係を詳記せよ
- 一、肩の凝りの原因及び刺鍼點如何
- 一、消毒薬、四種を擧げ並びに鍼治に於ける消毒方法
- 一、消毒方法の種類を記し其の効用
- 一、神經痛に鍼術の奏効する理由
- 一、胃疾患中鍼術の適應症及び刺鍼點 (以上鍼術學說)
- 一、腸の各部の名稱並びに其の生理的作用を述べよ
- 一、鼠蹊窩を構成する筋の名稱及び通過する血管神經の名稱
- 一、赤、白血球に及ぼす灸術の影響を概説せよ
- 一、上肢に存する孔穴名及び主治應用
- 一、消毒用昇汞水の製法並びに使用上の注意

一、三多石炭酸水牛立の調製法 (以上灸術學說)

秋 田 縣 (昭十一年十月)

- 一、胃の略圖を書き各部の名稱
- 一、小循環を説明せよ
- 一、坐骨神經の經過
- 一、次の各穴の解剖的部位を説明せよ 腎俞、天樞、百會
- 一、風池、曲池、陰陵泉
- 一、施灸前後の注意事項
- 一、煮沸消毒法を述べよ
- 一、消毒の必要なる所以を例を擧げて説明せよ (以上鍼灸共通學說)

宮 城 縣 (昭十一年十月)

- 一、イ、顔面に分佈する神經並びに其の作用
- 一、腸管内の消化作用
- 一、腹痛患者に對する刺鍼法に就いて (以上鍼灸共通學說)
- 一、皮膚より侵入する傳染病に就いて説明し且之が業務上の豫防處置

(以上鍼術學說)

- 一、動脈硬化症に對する灸療法 (以上灸術學說)
- 一、艾炷を合谷に貼ぜよ
- 一、灸の種類
- 一、蛋白療法とは、及び灸との差異
- 一、有痕灸と無痕灸とは何れが効くや其の理由 (以上鍼術實地)

福 島 縣 (昭十一年十月)

- 一、肝臟の位置、形狀、區別、及び其の作用
- 一、膝關節を構成する筋の名稱及び神經血管との關係 (以上鍼灸共通學說)
- 一、神經性嘔吐に對する刺鍼點
- 一、慢性胃カタルに對する鍼法
- 一、曲差、三陰交、迎香の解剖的部位
- 一、無水アルコール、普通アルコールとの消毒力の差如何 (以上鍼術學說)
- 一、氣管枝喘息の灸療法
- 一、慢性胃カタルの灸療法
- 一、水泉、大迎、玉堂の解剖的部位を

詳記せよ

- 一、アルコールの消毒作用に就きて (以上灸術學說)
- 一、彈入法の種類
- 一、天柱、風池、曲垣、肩貞、肩中俞、頰會、環中、秉風、身柱の指壓
- 一、右の二問の一穴 (各人に依り異りたる穴) に刺鍼し鍼尖轉位術 (以上鍼術實地)
- 一、灸術の手法如何 (以上灸術實地)
- 一、鍼術と同穴名の指壓 (以上灸術實地)

神奈川縣 (昭十一年十月)

- 一、大循環と小循環との差異如何
- 一、脊柱の兩側に於ける刺鍼の影響並びに脊部一側線の穴名 (以上鍼術學說)
- 一、病毒に汚染したる物品の消毒方法 (以上灸術學說)
- 一、呼吸器に就いて識る所を述べよ
- 一、風池の部位及び其の適應症
- 一、手指の完全なる消毒方法 (以上灸術學說)

大分縣 (昭十一年秋)

- 一、頭蓋底を構成する骨の名稱並に同部を通過する血管神經に就いて (血管神經は起始、經過、分佈まで書く)
- 一、小骨盤内に於ける臟器の位置、名稱及び其の生理的作用
- 一、石炭酸水と昇汞水の消毒上に於ける利害に就いて
- 一、勵兌、瘧門、晴明の部位、解剖的關係並びに適應症
- 一、腦疾患に對する鍼の利害に就いて
- 一、腹膜炎に對する灸の利害に就いて (以上鍼灸共通學說)
- 一、腰痛の鍼治、不眠症と鼓腸の灸治 (以上鍼灸實地)

沖繩縣 (昭十一年十月)

- 一、上膊に於ける筋、神經及び脈管の名稱
- 一、腦神經の名稱を挙げ且運動知覺の區別を明記せよ
- 一、人體に於ける新陳代謝機能の概要

を述べよ

- 一、鍼術治療上に伴ふ危険は如何なる場合に於いて起るや其の豫防方法
- 一、鍼術に於ける制止法與奮法とは如何、例を挙げて説明せよ
- 一、頭部に於ける禁鍼穴名部位を記せ
- 一、鍼術に應用すべき消毒藥三種を挙げ其の使用方法を詳述せよ
- 一、偏頭痛の施鍼方法及び其の效力ある理由 (以上鍼術學說)
- 一、唾液腺の名稱並び其の生理的作用
- 一、三叉神經の起始經過及び其の分佈
- 一、灸に最適する疾病を挙げ其の有効なる理由
- 一、施灸部の化膿する理由並びに其の處置
- 一、灸の皮膚に及ぼす作用及び影響
- 一、灸術業者に消毒の必要なる理由並び消毒方法の順序
- 一、胸部に於ける禁灸部位穴名
- 一、腰痛の原因症狀及び施灸法 (以上灸術學說)

北海道 (昭十一年秋)

- 一、刺戟と興奮との關係に就いて知る所を記せ
- 一、臀部に於ける筋の名稱及び其の支配神經
- 一、神經痛に對する鍼治法
- 一、顔面神經麻痺に對する鍼治療法 (施鍼點は解剖的名稱を以てすること)
- 一、施鍼に際して行ふべき消毒法
- 一、創傷傳染病に就いて知る所を記せ (以上鍼術學說)
- 一、皮膚の構造並びに生理作用
- 一、火傷の組織學的變化を記せ
- 一、肋間神經痛に對する施灸點を解剖學的名稱を以て記せ
- 一、遺尿に對する灸治療法
- 一、施灸時に術者の行ふべき消毒方法
- 一、接觸傳染とは何ぞ例を挙げて説明せよ (以上鍼術學說)

石川縣 (昭十一年十月)

- 一、左の物件に適する消毒法一種を問

ふ

- 一、(イ)施術衣 (ロ)手指 (ハ)患部
- 一、(ニ)坐布團 (ホ)紙屑
- 一、(イ)股關節に就いて
- 一、(ロ)淋巴の生理に就いて
- 一、(イ)膽石症の症狀と療法
- 一、(ロ)左記穴の解剖的部位と陽禁の別を記せ
- 一、百會、肩井、神闕、長強、三陰交 (以上鍼灸共通學說)

静岡縣 (昭十一年十月)

- 一、腰神經叢より出づる主なる神經の名稱と其の經過及び分佈
- 一、消化液の各特異作用と其の分泌器官の名稱 (以上鍼灸共通學說)
- 一、肘關節にある穴名を挙げ其の經絡名解剖的部位並に取穴法
- 一、顔面神經麻痺の原因症狀及び療法 (以上鍼術學說)
- 一、任脈經及び督脈經に屬する禁灸の穴を挙げ其の位置並びに禁する理由

和歌山縣 (昭十一年十月)

- 一、消化器系に於ける灸の適應症三種を挙げ其の奏效する理由 (以上灸術學說)
- 一、皮膚の構造及び生理作用
- 一、後頭部の穴名其の各部位を問ふ
- 一、業務上常に多く用ふる消毒藥三種を挙げ其の使用方法を解説せよ (以上鍼灸共通學說)
- 一、齒痛に對する鍼治法 (以上灸術學說)
- 一、下腿筋肉ロイマチスの治穴及び手技 (以上鍼術實地)
- 一、脚氣に對する灸療法 (以上灸術實地)
- 一、慢性喉頭カタルの治穴及び治療理由 (以上灸術實地)

京都府 (昭十一年秋)

- 一、理學的消毒法を分類し各其の方法を略述せよ

一、手の消毒に用ふる主なる藥液を舉げ各其の稀釋度を問ふ

一、三又神經の分佈状態

一、聽器の構造及び作用

(以上鍼灸共通學說)

一、列缺、血海、太白、復溜の經名、部位及び其の應用疾患を問ふ

一、胃痙攣に應用する經穴(腹部以外)五つを舉げ各其の應用の理由

(以上鍼灸學說)

一、脚氣八處の穴名及び其の部位

一、腹膜炎の種類及び施灸の可否並び其の理由 (以上灸術學說)

岐 阜 縣 (昭十一年十月)

一、頭蓋骨の名稱

一、腹壁に就いて解剖學的に之を説明せよ

一、皮膚の生理的作用

一、筋肉の疲労を來たす理由如何 (以上鍼灸共通學說)

一、拔鍼に關し次の事項に就き説明せよ

よ

(イ)拔鍼の注意

(ロ)拔鍼後の所置

(ハ)拔鍼し得ざる理由

(ニ)拔鍼し得ざる時の所置

一、麻痺及び痙攣に對する鍼術の價値並びに各其の施術上の注意事項 (以上鍼灸學說)

一、尿閉症に對する灸點及び其の目的並びに六華の穴に就いて

一、全身貧血より來る眩暈に對する灸の價値如何 (以上灸術學說)

岡 山 縣 (昭十一年秋期)

一、(イ)坐骨神經の經路を述べよ

(ロ)上膊動脈の起始、經過、枝別に就いて

一、(イ)畢丸炎の鍼治法

(ロ)太陽叢を刺戟するには如何にすべきや

一、(イ)左の藥品の普通用ひらるゝ濃度

一、昇汞水、二、石炭酸水

三、クレゾール、四、アルコール

(ロ)鍼の消毒法の左の物件に就き最も適する消毒方法を述べよ

一、金屬器械、二、護膜製

品、三、書籍、四、皮膚、

五、喀痰、(以上鍼灸學說)

一、(イ)刺鍼の實地

(ロ)三又神經第三枝の鍼治法

(以上鍼灸實地)

一、(イ)内分泌を營む臟器の名稱を舉げよ

(ロ)血液の生理的作用

一、(イ)身柱の灸點が心臟に及ぼす作用

(ロ)太陽叢を刺戟の方法

一、(イ)消毒用昇汞水の長所及び短所と其の理由

(ロ)病毒に汚染したる繻帶材料の消毒法 (以上灸術學說)

一、(イ)灸點法

(ロ)舞踏病に對する灸點の部位

(以上灸術學說)

長 崎 縣 (昭十一年十月)

一、胃に分佈する神經及び血管の名稱

一、膽汁の作用

一、天宗、衝門、中封の位置及び其の部に於ける筋、血管、神經の關係

一、鍼術の免疫體に及ぼす作用を記せ

一、煮沸消毒法に就いて (以上鍼灸學說)

一、蟲様突起の位置

一、白血球の種類

一、大包、商曲、外丘の位置及び其の部に於ける筋、血管、神經の關係

一、胃痙攣に對する灸點法

一、左の消毒藥の稀釋度を記せ

(一)酒精 (二)石炭酸水 (三)クレゾール水 (四)昇汞水 (五)フォルマリン (以上灸術學說)

山 口 縣 (昭十一年秋)

一、血液運行の原因

一、左記各項に就いて

(一)唾液腺の構造及び唾液の化學的成分

(二)胃に分佈する神經の名稱

(三)總頸動脈の起始及び經過

(四)二頭膊筋の起始經過及び停止消毒の必要なる理由並びに二三消毒藥の調製方法を詳記せよ

(以上鍼灸共通學說)

一、鍼の刺戟度の治効との關係

一、喘息に對する鍼治療法 (以上鍼灸學說)

一、九曜點灸の取穴法及び適應症

一、腸加答兒の灸治療法 (以上灸術學說)

佐 賀 縣 (昭十一年十月)

一、三又神經の起始經過分佈を記せ

一、筋に對する刺戟の種類を舉げ之を説明せよ

一、酒精と石炭酸との消毒學上の優劣如何 (以上鍼灸共通學說)

一、膀胱麻痺の原因、症候並びに鍼治

一、下肢に於ける禁鍼穴名 (以上灸術學說)

一、遺尿症の原因、症候並法に灸治法に就いて

一、下肢に於ける禁鍼穴名を記せ (以上灸術學說)

鹿 兒 島 縣 (昭十一年十月)

一、腦神經の名稱並びに機能

一、成人が一日に攝取する保健食中に含有せる各榮養素量より一日の熱量を算出せよ

一、昇汞の用途並びに使用上の注意

一、次の經穴の部位及び解剖的關係 (イ)孔最 (ロ)伏虎 (ハ)衝門 (ニ)魄戶 (以上鍼灸共通學說)

一、神經興奮性の變化による刺戟刺戟感受力の影響

一、坐骨神經痛の症候及び之に對する鍼治療法 (以上鍼灸學說)

一、高血壓とは何ぞ之に對する灸治法

一、膀胱炎に對する灸治の目的施灸部位及び施灸量に就き述べよ

熊本縣 (昭十一年十月) (以上灸術學說)

- 一、胃の構造並びに其の機能
- 一、上膊動脈の經過及び筋肉、神経との關係
- 一、左記消毒藥の溶解方法並びに其の應用
  - (一)石炭酸水 (二)クレゾール水 (三)昇汞水
- 一、施術に關し消毒不完全の爲に起される疾病を問ふ (以上鍼術學說)
- 一、頸部部に鍼術を施し傷害を惹起する疾病は如何
- 一、肩胛神經痛に對し主なる五穴を指壓せよ
- 一、下肢の禁鍼穴名を説明せよ
- 一、前膊部に刺鍼 (以上鍼術實地)
- 一、肝臟の構造及び機能
- 一、頸部に存在する筋と神経脈管との關係
- 一、皮膚消毒に適する藥品三種を列舉し其の溶解法を記せ

大阪府 (昭十二年春)

- 一、藥品を使用せざる消毒方法を記せ (以上灸術學說)
- 一、灸術を施し疲勞を起したる場合は如何なる處置を取るや
- 一、大灸は如何なる疾病に施すや
- 一、手の太陽小腸經に對する禁灸穴
- 一、腦の鬱血に施灸する時期如何 (以上灸術實地)
- 一、迷走神經の分佈に就いて
- 一、白血球の作用を述べよ
- 一、消毒用藥品の名稱及び稀釋法 (以上鍼灸共通學說)
- 一、神經性胃痛に對する鍼治施術の順序並びに其の類症を鑑別せよ
- 一、捻鍼法と管鍼法との長所と短所とを擧げよ (以上鍼術學說)
- 一、上肢に存する禁灸五穴を擧げ其の部位並びに解剖的説明を記せ
- 一、胃腸疾患の灸治穴及び部位を擧げよ (以上灸術學說)

徳島縣 (昭十二年春)

- 一、顔面神經の起始、經過並びに其の分佈
- 一、胆汁の効用
- 一、理學的消毒法 (以上鍼灸共通學說)
- 一、頸部に於ける掃門、天柱、廉泉、天鼎、天膺の解剖的部位
- 一、胃弛緩症の原因、症候並びに之が鍼治法 (以上鍼術學說)
- 一、動脈硬化症の原因、症候並びに之が灸治法
- 一、胸部に於ける瓊瑤、紫宮、靈虛、氣戶、淵腋の解剖的部位 (以上灸術學說)

山梨縣 (昭十二年立春期)

- 一、鼠蹊管に就いて
- 一、腸の消化作用
- 一、總頸動脈に就いて
- 一、鍼術を施すに消毒する物品如何
- 一、横隔膜痙攣の原因、症候
- 一、卒谷、大鐘、腹哀、步廊の部位 (以上鍼術學說)

一、神經性心悸亢進症の原因、症候、療法

- 一、前膊背側に鍼根まで刺入せよ
- 一、神經性食道痙攣の原因、症候、療法
- 一、下腿前面に刺鍼せよ但し二番鍼寸六使用 (以上實地)
- 一、乳糜管に就いて
- 一、上膊内膊筋溝に就いて通過する脈管神經如何
- 一、脾臟の作用に就いて
- 一、下肢の麻痺を來す原因
- 一、灸術に應用する消毒法如何 (以上灸術學說)
- 一、氣管枝喘息の原因、症候、療法
- 一、或中、心臓を指壓せよ
- 一、子宮痙攣の原因、症候、療法、灸の壯數艾柱の太さ如何
- 一、四瀆、清冷淵、消瀦を指壓せよ (以上實地)
- 東京府 (昭十二年春)
- 一、五官器の所在と名稱

一、動脈血と靜脈血の差異

- 一、圖書類の消毒法
- 一、クレゾール水の消毒に用ゆる稀釋度 (以上鍼術學說)
- 一、皮膚の構造
- 一、交感神經
- 一、家具類の適當なる消毒法
- 一、消毒に用ふる石炭酸水の稀釋度を述べよ (以上灸術學說)

三重縣 (昭十二年春)

- 一、肝臟の位置、形狀並びに作用
- 一、股動脈の經過、枝別
- 一、皮膚鍼の自律神經系に對する作用
- 一、神經疾患に對する鍼の治病的價值
- 一、木製器具の消毒方法に就いて
- 一、唾痰の消毒方法に就いて (以上鍼術學說)
- 一、心悸亢進の原因、症候、治療法
- 一、肩に一鍼二番鍼使用 (以上實地)
- 一、血液循環に就いて
- 一、三叉神經の起始、經過及び枝別を

述べよ

- 一、灸術に使用する艾に就いて説明せよ
- 一、中風豫防の灸法及び其の豫防的價值
- 一、施術者の使用する消毒藥の名稱並びに其の濃度を記せ
- 一、毛布の消毒方法 (以上灸術學說)
- 一、肺結核の療法
- 一、大迎、大淵、太陵、大谿、内庭の解剖的部位並びに指壓 (以上實地)

福岡縣 (昭十二年春期)

- 一、二頭膊筋の起始、停止及びこれに分佈する血管、神經を記せ
- 一、交感神經とは如何これを説明せよ
- 一、肋間神經痛の原因、症候及び其の鍼治法
- 一、法定の消毒藥を列舉せよ (以上鍼術學說)
- 一、唾液腺の名稱、所在、排泄口の位置

- 一、延髓の機能
- 一、坐骨神経痛の原因、症候、灸治療法
- 一、施灸により身體組織に如何なる變化を來すや (以上灸術學說)

東京府 (昭十三年三月)

- 一、神經性嘔吐の原因
- 一、三焦俞、小腸俞の解剖的位置及び何經に屬すか、期門、章門は何處にありや
- 一、下肢に刺鍼し、雀啄、振顫、廻旋術を行ひ、その部の神經、筋肉を問ふ (以上鍼術實地)
- 一、股門、承山、飛陽
- 一、陽陵泉、懸鐘の部位及び中風の施灸時及び部位
- 一、眩暈の種類及び灸術の可否

埼玉縣 (昭十二年四月)

- 一、頸部に分佈する血管神經
- 一、淋巴管に就いて知る所を記せ

- 一、末梢神經に對する鍼の生理的作用
- 一、誘導刺鍼は如何なる場合に應用するや
- 一、肋間神経痛に對する刺鍼の可否 (以上鍼術學說)

消毒藥の名稱及び消毒の必要なる理由 (以上共通學說)

- 一、施灸せば血管及び白血球に如何なる影響を及ぼすや
- 一、肩胛痛の灸治點を記せ
- 一、點灸に當り注意すべき要點 (以上灸術學說)

青森縣 (昭十二年四月)

- 一、肺臟の位置、構造及び其の機能
- 一、膝關節を構成する筋肉の名稱及び其の部を通過する主なる神経血管の名稱 (以上共通學說)
- 一、治療に際し鍼の細大長短は何によりて定むるや
- 一、鍼の鎮靜作用とは如何なることをいふや例を擧げて説明せよ

- 一、寢具に適當なる消毒方法 (以上灸術學說)
- 一、消毒用昇永水の稀釋度及び應用上注意すべき點 (以上共通學說)
- 一、艾の大小壯數は何によりて定むるや
- 一、灸法の種類を擧げよ (以上灸術學說)

愛知縣 (昭十二年四月)

- 一、坐骨神經の起始、經過、分佈
- 一、反射運動とは如何なるものか
- 一、理學的消毒法を列擧し左記の物品の消毒に適否を論ぜよ
- 一、手指、白衣、鍼
- 一、麻痺に對する刺鍼法
- 一、肋間神経痛に對する鍼療並びに其の注意如何 (以上鍼術學說)
- 一、大腸の位置に就き説明せよ
- 一、血液並びに淋巴液の作用に就いて
- 一、灸術者が用ふるに適當なる消毒藥品三種類を擧げてそれを選びし理由を記せ

- 一、不眠症の灸治點
- 一、灸術の消化器系に及ぼす影響 (以上灸術學說)

石川縣 (昭十二年四月)

- 一、(イ)喉頭を構成せる軟骨の聯接關係を述べよ
- 一、(ロ)脊髓の機能
- 一、常習便秘の原因及び鍼(灸)治法を述べよ
- 一、「アルコール」(酒精)及び「クレゾール」石鹼液の用法並びに用途 (以上鍼灸共通學說)

福井縣 (昭十二年四月)

- 一、下肢に於ける主要なる血管、神經
- 一、交感神經の所在及び分佈を問ふ
- 一、拔鍼の際採壓を行ふ其の理由如何
- 一、鍼の骨發育に及ぼす影響
- 一、理學的消毒法
- 一、クレゾール石鹼液の性状及び其の溶解法 (以上鍼術學說)
- 一、痛風の原因症狀及び刺鍼法

喘息の症狀及び其の刺鍼法 (以上實地)

- 一、前膊に分佈せる血管神經
- 一、口腔に於ける消化作用を問ふ
- 一、帶脈、豐隆、五里の三穴の解剖的位置
- 一、灸の消化に及ぼす作用
- 一、理學的消毒とは如何
- 一、石炭酸水と昇永水との消毒的價値の優劣 (以上灸術學說)
- 一、遺尿症の症狀並びに灸治法
- 一、坐骨神経痛の症狀と灸治法 (以上實地)

秋田縣 (昭十二年四月)

- 一、腸管各部の名稱並びに腸の生理的作用
- 一、左の諸筋の起始、停止、並びに其の作用を記せ
- 一、僧帽筋、潤背筋、大胸筋
- 一、三叉神経痛に對する刺鍼法及び刺鍼點
- 一、下肢に存する禁鍼穴を擧げよ

昇永劑に就いて知る所 (以上灸術學說)

- 一、肝臟の構造及び其の作用
- 一、左の諸筋に就いて其の起始、停止及び作用を記せ
- 一、肋間筋、腹筋、横隔膜
- 一、遺尿症に對する施灸點を示せ
- 一、頭部に於ける禁灸點を擧げよ
- 一、手指の消毒法及び其の消毒の必要理由 (以上灸術學說)

京都府 (昭十二年四月)

- 一、坐骨神經に就いて知る所を記せ
- 一、腎臟の部位、構造及び其の機能
- 一、3%の石炭酸水の製造法
- 一、蒸氣消毒法に就いて (以上鍼灸共通學說)
- 一、足の太陽膀胱經、足の少陰腎經中下腿にある經穴名と其の部位
- 一、便秘に對する應用經穴と其の應用理由 (以上鍼術學說)
- 一、高血壓に對する施灸上の注意

一、竹杖の穴に就いて知る所を記せ  
(以上灸術學說)

富山縣 (昭十二年四月)

一、延髓の位置及び機能  
一、淋巴液の生成及び作用  
一、肩のコリの原因並びに鍼治法を記せ

一、下腿麻痺の原因及び鍼治法  
一、免疫に就いて知る所を記せ  
一、煮沸消毒法施行上の要點を記せ  
(以上鍼術學說)

一、膝窩窩に於ける筋肉、神経、血管の關係  
一、皮膚の生理的作用  
一、腰神經痛の原因、徴候並びに灸治法

一、創傷傳染病に就いて知る所を記せ  
一、蒸氣消毒法施行上の要點  
(以上灸術學說)

兵庫縣 (昭十二年四月)

一、皮膚の構造  
一、腹部内臓の位置

一、消毒の種類  
一、石炭酸水の作成法及び効用  
一、背部に於ける禁鍼穴  
一、下肢に於ける穴名と部位  
(以上鍼術學說)

一、分泌と排泄とに就き例を挙げて區別せよ  
一、前胸部に於ける名稱を挙げよ  
一、手指の消毒  
一、消毒薬三種類を挙げよ  
一、施灸による化膿の理由  
一、建里、帶脈の部位 (以上灸術學說)

長野縣 (昭十二年四月)

一、腦下垂體の位置及び其の主なる作用  
一、鼠蹊管に就いて  
一、三叉神經痛及び偏頭痛の原因を挙げ併せて兩者の鑑別を記せ  
一、小兒麻痺の症狀  
一、左に就いて知ることを記せ  
(イ) ヴイタミン (ロ) 裏急後重 (ハ) 角弓反張 (ニ) 膝窩窩

熊本縣 (昭十二年四月)

一、膀胱の構造及び機能  
一、腋窩窩に於ける筋肉と脈管との關係に就いて  
一、左記の薬品の溶解方法及其の用途  
(イ) クレゾール水 (ロ) 昇汞水 (ハ) 石炭酸水  
一、施灸に際し施行する消毒方法の實際につき記せ  
一、直達刺鍼法の注意

一、沃度丁幾の消毒力及び其の應用 (以上鍼術學說)  
一、上肢の主なる脈管系を挙げ其の經過を略記せよ  
一、門脈に就いて明記せよ  
一、月經困難症とは如何  
一、胃アトニーの自覺症狀  
一、浮腫及び水腫を説明し併せて其の主なる疾患二、三を挙げよ  
一、クレゾール石鹼液の性状  
(以上灸術學說)

一、五里の穴の禁鍼なる理由  
一、脛骨神經に最も刺戟を良く及ぼす穴名  
一、肩に一番良く效く刺鍼點一ヶ所指壓並びに刺鍼 (以上鍼術學說)  
一、心臟の構造並びに血液循環に就き述べよ

一、顔面筋と神経脈管との關係  
一、施灸上消毒の必要なる所以  
一、皮膚消毒に適する薬品の名稱及び使用濃度並びに之を選定せる理由  
一、心臟に既灸して如何なる影響を及ぼすや

一、曲骨、曲差、曲澤、極泉の指壓  
一、胃アトニーとは如何之に對する施灸點五穴を挙げよ  
一、三焦經に於ける禁穴の名稱  
(以上灸術學說)

宮崎縣 (昭十二年四月)

一、背部諸筋の名稱並びに血管神經との關係に就いて

一、甲狀腺の位置、形狀構造及び其の機能  
一、通常「アルコール」と無水「アルコール」との何れが消毒力優れるか並びに理由何如 (以上鍼灸共通學說)  
一、神経性心悸亢進の症狀及び之に對する鍼治療法  
一、絡却、氣衝、翳風の解剖的部位並に禁要穴の別 (以上鍼術學說)  
一、消毒の目的及び消毒法の種類  
一、盲腸炎の原因、症候並びに之に對する灸治療法如何  
一、臨泣、犢鼻、照海、風門の解剖的部位並びに禁要穴の別  
(以上灸術學說)

鹿児島縣 (昭十二年四月)

一、血液を清浄ならしむる臓器の名稱並びに其の作用  
一、消化液の名稱及び其の分泌部位並びに其の作用  
一、左記物品の消毒に最も適當なる消

毒薬を挙げ其の調製法及び使用上注意すべき點を記せ  
(1) 吐瀉物、(2) 膿、(3) 革製品  
(以上鍼灸共通學說)  
一、刺鍼手技の種類及び其の治病的効用に就いて  
一、腋窩窩神經麻痺の原因症候並びに之に對する鍼治法 (以上鍼術學說)  
一、脚氣の灸療法に就いて  
一、慢性腹膜炎とは何ぞ之が施灸法に就いて (以上灸術學說)

群馬縣 (昭十二年五月)

一、腋窩窩を構成する筋肉並びに此處を通過する神経、脈管の名稱  
一、唾液の生理的作用  
一、坐骨神經痛と股關節炎との鑑別  
一、鍼治の血管神經に及ぼす作用  
一、肩部拘攣即ち肩の凝りの原因並びに治穴鍼治法 (以上鍼術學說)  
一、延髓の位置、形狀及び諸中樞を記せ

- 一、膝臟の消化作用
  - 一、坐骨神經痛に用ゆる穴名
  - 一、灸の種類及び生理的作用
  - 一、遺尿症に對する灸治法 (以上灸術學說)
  - 一、手指の消毒及び灸の實地 (以上同實地)
- 佐賀縣 (昭十二年五月)
- 一、腹部諸筋の名稱を擧げ其の起始停止
  - 一、延髓の生理的作用
  - 一、皮膚の消毒方法に就いて (以上鍼灸共通學說)
  - 一、背部並びに胸部に於ける禁鍼穴名並びに其の部位
  - 一、癩癩の原因症候並びに之が鍼治法 (以上鍼術學說)
  - 一、背部並びに胸部に於ける禁灸穴名並びに其の部位 (以上灸術學說)

滋賀縣 (昭十二年五月)

- 一、顔面神經の經路を記せ
  - 一、人體の體溫調節機能
  - 一、日射病の原因、症狀並びに鍼治法
  - 一、「アルコール」の消毒作用及び其の應用例を列擧せよ (以上鍼術學說)
  - 一、上肢の主なる血管の名稱及び經路
  - 一、淋巴液の生理を問ふ
  - 一、股神經痛の原因、症狀及び灸治法
  - 一、結核菌及び其の消毒に就いて (以上灸術學說)
- 奈良縣 (昭十二年五月)
- 一、腹筋の名稱、起始、停止之に分佈する神經を記せ
  - 一、嚥下作用を説明せよ
  - 一、手の指に存する經穴名と其の部位
  - 一、鍼術の反射作用とは何ぞ、一、二の例を擧げて之を説明せよ
  - 一、蒸氣消毒方法及煮沸消毒方法とに就いて詳記し且つその異なる重要點を擧げよ (以上鍼術學說)
  - 一、下腿後側筋の名稱並びに血管、神

山口縣 (昭十二年五月)

- 一、經との關係
  - 一、延髓の部位並びに其の作用
  - 一、六腑の穴とは如何なるものを云ふや且つ其の部位
  - 一、肋膜炎中施灸の適する場合を擧げ且つ其の應用經穴を記せ
  - 一、衣服の消毒方法を詳記せよ (以上灸術學說)
- 一、鼠蹊窩を構成する筋の名稱と其の下を通過する物を記せよ
  - 一、五官器の名稱と其の作用
  - 一、主なる消毒薬を擧げて稀釋法を問ふ (以上鍼灸共通學說)
  - 一、鍼の大小は如何なる基準により定むるか
  - 一、便秘に對する鍼治療法 (以上鍼術學說)
  - 一、六腑の穴の部位及び解剖的關係
  - 一、裏急後重に對する灸法 (以上灸術學說)

- 一、三叉神經の分佈
  - 一、膝液の生理作用
  - 一、身柱、缺盆、支正、四白、日月の部位を問ふ
  - 一、2%のクレゾール石鹼液水の調製法 (以上鍼灸共通學說)
  - 一、偏頭痛の種類を擧げ其の鍼治法を問ふ (以上鍼術學說)
  - 一、下痢の灸治法を擧げよ (以上灸術學說)
- 廣島縣 (昭十二年五月)
- 一、咀嚼筋及び之れに分佈する神經
  - 一、交感神經の所在及び機能
  - 一、顔面神經麻痺に對する鍼治法
  - 一、消毒とは如何
  - 一、化學的消毒法に就いて詳記せよ
  - 一、腺病質に對する灸治法
- 和歌山縣 (昭十二年五月)
- 一、胸廓を構成する骨の名稱

- 一、肝臟の機能に就いて
  - 一、金門、大淵、陰都の位置及び其の部に於ける筋、血管、神經の關係
  - 一、胸部に於ける刺鍼に當り特に注意すべき事項
  - 一、消毒薬として必要なる條件 (以上鍼術學說)
  - 一、腹腔とは如何其の内容臟器の名稱
  - 一、小腦の機能
  - 一、大都、青靈、府舍の位置及び其の部に於ける筋、血管、神經の關係
  - 一、遺尿症に對する施灸法
  - 一、消毒と清潔と異なる點を説明せよ (以上灸術學說)
- 香川縣 (昭十二年五月)
- 一、消化器各部の名稱を順位に記し其の作用を記せ
  - 一、股關節の周圍にある筋肉、血管及び神經に就いて
  - 一、業務上使用する器具物品の消毒法
  - 一、左の諸穴に就き位置分佈する神經

- 並びに禁鍼灸に該當するのを記せ
  - 五里(大腸經) 腦戶、瘰癧門、陰市、肩貞、陽陵泉、丘墟、石門、二間
  - 迎香 (以上鍼灸共通學說)
  - 一、齒痛に對する鍼治療に就いて (以上鍼術學說)
  - 一、灸の治療的効用 (以上灸術學說)
- 栃木縣 (昭十二年六月)
- 一、肘關節の直上で切斷すると如何なる筋、神經、血管を切るや
  - 一、筋及び神經の拮抗作用とは如何、其の例を擧げよ
  - 一、吐血、咯血する疾病並びに鑑別法
  - 一、腰痛の原因及び刺鍼點
  - 一、昇汞水と石炭酸水の消毒上の差異
  - 一、鍼具、手、衣服、食器、破布の消毒法
  - 一、(イ)上膊部にある孔穴名
  - 一、(ロ)膝關節炎の原因及び刺鍼點 (以上鍼術學說)
  - 一、撓骨神經の起始、經過、分佈



- 一、脊髄神經は何對あるや其の區別
- 一、神經性消化不良の原因及び灸治點
- 一、背側線にある孔穴名及び主治應用
- 一、ホルムアルデヒドに就いて
- 一、消毒の目的
- 一、(イ)絲綫體腎炎の原因及び灸治點
- 一、(ロ)肩胛痛の灸治點

(以上灸術學說)

大分縣 (昭十二年四月)

- 一、足關節を構成する骨及び筋肉の名稱並びに同部を通過する血管神經
- 一、心臟の機能
- 一、消毒の必要なる理由
- 一、地倉、肩貞、三陰交の部位、解剖的關係並びに適應症
- 一、後頸部刺鍼の腦血行に及ぼす影響並びに其の處置如何(以上鍼術學說)
- 一、胃擴張とは如何なる病氣か其の施術法 (以上鍼術實地)
- 一、腹部に於ける施灸上の注意

(以上灸術學說)

- 一、腺病、パセドー氏病とは何か其の施灸法 (以上灸實地)

静岡縣 (昭十二年春)

- 一、上膊部を構成する筋名並びに血管及び神經の經過
- 一、内分泌液の種類及び作用
- 一、承扶、巨闕、大杼、翳風、合谷の部位解剖的關係並びに適應症
- 一、痙攣に對する刺鍼法並びに奏効の理由を説明せよ (以上鍼術學說)
- 一、背部及び頸部に於ける禁灸の穴を挙げ其の位置並びに禁灸の理由
- 一、氣管支喘息の原因症狀及び灸治法と其の灸穴の位置 (以上灸術學說)

(以上鍼灸共通學說)

滋賀縣 (昭十二年九月)

- 一、筋肉の構造及び作用
- 一、皮膚知覺の傳導路
- 一、慢性胃カタルの症狀及び其の鍼治法

- 一、鍼の禁忌症並びに上肢に於ける禁灸穴
- 一、熱を用ゆる消毒法に就いて
- 一、左の物件に最も適する消毒方法を記せ

- 一、手術着
- 二、木製器具
- 三、金屬
- 四、室内
- 五、喀痰

(以上鍼術學說)

大阪府 (昭十二年九月)

- 一、腦神經の名稱を挙げよ
- 一、副腎の位置及び機能
- 一、遺尿症の灸治法
- 一、下肢に於ける禁灸穴名
- 一、皮膚の消毒法
- 一、消毒薬として必要なる條件如何

(以上灸術學說)

(3) 横隔膜

- 一、號令を聽きてより四肢の運動を起すまでの體內に於ける機轉を順を追つて説明せよ
- 一、鍼の血管に及ぼす影響
- 一、背部に存する禁灸穴名を挙げ其の解剖的部位を説明せよ
- 一、灸と小火傷との作用の異同に就いて
- 一、婦人科疾患に對する主なる灸穴三つを挙げ其の解剖的部位を説明せよ (以上灸術學說)

青森縣 (昭十二年九月)

- 一、心臟の位置を圖示し其の機能
- 一、胸廓を構成する主なる筋肉を挙げ且つ其の分佈神經及び血管に就いて (以上共通)
- 一、鍼の興奮作用とは如何なる事か例を舉げて説明せよ
- 一、施灸時に際し鍼の抜けざる事ある

は如何なる理由に由るや且つ其の處置如何 (以上鍼灸學說)

- 一、消毒に用ゆる「クレゾール水」の稀釋度を述べ且つ其の應用に就いて
- 一、理學的消毒法の種類
- 一、灸術の適應症及び禁忌症を挙げよ
- 一、灸治の反射作用とは如何なる事か例を舉げて説明せよ

(以上灸術學說)

三重縣 (昭十二年十月)

- 一、腸骨前上棘より起始する筋肉の名稱
- 一、肝臟の構造並に作用
- 一、麻痺に對する鍼の治療的作用如何
- 一、鍼の神經に及ぼす作用如何
- 一、消毒用クレゾール水の調製方法
- 一、蒸氣消毒方法を記せ (以上鍼術學說)
- 一、筋肉の種類を記せ
- 一、皮膚の構造並其の機能

一、内臟諸病に對し灸の効ある理由

- 一、四肢に對する禁灸穴を挙げよ
- 一、消毒用石炭酸水の調製方法
- 一、煮沸消毒方法を記せ

(以上灸術學說)

廣島縣 (昭十二年十月)

- 一、腦神經の名稱及び分佈
- 一、唾液の消化作用
- 一、左の經穴の部位及び解剖的關係
- 一、頭維、翳風、尺澤、天樞、豐隆
- 一、腓骨神經麻痺の鍼治法
- 一、蒸氣消毒法に就いて
- 一、左の消毒薬品の普通用ひらるゝ濃度
- 一、昇汞、石炭酸、クレゾール、石鹼液
- 一、アルコール (以上共通學說)
- 一、下痢に對する灸治法

(以上灸術學說)

熊本縣 (昭十二年十月)

- 一、腦神經の名稱分佈及び作用

- 一、前膊撓骨側に於ける筋、血管、神經の關係
- 一、筋肉痛に對する鍼治法を述べよ
- 一、缺盆の穴に刺鍼を禁ずる理由
- 一、昇汞水、クレゾール水、酒精に就き其の優劣點を問ふ
- 一、傳染性疾患ある患者を施術せし時の消毒方法 (以上鍼術學說)
- 一、牙關緊急に對する刺鍼點
- 一、淺腓骨神經に對する刺鍼を行へ (以上鍼術實地)
- 一、淋巴管及び淋巴腺に就いて記せ
- 一、咀嚼筋と神經、脈管との關係
- 一、灸熱刺戟による有害なる反應に就き記せ
- 一、顔面に於ける禁灸穴
- 一、日光消毒の價値を問ふ
- 一、左の消毒薬の溶解、濃度、使用方法
- クレゾール石鹼液、昇汞、フォルマリン、酒精、假性石灰 (以上灸術學說)

- 一、關節炎の灸治法
  - 一、後谿、天窓、懸鐘、陽關、腦空を示せ (以上灸實地)
- 岡山縣 (昭十二年十月)
- 一、頸部に於ける神經、動脈及び靜脈の名稱を挙げ其の位置的關係
  - 一、血液凝固に就いて
  - 一、銃創に對する鍼の效果如何
  - 一、大赫の部位を解剖的説明し其の應用に就いて
  - 一、左の條件の消毒方法鍼、井水、木製品
  - 一、フォルムアルデヒド瓦斯消毒法を問ふ (以上鍼術學說)
  - 一、舌の運動を司る神經名
  - 一、大脳の細胞の作用
  - 一、銃創に對する灸の效果如何
  - 一、乳中の解剖的部位並に其の應用に就いて
  - 一、純アルコールと稀アルコールの消毒力の強弱を比較し其の理由

- 一、低溫殺菌に就いて (以上灸術學說)
- 徳島縣 (昭十年十月)
- 一、肝臓の位置、形狀、構造
  - 一、呼吸は如何にして起るや
  - 一、滅菌法を記せ (以上鍼灸共通學說)
  - 一、鍼術に依る刺戟の強弱とは如何及び其の方法
  - 一、腸疾患に對する鍼治法 (以上鍼術實地)
  - 一、艾灸の温度の深達作用如何
  - 一、神經衰弱の原因、症候並に灸治法 (以上灸術實地)
- 茨城縣 (昭十二年十月)
- 一、尺骨神經の經過
  - 一、交感神經の作用
  - 一、「クレゾール」水の使用法 (以上鍼術學說)
  - 一、大腿の筋の名稱
  - 一、横隔膜の位置、機能
  - 一、消毒を實施するに際し如何なる點に注意すべきか (以上灸術學說)

- 京都府 (昭十二年十月)
- 一、正中神經に就き其の經過及び筋肉、脈管との關係
  - 一、消化腺の名稱、位置及び機能
  - 一、手術衣の消毒は如何にして行ふや
  - 一、三%「クレゾール」水の調製法 (以上鍼灸共通學說)
  - 一、疾病と壯數との關係に就いて
  - 一、慢性腸カタルに對する施灸點四つを挙げ其の部位並に應用さる理由 (以上灸術學說)
  - 一、督脈經中背部に存する穴名並に部位及び禁鍼穴を記せ
  - 一、胸部刺鍼上注意すべき事項 (以上鍼術學說)
- 奈良縣 (昭十二年十月)
- 一、頸部に於ける筋肉、血管、神經の關係
  - 一、利尿作用に就いて
  - 一、遠隔部よりの刺戟の奏する理由、例を挙げて説明せよ

- 一、鍼術の腸蠕動に及ぼす影響に就いて
  - 一、消毒方法の種類に就いて詳記せよ (以上鍼術學說)
  - 一、鼠蹊に於ける筋肉、血管、神經の作用
  - 一、消化液の名稱と其の各自の消化作用
  - 一、公孫、至陰、少澤、復溜、至陽の位置及び應用疾患を記せ
  - 一、施灸の新陳代謝に及ぼす影響に就いて知る處を記せ
  - 一、煮沸消毒の方法並に消毒上の注意事項 (以上灸術學說)
- 新潟縣 (昭十二年十月)
- 一、胸部内臓器の名稱、位置、形狀及び其の機能
  - 一、側頸部に於ける主なる血管、神經筋肉の關係 (以上鍼灸共通學說)
  - 一、鍼の鎮靜作用
  - 一、後頭部に於ける刺鍼の深さ並に其

- の注意
- 一、消毒とは何ぞ (共通)
  - 一、業務上必要な消毒薬品の名稱及び其の應用 (共通)
  - 一、胃瘰癧と精系神經痛との鑑別及び其の刺鍼法
  - 一、尺骨神經麻痺の刺鍼法 (以上鍼術學說)
  - 一、灸の生理的作用
  - 一、下肢に於ける穴名及び灸の壯數
  - 一、胃瘰癧と精系神經痛との鑑別及び其の灸治法
  - 一、尺骨神經麻痺と灸治法 (以上灸術學說)
- 佐賀縣 (昭十二年十月)
- 一、左記筋肉の起始、停止を記し其の作用を述べよ
  - 三角筋、二頭膊筋、胸鎖乳嘴筋、腓腸筋
  - 一、横隔膜に就いて知る處を記せ (以上鍼灸共通學說)
  - 一、皮膚消毒薬品並に其の稀釋度を記

- せ
- 一、前膊部及び上膊部に於ける禁鍼穴名
- 一、坐骨神経痛の主なる原因、症候並に鍼治法に就いて (以上鍼術學說)
- 一、前膊部及び上膊部に於ける禁灸穴名
- 一、肋間神経痛の主なる原因、症候及び灸治法に就いて (以上灸術學說)

山形縣 (昭十二年十月)

- 一、視神經の起始及び經過と其の分佈を記せ
- 一、痙攣とは如何、詳細に説明せよ
- 一、鍼の血行に及ぼす作用を問ふ
- 一、急性ロイマチスの原因、症候並に鍼治の適否を記せ (以上鍼術學說)
- 一、前膊を屈する主なる筋肉の名稱
- 一、顔面神経麻痺の原因症候
- 一、灸の血管及び神経に及ぼす作用
- 一、施灸時の注意を詳細に記せ (以上灸術學說)

北海道 (昭十二年九月)

- 一、股動脈の起始、經過及び分佈
- 一、脊髄の機能及び諸中樞に就いて記せ
- 一、腸痛時に於ける鍼術禁忌症を記せ
- 一、膀胱麻痺に對する鍼治法
- 一、鍼の消毒不完全による危険に就いて
- 一、鍼の消毒に適する藥品の種類並に使用法を記せ (以上鍼術學說)
- 一、迷走神経の起始及び其の分佈する臓器の名稱
- 一、肝臓の機能に就いて知る所を述べよ
- 一、施灸を禁止すべき場合及び施灸を禁止すべき部位
- 一、氣管枝喘息に對する灸治法
- 一、灸痕の化膿する原因及び化膿に對する處置
- 一、皮膚の消毒に適當なる藥品の種類及び使用法 (以上鍼術學說)

神奈川縣 (昭十二年十月)

- 一、血液の性状及び作用
- 一、鍼の骨發育及び血液の正常に及ぼす影響に就いて述べよ
- 一、神経痛、心悸亢進症に對する適切なる施鍼の要穴を挙げよ
- 一、全金屬性器具の最も完全なる消毒法如何 (以上鍼術學說)
- 一、筋の種類及び作用
- 一、施灸の血壓に及ぼす諸説如何
- 一、背部第二側線の穴名を挙げて胃倉の解剖的部位に就き説明せよ
- 一、クレゾール石鹼液の使用範圍 (以上灸術學說)
- 和歌山縣 (昭十二年十月)
- 一、尺骨神経の經過及び筋と脈管の關係
- 一、血液循環に就いて記せ
- 一、肋間神経痛の鍼治法灸治法
- 一、自己の日常用ゆる消毒薬を挙げ其の使用法及び用途を詳記せよ

(以上鍼灸共通學說)

福島縣 (昭十二年十月)

- 一、迷走神経の起始、經過及び分佈の状態に就いて記せ
- 一、白血球に就いて詳記せよ
- 一、左記の解剖的部位を記せ  
青靈、支溝、鳩尾
- 一、顔面神経麻痺の原因症候及び鍼治法 (以上鍼術學說)
- 一、胸部淺層筋の名稱を挙げ各其の起始停止及び神経に就いて
- 一、三叉神経の起始、經過及び分佈の状態に就いて
- 一、動脈硬化症の症状及び之に對する灸治法
- 一、左記の解剖的部位を記せ  
大耳、四瀆天柱 (以上灸術學說)
- 島根縣 (昭十二年十月)
- 一、喉頭に就いて記せ
- 一、坐骨神経の起始、經過分佈及び筋

(以上鍼灸共通學說)

- との關係 (以上鍼灸共通學說)
- 一、罌丸及副罌丸炎の原因、症候並に其療法
- 一、左の諸病に對し鍼術の適否並に其の理由  
腸チフス、肋膜炎、齒痛、痔疾、急性筋肉ロイマチス (以上鍼術學說)
- 一、灸術の呼吸、體溫、脈膊に及ぼす影響
- 一、手の厥陰心包經の經過、穴名、解剖的部位及び其の適應症を挙げよ (以上灸術學說)

長野縣 (昭十二年十月)

- 一、迷走神経の分佈並びに機能に就て
- 一、體溫發生並びに體溫調節に就て知る處を記せ
- 一、喀痰消毒方法に就て
- 一、次に示す經穴の部位及び解剖的所見  
陰市 腹哀 天容 (以上鍼灸共通學說)

(以上鍼術學說)

- 一、鍼治の反射作用及び誘導作用とは何ぞや、例を挙げて説明せよ
- 一、黄疽の原因、症候並に之に對する鍼治法の可否に就き理由を挙げて説明せよ (以上鍼術學說)
- 一、胃痙攣と膽石痛との異なる點並びに其の灸療法に就いて
- 一、反射作用を目的とする灸療法に就いて例を挙げて説明せよ (以上灸術學說)

長崎縣 (昭十二年十月)

- 一、罌丸の構造を記せ
- 一、延髓の機能に就いて
- 一、關衝、輻筋、大白の位置及び其の部に於ける筋、血管、神経の關係 (以上鍼術學說)
- 一、子宮の位置、形状及び各部の名稱
- 一、内分泌に就いて知る處を記せ
- 一、靈道、陰包、陷谷の位置及び其の部に於ける筋、血管、神経の關係に就いて

一、喀痰の消毒方法 (以上灸術學說)

山口縣 (昭十二年十月)

一、皮膚の構造及び生理作用  
一、四肢の皮下に走る神経及び血管に就いて

一、理學的消毒法と藥物消毒法との優劣に就いて (以上鍼灸共通學說)

一、鍼の鎮靜作用を問ふ

一、神経痛に對する刺鍼は如何なる術式を可とするか (以上鍼術學說)

一、灸の蛋白療法とは如何

一、同身寸とは如何なるものを云ふや  
二、三の例を示せ (以上灸術學說)

宮城縣 (昭十二年十月)

一、(イ)脊髄神經に就いて

(ロ)腎臟の位置、形狀並に機能 (以上鍼灸共通學說)

一、坐骨神經痛に對する鍼治法 (以上鍼術學說)

一、消毒の種類並に各消毒の優劣 (以上鍼灸共通學說)

一、胃酸過多症に對する灸治法 (以上灸術學說)

大分縣 (昭十二年十月)

一、膝關節を構成する骨の名稱及び其の部を通過する血管、神経と筋肉との關係

一、呼吸器各部の名稱並びに生理的作用

一、消毒藥の名稱並びに其溶解方法

一、絶骨、氣海、飛陽の部位解剖的關係並びに適應症 (以上鍼灸共通學說)

一、施術中折鍼せる場合の處置並びに其の原因及び影響に就いて (以上鍼術學說)

一、中風症に對する灸の利害に就いて (以上灸術學說)

福井縣 (昭十二年十月)

一、上肢に存する骨筋の名稱並びに神經血管の分佈概要を述べよ

一、尿の生成に就いて  
一、心經穴の穴名を述べ其の内三穴に

就いて解剖的位置を説明せよ

一、鍼の血球に及ぼす影響

一、業務上常に多く使用する消毒藥三種に就き其の使用法を問ふ

一、酒精の消毒的價値並に用途 (以上鍼術學說)

一、胃に分佈する神經

一、脊髄の構造

一、四ヶ花印の取穴法

一、灸の皮膚に及ぼす影響

一、熱の消毒作用

一、石炭酸及び昇汞水の消毒的價値並びに用途 (以上灸術學說)

秋田縣 (昭十二年十月)

一、脾臟の位置及び其の作用

一、撓骨神經の經過

一、胃疾患に用ゆる經穴を挙げよ

一、皮膚鍼の刺鍼法

一、鍼術施術の際の消毒に就いて (以上鍼術學說)

一、淋巴及び淋巴管につき知る處を記せ

一、尺骨神經の經過

一、灸術の禁忌症

一、脚氣に用ふる經穴を挙げよ

一、手指の消毒藥及び其の使用法 (以上鍼術學說)

愛媛縣 (昭十二年十一月)

一、骨髓及骨膜に就いて知る處を記せ

一、横隔膜の位置並びに其作用

一、左の穴に就き知る處を記せ

消毒 角孫 周榮 陰包 腹哀

一、鍼灸術施術時の消毒方法を詳記し消毒の必要なる理由

一、消毒藥の名稱及び用途並に使用濃度 (以上鍼灸共通學說)

一、鍼の神經興奮性及び作用に就いて詳記せよ (以上鍼術學說)

一、炎症性疾患に對し灸の奏效する理由 (以上灸術學說)

佐賀縣 (昭十二年十月)

一、消毒藥の實地鑑別四種(酒精、リゾール水、リゾール原液、石炭酸水)

一、太陽叢を刺戟する穴名を云ひつゝ、指壓及び至陽、竅陰、脊背の指壓 (以上鍼灸共通實地)

一、施術中折鍼の處置及び其の影響

一、試験員の足の三里に刺鍼及び受験者自己の三里に直刺七分 (四番鍼使用) (以上鍼術實地)

一、小衝に普通の灸を炷えよ(試験員の手) (以上灸術實地)

大分縣 (昭十二年十月)

一、膽石痛に就いて

一、一番鍼使用、足に刺鍼 (以上鍼術實地)

一、肋膜炎、腸カタルに就いて (以上灸術實地)

栃木縣 (昭十二年十月)

一、鼠蹊窩を構成する筋の名稱及び通過する血管神經の名稱

一、大胸筋の起始、停止作用及び分佈神經

一、顔面神經痛の原因、症候、刺鍼點

一、肋間神經痛の原因、症候、刺鍼點

一、消毒法一般に使用する消毒藥五種を挙げその使用濃度

一、左の物品の最も適する消毒藥を問ふ

(イ)鍼具 (ロ)白衣 (ハ)施術部

(ニ)尿 (ホ)井戸水 (以上鍼術學說)

一、坐骨神經麻痺の原因主症候、刺鍼點

一、白條線にある經穴名

一、上肢の三里に刺鍼、鍼は各自隨意 (以上鍼術實地)

一、腓腸筋の起始、停止分佈神經

一、淋巴腺の構造と作用

一、施灸の結核症に奏效する理由

一、氣管枝喘息の原因、症候、灸治點

一、手の消毒法

一、消毒法一般に就いて (以上灸術學說)

一、本能性(血壓性)亢進症の原因、灸

治點

一、手の小陰心經の經路及び經穴名 (以上灸術實地)

茨城縣 (昭十三年春)

一、折鍼に關する實地研究に就きて知る所を述べよ

一、齒痛の刺鍼點及び刺鍼法及び前膊の刺鍼 (以上鍼術實地)

一、左の穴を灸治點として如何なる疾病に奏效するや及び其の理由

(イ)風池、曲地、足の三里

(ロ)右穴の指壓 (以上灸術實地)

東京府 (昭十三年春)

一、(イ)末梢神經の作用

(ロ)延髓の位置及び作用

一、(イ)「プロセント」と倍數との關係

(ロ)消毒藥昇汞に就いて

一、下腿部に於ける胃經の穴名を挙げよ

一、刺鍼中に於ける手技と其の應用

一、肩背、上肢に於ける刺鍼點 (以上鍼術實地)

一、(イ)脊髓の構造並に作用

(ロ)淋巴及び淋巴腺に就いて

一、(イ)滅菌及び殺菌の意義

(ロ)假性石灰と「クロール」石灰に就いて (以上灸術學說)

一、前膊に於ける大腸經の穴名を挙げよ

一、灸の血管及び神經に及ぼす作用

一、神經性心悸亢進症に對する灸治療法 (以上灸術實地)

大阪府 (昭十三年四月)

一、前膊を屈する筋の名稱並に之に分布する血管、神經を挙げよ

一、顔面神經及び三叉神經の作用と分布を述べよ

一、手指及び患部の消毒法 (以上鍼灸共通學說)

一、皮膚鍼の施術式及び之が神經系に及ぼす作用

一、神經性胃痛の症候及び鍼治法 (以上鍼術學說)

一、灸の治效作用とは如何及び脈管神經に及ぼす作用を詳述せよ

一、鬼哭の灸法並に其の適應症を挙げよ (以上灸術學說)

青森縣 (昭十三年四月)

一、三叉神經の起始を述べ其の第三枝分佈領域に於ける主なる筋肉の名稱を挙げよ

一、肝臟の生理的作用

一、三%石炭酸水の調製法及び其の應用に就いて

一、純アルコールと普通アルコールとは何れが消毒上效果ありや其の理由を説明し且つ其の使用法を述べよ (以上鍼灸共通學說)

一、刺鍼手技の名稱

一、鎮靜(靜止)作用の例を挙げて説明せよ (以上鍼術學說)

一、灸の血球(赤血球、白血球)に及ぼす

作用

一、艾の製法及び其の貯藏法

熊本縣 (昭十三年四月)

一、膝臟の位置、構造及び機能

一、肘窩に於ける血管、神經及び筋との關係

一、患者に適當なる消毒方法を詳記せよ

一、左の消毒藥二種の溶解法並に使用上の注意

石炭酸、昇汞 (以上鍼術學說)

一、禁鍼穴中絕對に刺鍼不可能なる穴を二穴挙げよ

一、神經性頭痛に對する最も效を奏する刺鍼點二穴を挙げ且つ指壓せよ (以上鍼術實地)

一、延髓の構造及び機能

一、肩胛部に於ける筋の名稱並に血管神經との關係を問ふ

一、フォルマリン水の製法並に使用上の注意

一、消毒と滅菌との差異 (以上灸術學說)

一、尿閉に對する施灸點を挙げよ

一、打撲症性腫に對する直接施灸法の可否 (以上灸術實地)

京都府 (昭十二年四月)

一、皮膚の構造及び其の機能

一、關節の種類及び作用を各其の一例を挙げて説明せよ

一、消毒の目的

一、蒸氣消毒及び煮沸消毒に於ける注意事項 (鍼灸共通學說)

一、上肢の主なる神經の經路に存する要穴の部位と名稱

一、神經痛に對する刺鍼方式と遠隔部より刺鍼の奏效する理由 (以上鍼術學說)

一、施灸部位に浮腫ある場合は如何にすべきか併せて其の理由を簡明に記せ

一、大横、章門に就いて知る處を記せ (以上灸術學說)

山梨縣 (昭十三年四月)

一、三叉神經の起始、經過及び其の分布

一、腹腔内臟器の名稱、位置及び作用

一、鍼の健康神經及び病的神經に及ぼす作用並に耳下腺膿に該當する穴名を問ふ

一、承扶、靈墟、天突、上腕、絲竹空の位置及び分佈する神經

一、鍼の消毒に昇汞水、アルコール、石炭酸水の適不適を論ぜよ

一、鍼術を施したる部位の化膿することあるは何故か及び此の豫防法を問ふ (以上鍼術學說)

一、坐骨神經の起始、經過並に其の分布

一、血壓の就いて知る處を記せ

一、胃筋弛緩症(胃アトニー)に對する灸治法

一、灸の神經痛及び血壓亢進症に及ぼす影響

- 一、煮沸消毒に就いて
- 一、左記の物に適する消毒法を問ふ  
(イ)衣類 (ロ)食器 (ハ)書籍  
(ニ)手指 (以上灸術學說)

愛知縣 (昭十三年四月)

- 一、靱帯とは何ぞや其の種類を問ふ
- 一、反射運動の實例を挙げ其の起る理由を記せ
- 一、鍼の消毒にアルコールとクレゾール石鹼液の優劣如何
- 一、皮膚鍼の治療作用に就いて記せ
- 一、坐骨神経痛の鍼療に就いて (以上鍼術學說)

三又神經の分佈を問ふ

- 一、皮膚に存在する必要な器官を挙げ其の作用を記せ
- 一、灸術に必要な消毒に就いて述べよ
- 一、施灸の疲労に及ぼす影響に就いて
- 一、耳鳴に對する灸療 (以上灸術學說)

秋田縣 (昭十三年三月)

- 一、胸廓の構成並に胸腔内臟器の名稱に就いて記せ
- 一、神經の種類及び其の機能に就いて
- 一、刺鍼に際し注意すべき事項を記せ
- 一、瘰癧に對する刺鍼法
- 一、刺鍼時の消毒方法
- 一、皮膚の構造及び其の生理的作用
- 一、毛細血管に就いて記せ
- 一、施灸に依り起る局所の組織的變化に就いて記せ
- 一、灸を禁すべき部位を挙げよ
- 一、消毒薬としてのアルコールの使用方法を述べよ

長野縣 (昭十三年三月)

- 一、體温並に其の發生理由を説明せよ
- 一、坐骨神経痛の原因及び症狀に就いて
- 一、交感神経に就て
- 一、鍼の血球に及ぼす影響を記せ
- 一、肩貞、五處の解剖的位置を記せ
- 一、鍼術の實施に當り消毒を必要とす

- 一、ものを挙げ且つ其の完全なる消毒方法を記せ (以上鍼術學說)
- 一、白血球に就いて知る處
- 一、顔面神経麻痺の症狀を述べよ
- 一、腎臟の位置並に機能を問ふ
- 一、施灸各部の各種艾炷の皮下深部に及ぼす熱の深さを問ふ
- 一、下痢症に對する灸療法
- 一、沃度丁幾の消毒力を問ふ (以上灸術學說)

新潟縣 (昭十三年四月)

- 一、肺臟の位置、形狀、構造及び其の生理的作用
- 一、坐骨神経の經過及び脈管、筋肉との關係 (以上共通學說)
- 一、後頸部に存する穴名及び刺鍼の深さを
- 一、刺鍼の血管系統に及ぼす生理的現象 (以上鍼術)
- 一、消毒の必要な所及び主なる消毒薬液の調製方法

- 一、施術に於ける消毒方法 (以上共通)
- 一、尺骨神経麻痺の症候及び其の刺鍼法

- 一、肋間神経痛の症候及び其の刺鍼法 (以上鍼術學說)

- 一、灸の生理的作用
- 一、下腿後側に存する穴名及び灸の壯數

- 一、胃下垂の症候及び其の灸療法
- 一、胃瘰癧と膽石痛との區別及び其の灸療法 (以上灸術學說、新潟市の分)

- 一、胸廓内臟の名稱、位置、形狀及び其の機能
- 一、側頸部に於ける主なる血管、神経、筋肉との關係

- 一、消毒の意義
- 一、業務上必要な消毒薬品の名稱及び其の應用 (以上鍼灸共通學說)

- 一、鍼の鎮靜作用
- 一、後頸部に於ける刺鍼の深さを並に其の注意

- 一、胃瘰癧と精系神経痛との鑑別及び其の刺鍼法

- 一、尺骨神経麻痺の刺鍼法 (以上鍼術學說)

- 一、灸の生理的作用
- 一、下肢に於ける主なる穴名及び灸の壯數

- 一、胃瘰癧と精系神経痛との鑑別及び灸療法
- 一、撓骨神経麻痺の灸療法 (以上灸術學說、柏崎)

福井縣 (昭十三年四月)

- 一、頸部の筋及び筋膜に就いて
- 一、脾臟の生理的作用に就いて
- 一、刺鍼に依る組織的變化
- 一、鍼の抗體に及ぼす影響
- 一、石炭酸に依る鍼具の消毒法を問ふ
- 一、日光の消毒作用に就き述べ之に適應する物品を挙げよ (以上鍼術學說)
- 一、上膊神経叢に就いて

- 一、内分泌腺に就いて
- 一、艾の効用に就いて
- 一、腹部正中線上にある經穴並に禁穴
- 一、皮膚消毒は如何なる場合に行ふや
- 一、消毒薬三種を挙げ其の應用を問ふ (以上灸術學說)

山形縣 (昭十三年四月)

- 一、骨の主成分
- 一、神經傳達機能
- 一、鍼質は如何なるものを選ぶや
- 一、興奮法と制止法とを説明せよ (以上鍼術學說)
- 一、内呼吸、外呼吸に就いて
- 一、横隔膜の位置、形狀作用
- 一、灸の醫治効用に就いて
- 一、灸の禁忌の部位 (以上灸術學說)

三重縣 (昭十三年四月)

- 一、大腿に分佈する血管神経の名稱
- 一、左記臟器の所在、形狀、作用  
(イ)腎盂 (ロ)耳下腺 (ハ)食管

- 一、鍼の消炎作用に就いて
- 一、婦人科疾患に對する鍼の治病的効果如何
- 一、傳染病の疑ある患者を取扱たる後の消毒方法
- 一、消毒薬として必要なる條件

(以上鍼術學說)

- 一、血液成分に就いて
- 一、脾臓の位置、形状、作用に就いて
- 一、治療上より見たる灸の刺較量に就いて
- 一、機能的疾患に對する灸の病的効果
- 一、消毒と清潔との區別
- 一、蒸氣消毒方法 (以上灸術學說)

大分縣 (昭十三年四月)

- 一、股關節を構成する骨の名稱及び其の部を通過する血管、神經、筋肉との關係
- 一、泌尿器各部の名稱並に生理作用
- 一、アルコールの消毒力を有する理由
- 一、胃脘、腎臟、豊隆の部位、解剖的

關係並に適應症

- 一、炎症に對する鍼の作用 (以上鍼灸共通學說)
- 一、灸の種類及び其の施術方法利害に就いて (以上灸術學說)

福岡縣 (昭十三年四月)

- 一、迷走神經の起始並に分佈する内臟を問ふ
- 一、脾液の消化作用
- 一、神經痛の原因、症候及び刺鍼の奏效する理由如何
- 一、法定消毒薬の名稱を挙げ且つ應用上の注意 (以上鍼術學說)
- 一、五臟の名稱を挙げ且つ其の部位
- 一、胸管とは何ぞや其の經過をも記せ
- 一、肺經の名稱を列記せよ
- 一、化膿は如何なる場合に起るや又其の豫防法を記せ (以上灸術學說)

北海道 (昭十三年三月)

- 一、腦頭蓋骨の名稱及び其の位置

自律神經とは何ぞや

- 一、膽石症に對する療法但し刺鍼點は解剖的名稱を用ふる事
- 一、鍼治の誘導法
- 一、消毒の目的
- 一、鍼の取扱不注意に由て傳播さるゝ虞ある疾病の名稱を列記せよ (以上鍼術學說)

腹部諸筋の名稱

- 一、脾臓の位置及び機能
- 一、坐骨神經痛に對する療法、但し施灸點は解剖學的の名稱を用ゆること
- 一、灸治の反射作用
- 一、破傷風とは何ぞや
- 一、消毒薬としてクレゾール水の長所及び短所 (以上灸術學說)

和歌山縣 (昭十三年四月)

- 一、三叉神經の起始、分佈及び其の作用
- 一、皮膚の生理的作用
- 一、左の各項に就いて述べよ

(イ)普通アルコールと無水アルコールとの消毒力の優劣

(ロ)各自使用しつゝある消毒用アルコールの製法

(以上鍼灸共通學說)

- 一、鍼の神經に及ぼす作用 (以上灸術學說)
- 一、灸の神經に及ぼす作用 (以上灸術學說)

奈良縣 (昭十三年五月)

- 一、腋窩に於ける神經、血管の名稱、起始、經過並に分佈
- 一、肝臓の位置、形状並に作用に就いて
- 一、天柱穴の部位及び解剖的關係並に其の應用疾患を挙げよ
- 一、胃疾患に於けるヘツド氏帯に相當する經穴名
- 一、クレゾール石鹼液の性状並に消毒上の應用 (以上鍼術學說)
- 一、横隔膜に就いて

一、骨髓の機能作用

一、足の厥陰肝經中腹部に存する經穴名と其の應用疾患を記せ

一、無癩痕灸の長所と短所

一、金屬器械類の消毒法 (以上灸術學說)

高知縣 (昭十三年五月)

- 一、外頸動脈の經過並に内頸動脈の起始を記せ
- 一、腦神經の作用
- 一、鍼的刺戟の強弱は如何にして行ふか知る處を記せ
- 一、腦充血と腦貧血に就いて各其の治療法施鍼穴名、奏效理由を記せ
- 一、鍼の消毒に際し理學的消毒と化學的消毒の優劣
- 一、化學的消毒の調製方法 (以上鍼術學說)

一、顔面神經の經過

一、皮膚の生理的作用

一、艾灸温度の深達作用に就き知る處

を記せ

一、高血壓病とは何か其の原因、症狀、治穴、奏效の理由

一、消毒と清潔の區別

一、灸痕より侵入し易き傳染病の名稱と其の豫防方法 (以上灸術學說)

徳島縣 (昭十三年五月)

- 一、骨の構造
- 一、横紋筋の作用
- 一、飲食物より傳搬する病毒並に此の消毒法 (以上鍼灸共通學說)
- 一、鍼治の一般的禁忌
- 一、肋膜炎の自覺症狀並に鍼治の適否 (以上鍼術學說)
- 一、灸治の一般的禁忌
- 一、脊髄癆の病狀並に灸治の適否 (以上灸術學說)

石川縣 (昭十三年四月)

- 一、(イ)大腿中央部の水平斷面を畫き説明せよ
- 一、(ロ)耳下腺の解剖學上の位置、構

- 造、機能並に脈管、神経との關係
- (イ)狭心症の症候及び其の治療法
- (ロ)左記經穴の解剖學上の位置及び陽禁の別を記せ
- 神庭、晴明、大白、上膠、身柱
- 一、防癆、制癆、殺菌、消毒、滅菌の意義 (以上鍼灸共通學說)

埼玉縣 (昭十三年四月)

- 一、骨髓に就て知る處を記せ
- 一、筋肉の生理的作用 (以上鍼灸共通學說)
- 一、拔鍼困難の起る理由及び其の處置
- 一、腓腸筋痙攣の原因症候及び刺鍼點
- 一、神經性心悸亢進症の原因、症候及び其の施鍼點
- 一、鍼に適當な消毒藥 (以上鍼術學說)
- 一、妊娠に對する點灸の可否如何
- 一、施灸部皮膚の組織的影響に就いて
- 一、經穴とは何ぞや
- 一、業務上消毒の必要なる理由 (以上鍼術學說)

群馬縣 (昭十三年五月)

- 一、腎臟の位置、形狀及び構造
- 一、三叉神經の作用
- 一、脊髄麻痺と脚氣麻痺との區別
- 一、左の經穴の解剖的及び之に分佈する神經を記せ
- 鳩尾 瘰癧 肩井 伏兎
- 一、顔面神經麻痺の症狀及び鍼治法 (以上鍼術學說)
- 一、腦頭蓋の縫合種類及び之を構成する骨の名稱
- 一、迷走神經の作用
- 一、灸が血管に及ぼす影響
- 一、左の疾病に對する經穴を問ふ
- 一、常習便秘、脚氣(八處の穴)齒痛
- 一、慢性胃加答兒の灸治法 (以上鍼術學說)

富山縣 (昭十三年五月)

- 一、三叉神經の走路
- 一、體溫の調節機能
- 一、副神經痙攣の原因並に鍼治法

鹿兒島縣 (昭十三年五月)

- 一、腓骨神經麻痺の原因並に鍼治法
- 一、消毒藥として石炭酸及びアルコールの得失
- 一、皮膚傳染病に就いて (以上鍼術學說)
- 一、迷走神經の走路
- 一、血液の組織並に效用
- 一、脚氣の原因並に之に對する灸治法
- 一、尺骨神經麻痺の原因並に灸治法
- 一、創傷傳染病に就いて知る處を記せ (以上鍼術學說)

鹿兒島縣 (昭十三年五月)

- 一、延髓の位置、形狀並に機能に就いて
- 一、血壓に就いて知る處を記せ
- 一、各種消毒法の利害に就いて
- 一、腹部第一側線の穴名を擧げて商曲の解剖的部位に就き説明せよ (以上鍼灸共通學說)
- 一、鍼の生理的作用を簡明に記せ
- 一、神經痛に對する適切なる鍼治法如何 (以上鍼術學說)

静岡縣 (昭十三年五月)

- 一、肝臟及び脾臟の位置、構造
- 一、脊髄の機能及び其の諸中樞を記せ (以上共通鍼灸學說)
- 一、指趾端に於ける經穴の解剖學的部位並に關係經絡の名稱と起始終止別を記せ
- 一、胃腸疾患に於ける鍼の適症及び禁忌症を擧げ且つ其の理由を問ふ (以上鍼術學說)
- 一、腹部に於ける禁灸穴の位置及び禁する理由
- 一、瘍疔に對し灸の奏效する理由と經穴の位置を記せ (以上鍼術學說)

山形縣 (昭十三年四月)

- 一、太迎天突の部位並に解剖的關係
- 一、常習便秘に對する鍼治療法
- 一、頸背部に刺鍼せしむ
- 一、刺鍼中の手技 (以上鍼術實地)
- 一、鷲風チリゲの部位並に醫治應用
- 一、灸の腸蠕動に及ぼす影響並に其の

- 一、筋の萎縮に對する灸療法
- 一、胃擴張の症候並に適切なる施灸部位を擧げよ (以上鍼術學說)

廣島縣 (昭十三年六月)

- 一、坐骨神經の分佈
- 一、肝臟の位置及び其の機能
- 一、左記經穴の部位並に其の解剖的關係
- 一、(イ)石炭酸水と昇汞水の應用上の差異
- 一、(ロ)五十倍石炭酸水五百立方センチメートルの製法
- 一、施術局所の消毒の必要なる所以 (以上鍼灸共通學說)
- 一、腦充血に對する鍼治の目的及び其の方法 (以上鍼術學說)
- 一、夜尿症に對する灸治の目的及び其の方法 (以上鍼術學說)

鳥取縣 (昭十三年六月)

- 一、肩胛關節を説明せよ

肩胛筋の内にて上膊を上擧する筋に就て

- 一、心尖搏動に就いて
- 一、坐骨神經の經過及び分佈
- 一、右上膊中央部横斷面圖を示し血管神經骨及び筋肉の名稱を記せよ
- 一、ウキリス氏動脈環を形成する動脈の名稱
- 一、理學的消毒に就いて
- 一、創傷傳染病ある者に鍼したる場合の消毒 (以上鍼術學說)
- 一、第一頸椎を圖解し各部の名稱を記入せよ
- 一、上頸三角部に見る骨、筋、血管、神經及び臟器を圖說せよ
- 一、ヘッド氏帯を説明せよ
- 一、腹部に於ける臟器の名稱
- 一、上膊動脈
- 一、白血球に就いて
- 一、蒸氣消毒法に就いて
- 一、開放性結核患者に施灸したる場合の消毒物件 (以上鍼術學說)



醫治應用

- 一、膀胱麻痺に對する灸療
- 一、上肢の三里の施灸 (以上灸術實地)

長野縣 (昭十三年四月)

- 一、上肢に於ける禁灸穴名を云へ且つ其の部位を指壓せよ
- 一、地平灸を行へ (以上灸術實地)
- 一、腹部正中線の穴名を云へ且つ之を指壓せよ
- 一、中風豫防の灸は如何なる所に施すか (以上灸術實地)

大分縣 (昭十三年四月)

- 一、癩癰の原因症狀灸療法 (灸術實地)
- 一、肺炎カタル胃酸過多症の原因症狀灸療法 (灸術實地)

栃木縣 (昭十三年六月)

- 一、膝關節に就きて知る處を記せ
- 一、咀嚼筋並に之に分佈する神經
- 一、鍼術の治療作用

- 一、屋翳、外陵、下關、伏兔、小海の解剖的部位應用如何
- 一、石炭酸水調製上注意すべき點
- 一、ビュール、プリンゲル氏の手指消毒法に就いて (以上灸術學說)
- 一、補瀉の法とは如何
- 一、撓骨神經麻痺に對する刺灸點及び其の術式を行へ (以上灸術實地)
- 一、靱帯の性状、種類及び作用
- 一、下腿の中央部を切斷するときは如何なる筋、神經を切斷するや
- 一、灸術の鎮痛作用に就いて
- 一、上廉、地倉、復結、通谷、或中の解剖的部位、應用如何
- 一、灸痕化膿の理由並に豫防上の注意
- 一、左記のものに最も適當したる消毒方法を述べよ
- 一、井戸、便所、鐵製品、食器、書籍
- 一、筋疲勞に及ぼす灸の影響如何
- 一、感冒に對する灸治點及び注意事項如何 (以上灸術實地)

岐阜縣 (昭十三年四月)

- 一、胸鎖乳嚔筋の起始、停止及び之に分佈する神經の名稱
- 一、迷走神經の官能
- 一、血液循環の必要なる理由
- 一、消毒藥としての「アルコール」と昇汞水の優劣點 (以上共通學說)
- 一、誘導刺灸とは何ぞや之が應用
- 一、慢性筋肉ロイマチスに對する刺灸の目的及び治療法 (以上灸術學說)
- 一、灸の血液に及ぼす影響
- 一、急性腸加答兒に對する灸の効果を述べ且つ之が治穴を挙げよ
- 一、氣管枝加答兒の施灸點及び此の指壓灸目的及び施灸の順序
- 一、膀胱麻痺に用ひる經穴及び指壓灸灸目的、施灸壯數及び施灸の順序 (以上灸術實地)
- 一、後頭神經痛の原因、症候、治療法
- 一、實地、三番灸にて風池へ刺灸 (以上灸術實地)

滋賀縣 (昭十三年五月)

- 一、腹部内臓の名稱及び位置
- 一、坐骨神經の走行
- 一、偏頭痛に對する灸治穴名
- 一、氣管枝喘息に對する灸療法
- 一、フォルマリン水及びクレゾール水は如何なる物の消毒に適するや
- 一、喀痰の消毒に就いて (以上灸術學說)
- 一、血液循環を横型的に圖示し主なる部分に名稱を附けよ
- 一、肝臓の機能の説明せよ
- 一、尺骨神經麻痺の灸療法
- 一、常習頭痛に對する灸療法
- 一、アルコール及び昇汞水の性状を述べ消毒藥としての長所及び短所
- 一、灸術施術者の心得べき消毒法 (以上灸術學說)

兵庫縣 (昭十三年四月)

- 一、鍼術刺戟の生理的作用に就いて
- 一、大腿部に於ける筋肉の名稱

皮膚の構造

- 一、瘰癧、隔愈、關元、懸鐘の部位
- 一、消毒藥三種の名稱と其の應用
- 一、蒸氣消毒と煮沸消毒との相違點 (以上灸術學說)
- 一、坐骨神經の起始、經過、分佈
- 一、淋巴腺に就いて知る所を記せ
- 一、慢性膝關節炎の灸療法
- 一、腹部前面に存する經穴名十種を挙げよ
- 一、煮沸消毒の方法と之に適する物品
- 一、消毒藥二種の名稱と其の應用 (以上灸術學說)

宮崎縣 (昭十三年四月)

- 一、鼠蹊窩を構成する筋の名稱及び通過する脈管神經の名稱と位置
- 一、ホルモンに就いて知る所を記せ
- 一、消毒の目的を達成する必要なる物件 (以上灸術學說)
- 一、神經痛に對し刺灸の奏效する理由
- 一、缺血、血海、腰眼、承筋の解剖的

部位並に禁要穴の區別

- 一、氣管枝喘息の病狀及び之に對する灸療法如何
- 一、鬚風、白環愈、天柱、脾關の解剖的部位並禁要穴の區別如何 (以上灸術學說)
- 一、陽陵泉、三陰交の部位並に豐隆の刺灸法 (以上灸術實地)
- 一、隱白、陰陵泉の部位並に照海の灸療法 (以上灸術實地)

三重縣 (昭十三年九月)

- 一、知覺神經終末裝置に就いて知る處を記せ
- 一、淋巴系統に就いて記せ
- 一、鍼の保健的效果如何
- 一、俗に言ふ凝に鍼の奏效する理由
- 一、加熱消毒の利害得失を記せ
- 一、左記物件の消毒方法を記せ
- 一、(イ)椅子 (ロ)萬年筆 (ハ)白布 (以上灸術學說)

一、脊髓に就いて知る處を記せ

一、腹膜に就いて記せ

一、灸の適否は如何にして定めるか其の理由を述べよ

一、喘息に對する灸治法

一、藥物消毒の利害得失

一、室内消毒方法 (以上灸術學說)

青森縣 (昭十三年九月)

一、靱帯の作用並に區別

一、腹部を構成する主なる筋肉を挙げ且つ其の分佈神經及び血管に就いて記せ

一、脊髓の作用 (以上鍼灸共通學說)

一、鍼的刺戟を説明せよ

一、折鍼及び不拔鍼は如何に處置するか

一、鍼を消毒するには如何なる方法ありや (以上鍼術學說)

一、灸の腸蠕動に及ぼす影響を問ふ

一、灸の治療的作用を略述せよ

一、消毒の必要なる理由並に消毒藥の

名稱及び其の稀釋度 (以上灸術學說)

富山縣 (昭十三年九月)

一、筋肉の種類及び其の所在

一、脊髄神經に就いて知る處を記せ

一、慢性胃炎に對する穴名並に刺鍼法

一、刺鍼の手技を説明せよ

一、消毒法の必要なる理由

一、石炭酸の性状並に應用 (以上鍼術學說)

一、一般鍼治法

一、顔面神經痛の鍼治法

一、副神經麻痺の鍼治法 (同實地)

一、腸に就いて知る處を記せ

一、副腎の位置並に其の作用

一、脚氣に對する灸治法

一、肋間神經痛に對する灸治法

一、理學的消毒法に就いて

一、アルコールの性状並に其の應用法 (以上灸術學說)

一、一般灸治法

一、腰痛の灸治法

一、尺骨神經麻痺の灸治法 (同實地)

大阪府 (昭十三年十月)

一、ヘッド氏帯を説明せよ

一、左記神經を刺戟せし時の反應を説明せよ

1 知覺神經、運動神經

2 交感神經

一、刺戟を避くべき場合及び場所

一、膝關節の周圍に在る穴名を挙げ其の内三穴に就き解剖的部位取穴法及び經名を記せ

一、尿道淋疾に對する鍼治の要穴を挙げ且つ其の刺鍼法に就いて

(以上鍼術學說)

一、頸部に於ける血管及び神經の名稱

一、肝臟の機能

一、灸の心臟機能に及ぼす影響に就いて

一、脚氣に就き知る處を述べ併せて其の灸治法

一、呼吸系疾患に對する要穴を挙げ其

の内五穴に付經名及び解剖的部位

(以上灸術學說)

和歌山縣 (昭十三年十月)

一、上膊に於ける主要神經の名稱を列挙し其の經路に就いて述べよ

一、血液循環に就いて詳記せよ

一、業務上消毒の必要なる理由を詳記せよ (以上鍼灸共通學說)

一、便秘に對する鍼治法

一、頸部に刺鍼を行ふ場合の注意事項 (以上鍼術學說)

一、便秘に對する灸治法

一、灸法の適應症に就いて

(以上灸術學說)

愛媛縣 (昭十三年九月)

一、鎖骨下動脈の起始、經過及び分枝動脈の名稱を記せ

一、經穴と「ヘッド」氏帯の關係に就いて

一、左の諸穴に就いて知る處を記せ

頰車、五里、陽綱

一、皮膚消毒の目的及び其の消毒方法

一、二%セント(五十倍)石炭酸水三百立方厘の製法並に石炭酸水の適當なる稀釋濃度 (以上鍼灸共通學說)

一、内分泌腺に就いて知る處を記せ

一、腸の蠕動に對する鍼術の作用に就いて詳記せよ (以上鍼術學說)

一、左記に就き説明せよ

(イ)卵圓孔 (ロ)不動關節 (ハ)顎下三角 (ニ)腦底を構成する骨の名稱

一、灸の循環系に對する作用に就いて

(以上灸術學說)

一、坐骨神經の經過並に分佈

一、腹腔内に於ける臟器の名稱及び其の機能の大略

一、氣舍、股門、陽陵泉、氣海の部位並に應用疾患

一、神經痛に對する刺鍼方式並に其の奏效する理由

奈良縣 (昭十三年十月)

一、消毒の意義を説明し消毒法を分類せよ (以上鍼術學說)

一、自律神經に就いて

一、血液循環に就いて

一、大椎、腰眼、陽谿、大敦の解剖的部位並に應用疾患

一、慢性腸カタルの施灸點と奏效する理由 (以上灸術學說)

一、呼吸運動及び之に與かる筋肉、神經に就いて

一、脊髄の作用

一、鍼具類の消毒方法を詳記せよ

一、脊髄性小兒麻痺の症狀及び鍼治法

一、胃瘰癧に對する用穴を挙げよ

一、鍼の興奮作用に就いて (以上鍼術學說)

一、左に就き知る處を記せ

(イ)無名靜脈 (ロ)甲狀腺

(ハ)迷走神經

一、横隔膜を貫く神經及び血管の名稱

を挙げよ

- 一、細菌の死滅と温度との關係
- 一、大椎、風門、膏肓の解剖上の位置
- 一、消化不良の施灸點
- 一、坐骨神經痛の症狀を詳記せよ  
(以上灸術學說)

岡山縣 (昭十三年十月)

- 一、味覺を司る神經名
- 一、淋巴腺の生理的作用
- 一、腸疾患に長鍼を使用するの可否並に其の應用
- 一、禁鍼穴を挙げ其の理由
- 一、業務上如何なる箇所を消毒するか
- 一、消毒薬を選擇するに就いての注意
- 一、鍼先轉移法の術式
- 一、副神經痛に對する鍼治法  
(以上鍼術學說)
- 一、胃の位置
- 一、坐骨神經の經路
- 一、取穴上最も注意すべき事項
- 一、灸の反射作用に就いて
- 一、消毒用昇汞水の長所短所を述べよ

一、クレゾール石鹼液が消毒に使用せらるゝ理由

一、灸點法  
一、面疔に對する灸治點  
(以上灸術學說)

茨城縣 (昭十三年十月)

- 一、肝臟の機能
- 一、大腿部の筋に就いて
- 一、左記消毒薬を使用するときの濃度を記せ
- 一、石炭酸 二、クレゾール石鹼液 三、フォルマリン 四、昇汞  
(以上鍼術學說)
- 一、眼窩を構成する骨の名稱
- 一、皮膚の機能
- 一、煮沸消毒に就いて (以上灸術學說)
- 一、京都府 (昭十三年十月)
- 一、腹膜に就いて
- 一、腹部の内臟器官を舉げて各作用を記せ
- 一、左記物件に適する消毒法を挙げよ

(一)手指 (二)手術衣 (三)室内 (四)飲料水

一、「アルコール」を用ふる消毒に就き知る處を記せ (以上鍼灸共通學說)

一、鍼術の誘導法の術式及び治療上の價値に就いて

一、腰腹神經痛の治療要穴と方式  
(以上鍼術學說)

兵庫縣 (昭十三年十月)

- 一、胸廓を構成する骨の名稱
- 一、大循環と小循環との區別
- 一、刺鍼法の種類
- 一、腹部前面にある經穴名
- 一、消毒の必要なる所以
- 一、局部消毒法 (以上鍼術學說)

せ (以上灸術學說)

廣島縣 (昭十三年十月)

- 一、腹部内臟の名稱
- 一、十二對腦神經の名稱及び其の機能
- 一、下肢の上腿にある穴名に分佈する神經
- 一、消毒の種類
- 一、消毒薬二種の名稱を挙げ並に其の應用 (以上鍼灸共通學說)
- 一、神經性胃痛と胃潰瘍との鑑別を舉げ各々に對する鍼術を述べよ  
(以上鍼術學說)
- 一、慢性下痢の灸法及び灸治の効ある理由 (以上灸術學說)
- 一、岐阜縣 (昭十年秋)
- 一、脊髓神經の分佈に就いて
- 一、頭部を前後に屈する筋名
- 一、交感神經の作用
- 一、手指の消毒に用ゆる藥品名其の濃度

一、清潔と消毒との區別  
(以上鍼灸共通學說)

一、鍼の制止法とは如何並に其の應用を記し氣海、懸鐘の解剖的位置及び主治を挙げよ

一、腹部に發する疼痛中施鍼の適應症並に刺鍼點及び其の目的  
(以上鍼術學說)

一、灸の治療的作用並に風門、地五會の解剖的位置及び其の要禁の別を問ふ

一、灸の血行に及ぼす影響並に中氣の豫防の理由如何 (以上灸術學說)

神奈川縣 (昭十三年十月)

- 一、腎臟の位置形状大きさ及び其の機能
- 一、上膊に於ける主なる神經の經路
- 一、肋間神經痛に對する鍼治法及び其の經穴の部位
- 一、消毒薬四種を挙げ其の使用法並に其の優劣に就いて (以上鍼術學說)
- 一、血液の循環に就いて知る所を記せ
- 一、脊髓の位置、構造並に其の機能に

一、關節の構造

一、腹部内臟の名稱及び位置

一、腓骨神經麻痺の灸治法

一、頸部にある禁穴名

一、蒸氣消毒に適する消毒品名

一、手指の消毒法 (以上灸術學說)

德島縣 (昭十三年十月)

一、左の語を説明せよ

隔愈、翳風、扶突、甲狀軟骨、盲腸

一、酒精、クレゾール石鹼液の消毒劑として使用法を記せ  
(以上鍼灸共通學說)

一、前膊に於ける主なる筋肉の名稱及び起始並に停止

一、自律神經に就いて

一、腸閉塞の原因、症狀及び鍼治の適否 (以上鍼術學說)

一、胸部並腹部に存する筋肉を挙げよ

一、錐體索道 (遠心道に就て記せ)

一、黃疸の原因症候及び其の灸治を記

- 就いて
- 一、氣管枝喘息に對する灸治法に就いて
  - 一、消毒の意義並に皮膚に損傷ありたる場合如何なる障礙を來すべきや (以上灸術學說)

大分縣 (昭十三年十月)

- 一、十二對神經に就いて
- 一、體溫調節作用に就いて
- 一、傳染性皮膚病患者を施術後は如何なる消毒方法を行ふや
- 一、客主人、雲門、崑崙の部位、解剖的關係並に適應症 (以上鍼灸共通學說)
- 一、瘰癧に對する鍼の利害に就いて (以上鍼術學說)
- 一、下痢に對する療法 (以上鍼術學說)
- 一、鍼の刺し方 (以上鍼術實地)
- 一、胸部疼痛に對する施灸の利害に就いて (以上灸術學說)
- 一、慢性氣管支炎の療法 (以上灸術實地)
- 一、小兒麻痺の療法 (以上灸術實地)

新潟縣 (昭十三年十月)

- 一、大腿に於ける筋肉、血管、神經の關係
- 一、呼吸作用を説明せよ
- 一、消毒の目的及び主なる消毒藥の種類 (以上鍼灸共通學說)
- 一、鍼の興奮作用
- 一、頸部に於ける刺鍼の深さ並に其の注意
- 一、三叉神經痛の症候及び其の刺鍼法
- 一、鍼手指施術部の消毒方法
- 一、腹部正中に位する穴名及び其の刺鍼法 (以上鍼術學說)
- 一、胃に當る穴名及び灸の壯數如何
- 一、三叉神經痛の症候及び其の灸治法
- 一、筋肉ロイマチスと神經痛との區別及び灸治法
- 一、灸點後の處置 (以上灸術學說)

新潟縣高田市 (昭十三年十月)

- 一、前膊に於ける筋肉、血管、神經の關係

- 一、血液循環を説明せよ
- 一、主なる消毒藥の種類及び其の稀釋度
- 一、手指及び施術部の消毒法 (以上鍼灸共通學說)

福岡縣 (昭十三年秋)

- 一、鍼の鎮靜作用
- 一、後頭部の刺鍼の深さ並に其の注意
- 一、肋間神經痛の症狀及び其の刺鍼法
- 一、胸鎖乳嚔筋に於ける穴名及び刺鍼法 (以上鍼術學說)
- 一、胸腹部に於ける灸法の不適應症
- 一、腰筋ロイマチスに對する灸治法
- 一、大腿後側に於ける穴名及び灸の壯數
- 一、脚氣の灸治法 (以上灸術學說)

山形縣 (昭十三年十月)

- 一、大坐骨孔の位置及び之を通過する神經、血管の名稱
- 一、延髓の機能
- 一、自己の使用する鍼並に手指の消毒の名稱と其の使用方法を記せ

山形縣 (昭十三年十月)

- 一、接觸傳染病とは何ぞや例を舉げて説明せよ (以上灸術學說)
- 一、心臟の位置形狀構造
- 一、體溫の發生する理由
- 一、尿閉の原因、症候、鍼治法
- 一、鍼の血行に及ぼす作用 (以上鍼術學說)
- 一、水道、白環俞の部位
- 一、腕骨神經痛の鍼療法
- 一、鍼の刺鍼術式
- 一、下腿前側の斜刺實地 (以上鍼術實地)
- 一、股動脈の起始、經過
- 一、脊髓の機能
- 一、不眠症の原因症候灸治法
- 一、灸は如何なる場合に不可なるや (以上灸術學說)
- 一、中瀆、命門の部位並に醫事効用
- 一、有痕灸の濕灸にまさる理由
- 一、月經痛の灸療法

- 一、左記患者の病名、原因、鍼術治療の目的、施術部及び手技を記せ
- 一、四十五歳の男子、數日來左側臀部に牽引痛、同じく腓腸部に倦怠痛を覺え運動壓迫時に其の強さを増す、尙痛ある部を觸れると可成の抵抗あり、仰臥位に於いて下肢を股膝兩關節に於けて曲げ置き以て膝關節のみを伸すと臀部より大腿後側に互り疼痛を訴へ之を中止すれば疼痛止む (以上鍼術學說)
- 一、顔面神經の起始、經過及び其の分布
- 一、皮膚の生理的作用
- 一、灸痕より侵入し易き傳染病の名稱と其の豫防方法
- 一、左記患者の病名、原因、灸術治療の目的施術部位及び其の方法を記せ
- 一、二十七歳の男子、一週間前より咳及び痰出す、胸骨上部の奥の方に笛聲様の音を聞き搔痒を訴ふ、尙

北海道 (昭十三年九月)

- 一、菱形筋部、肩上の僧帽筋部に緊張壓迫による疼痛を認む (以上灸術學說)
- 一、腦神經の名稱を挙げ其の各神經の起始を記せ
- 一、心臟瓣膜の名稱及び其の作用
- 一、刺鍼の禁忌症並に禁忌部位の概要
- 一、坐骨神經痛に對する鍼治療法 (但し刺鍼點は解剖學的名稱を用ふること)
- 一、法定傳染病の名稱並に各病原體の侵入門戸を記せ
- 一、「クレゾール」石鹼液の用法及び應用範圍 (以上鍼術學說)
- 一、三頭膊筋の起始、停止及び之に分布する神經の名稱
- 一、脊髓の構造及び生理的作用
- 一、火傷の組織學的變化
- 一、灸の醫治効能
- 一、防腐及び制腐の意義

一、曲池の施灸 (以上灸術實地)

長崎縣 (昭十三年十月)

一、顔面神經の經過  
一、血壓に就いて

一、大鐘、陰廉、天窓の位置及び其の部に於ける筋、血管、神經の關係

一、鍼術の禁忌症

一、鍼によつて媒介せらるゝ傳染性疾患の名稱を挙げよ (以上灸術學說)

一、腎臟の位置

一、小腦の機能

一、俠谿、商曲、大包の位置及び其の部に於ける筋、血管、神經の關係

一、畢九灸に對する灸點法

一、消毒と清潔と異なる點

(以上鍼術學說)

山口縣 (昭十三年九月)

一、肝臟の位置形狀及び生理的作用

一、膝關節を構成する筋の名稱及び通過する血管神經

一、手指並に施術部位の消毒方法を詳記せよ (以上鍼灸共通學說)

一、鍼の刺入方向を決定すべき標準

一、尿頻數に對する鍼治術式 (以上鍼術學說)

一、灸温の深達度

一、肘關節部に存する穴名及び其の屬する經名 (以上灸術學說)

一、灸温の深達度

石川縣 (昭十三年十月)

一、小腸の解剖學的的位置及び機能

一、正中神經の經過

(以上鍼灸共通學說)

一、脚氣の症狀及び鍼灸治法

一、術者が日常使用する消毒藥二種に就いて其の用法及び用途を述べよ

岩手縣 (昭十三年十一月)

一、迷走神經の起始及び分佈に就いて

一、血液の成分及び其の生理的作用如何

一、食道狹窄症の原因、症狀及び鍼治

法「灸治法」に就いて

一、左記の穴に分佈する神經と血管名を記せ

(イ)百會 (ロ)風池 (ハ)消滯

(ニ)合谷 (ホ)下腿の三里

(以上鍼灸共通學說)

一、鍼術の手技に就いて

(以上鍼術學說)

一、灸治法を行ふに當り注意すべき事項 (以上灸術學說)

福井縣 (昭十三年秋)

一、心臟の構造

一、三叉神經の分佈

一、主なる消毒藥五種を挙げ其の得失に就いて

一、アルコールの殺菌作用

一、前頭部諸穴の取穴法並に天突應用

一、刺鍼刺戟による筋及び神經の動作 (以上學說)

一、顔面神經麻痺の症狀並に鍼治法

一、肩胛間部の穴名並に其の主治 (以上實地)

島根縣 (昭十三年十月)

一、心臟の位置、形狀、構造及び機能

一、迷走神經の起始、經過及び分佈

一、化學的消毒藥品の名稱三種を挙げ其の優劣に就いて

一、消毒と清潔と異なる點

一、理學的消毒方法は皮膚の消毒に適するや否や (以上鍼灸共通學說)

一、ヒステリーの原因、症狀、鍼治法及び其の注意事項

一、坐骨神經痛の壓痛點を挙げ治療穴名と解剖的關係 (以上鍼術學說)

一、左の事項に就き知る所を述べよ (一)騎竹馬の穴 (二)丹田の穴 (三)奇經八脈

一、灸術の疾病豫防の效果に就いて (以上灸術學說)

一、股神經痛の刺鍼穴名を挙げ其の要穴一點に刺鍼せよ (以上鍼術實地)

一、腓腸筋痙攣の刺鍼穴名を挙げ其の要穴一點に刺鍼せよ (以上灸術實地)

一、頸淋巴腺腫脹の灸治穴名を挙げ指壓せよ

一、腰筋ロイトチスの灸治穴を挙げ指壓せよ (以上鍼灸實地)

一、下肢に於ける骨の聯接に就き知る所を記せ

熊本縣 (昭十三年十月)

一、上膊に於ける筋、神經、血管に就いて其の關係

一、壓痛部に施鍼を禁ずる場合を問ふ

一、雲門穴の禁鍼の理由

一、消毒の順序方法に就いて

一、消毒の目的及び鍼術に於いて普通用ひらるゝ消毒藥の名稱に其の用途

一、拔鍼困難なる場合の處置

一、天膠に施鍼して雀啄法を行へ (以上鍼術學說)

一、腹腔内臓器の名稱及び機能

一、腋窩に於ける筋と血管神經の關係

一、施灸の腸蠕動に及ぼす影響

一、脾經の禁灸穴

一、消毒藥の備ふべき條件に就いて

一、消毒方法を列舉し各其の例を記せ

一、溫溜、天樞、會陽、完骨、申脈の部位を指壓

一、貧血症に對する灸治法 (以上灸術學說)

三重縣 (昭十三年九月)

一、下腿前側に刺鍼一寸六分 (鍼術實地)

一、不眠症に就いて原因並に治療法

一、左の要穴を指壓せよ 絲竹空、人迎、列缺、勞宮、丘墟、(以上灸術實地)

一、神經性心悸亢進症の刺鍼法

一、前膊に刺鍼 (以上鍼術實地)

一、脚氣八處の灸

一、右同部の指壓 (以上灸術實地)

一、右同部の指壓 (以上灸術實地)

一、右同部の指壓 (以上灸術實地)

一、右同部の指壓 (以上灸術實地)

秋田縣 (昭十三年十月)

- 一、横隔膜に就いて
- 一、膝窩窩に就いて述べ之を通過する血管及び神経の名稱を挙げよ
- 一、鍼の生理的作用
- 一、腸痛痛に對する鍼治法に就いて
- 一、清潔消毒滅菌に就いて知る處を記せ
- 一、昇汞水の調製法及び其の使用上注意を要する點並に其の理由に就いて (以上鍼術學說)
- 一、背柱に就いて
- 一、尺骨神經の經過及び分佈に就いて
- 一、灸の神經並に血液に及ぼす作用
- 一、常習性便秘の原因並に其の灸治法
- 一、消毒の目的に就いて
- 一、施術時の消毒方法 (以上灸術學說)

栃木縣 (昭十三年十月)

- 一、偏頭痛の原因症候及び鍼治法を問ふ
- 一、常用消毒藥の名稱五つを挙げ其の濃度及び應用
- 一、原因不明の有熱患者に施術したる時の術者の消毒就いて詳記せよ (以上鍼術學說)
- 一、關節の種類及び其の構造に就いて記せ
- 一、顔面神經の起始、經過を問ふ
- 一、業務上消毒の必要なる理由を述べ且つ常に用ひらるゝ消毒藥品三種の名稱調製法及び其の用途を問ふ
- 一、完全なる手指の消毒方法を記せ
- 一、貧血の原因及び灸療法を問ふ
- 一、坐骨神經痛と股關節炎との鑑別並に灸治療を問ふ (以上灸術學說)
- 一、三叉神經の起始、經過及び枝別
- 一、淋巴に就いて知る處を記せ (以上鍼灸共通學說)
- 一、刺鍼禁忌の部位及び場合を問ふ

福島縣 (昭十三年十月)

- 一、皮膚の消毒方法を記せ (以上鍼術學說)
- 一、腰痛に對する灸治點
- 一、皮膚の消毒方法を記せ (以上灸術學說)
- 一、腓腸筋の起始停止及び之に分佈する神經名
- 一、脱糞作用に就いて記せ
- 一、刺鍼中の手技及び其の應用を記せ
- 一、胃瘰癧の原因症候及び鍼術療法
- 一、煮沸消毒法に就いて詳記せよ
- 一、三%クレゾール水、五リツトルの製法
- 一、下腿部に於ける胃經の穴名を問ふ
- 一、天井、肩髑、承扶、陽陵泉の解剖的部位及び其の治療的應用 (以上鍼術學說)
- 一、左の解剖的位置を問ふ
- 一、(イ)膝窩窩 (ロ)乳嘴突起 (ハ)腸骨前上棘 (ニ)大轉子 (ホ)坐骨結節

栃木縣 (昭十四年四月)

- 一、皮下に淺在する重要な動脈の名稱並に其の部位を問ふ
- 一、灸術の白血球に及ぼす影響を詳記せよ
- 一、慢性腸加答兒の原因症候及び灸療法
- 一、理學的消毒法と化學的消毒法との利害得失如何
- 一、左の最も適切なる消毒法を問ふ (イ)施術部 (ロ)金屬製品 (ハ)書籍 (ニ)漆器 (ホ)寢具
- 一、灸術の血壓に及ぼす影響
- 一、前膊に於ける大腸經の穴名を問ふ (以上灸術學說)

富山縣 (昭十四年春)

- 一、脾臟の位置形狀機能に記せ
- 一、皮膚の構造並に其の機能を記せ
- 一、強弱刺戟の生理的作用を説明せよ
- 一、氣管枝喘息の原因及び鍼治法
- 一、呼吸器より傳染する法定傳染病の名稱及び豫防法
- 一、アルコールの性状並に應用 (以上鍼術)
- 一、一般鍼治法
- 一、腓骨神經麻痺の鍼治法
- 一、偏頭痛の鍼治法 (以上鍼術)
- 一、脾臟の位置形狀並に其の機能を記せ
- 一、延髓にある神經中樞の名稱
- 一、胃下垂症の主なる徵候灸治法
- 一、腰痛の原因之に對する灸治法
- 一、丹毒に就いて記せ
- 一、石炭酸の性状應用を記せ (以上灸術)
- 一、一般灸治法
- 一、脚氣の灸治法
- 一、遺尿症の灸治法 (以上灸術實地)

奈良縣 (昭十四年春)

- 一、坐骨神經の經過並に分佈
- 一、腎臟の構造並に生理的作用
- 一、鍼の血管に及ぼす影響
- 一、氣管枝喘息に對する鍼治法
- 一、皮膚の消毒に就いて (以上鍼術學說)
- 一、腹筋の名稱、起始、停止並に之に分佈する血管神經
- 一、皮膚の構造並に生理的作用
- 一、刺戟療法より見たる灸の應用
- 一、手の背側にある穴名を挙げ其の解剖的關係を記せ
- 一、理學的消毒法と化學的消毒法の長短を記せ (以上灸術學說)
- 一、高知縣 (昭十四年春)
- 一、胃の位置形狀及各部の名稱並に胃に分佈する神經を記せ
- 一、白血球の作用及其生成に就き知る所を記せ
- 一、十四經とは如何知る所を述べよ
- 一、理學的消毒法の種類を記し其の用法を簡單に説明せよ
- 一、左の消毒藥の性状調製法並びに使用時の注意を記せ
- 一、(イ)昇汞水 (ロ)ホルマリン
- 一、名灸とは如何各感する處を記せ
- 一、肋膜炎の灸療法及奏効する理由 (以上學說)

- 一、足の三里に刺入方向廻轉せしむ
- 一、鍼灸家として常に心得べき要件、茶碗に灸すえる實地、灸炷の大小壯數奏効理由 (以上實地)

石川 縣 (昭十四年春)

- 一、左記器官の機能隣接臓器との解剖的關係並に分佈せる神経及び血管の経路を述べよ
- (イ) 甲状腺 (ロ) 横隔膜 (ハ) 膀胱
- 一、喘息に對する鍼灸治法を述べ併せて其奏効理由
- 一、直射日光が細菌を死滅せしめる理由 (以上共通)

福井 縣 (昭十四年春)

- 一、脊髓の構造と其機能を述べよ
- 一、上膊筋の名稱及作用
- 一、肝臓の位置形狀並に其の機能
- 一、昇汞水を消毒に使用する際注意すべき事項を問ふ
- 一、腓腸筋痙攣に對する刺鍼の部位

- 一、鍼の疾病豫防に及ぼす影響如何 (以上鍼術學說)
- 一、皮膚の構造並に其附屬器官を問ふ
- 一、坐骨神経の起始及經過を問ふ
- 一、血液中に生ずる老廢物質を排出する臓器及び其の主なる老廢物質の名稱
- 一、外頸動脈の起始經過分佈を述べよ
- 一、肋膜炎の原因及び症狀
- 一、日光消毒の價値並びに其用途 (以上灸術學說)
- 一、鍼治上に於ける五大注意事項
- 一、神經衰弱症に對する鍼治法
- 一、衄血の原因症狀及び灸治法
- 一、膀胱麻痺の症狀及施灸部位 (以上實地)

島根 縣 (昭十四年春)

- 一、腸の位置形狀區別及生理的作用
- 一、撓骨神経に就て知るところを記せ
- 一、失鍼の處置に就て記せ
- 一、狭心症と急脈症との相違點を挙げ其刺鍼穴名及奏効理由を述べよ

- 一、鍼灸術に於て消毒上注意すべき點
- 一、アルコールと石炭酸と消毒上幾何の優劣ありや (以上鍼術學說)
- 一、左の取穴法及其適應症を記せ
- (イ) 九曜の灸穴 (ロ) 六腑の灸穴 (ハ) 打抜の灸穴 (ニ) 肋頭の灸穴
- 一、肺炎カタルに於て施灸部位並に効ある理由を記せ

福岡 縣 (昭十四年四月)

- 一、皮下靜脈に就て
- 一、小腦の機能を記せ
- 一、吃逆の原因症候及之に對する鍼治法を記せ
- 一、刺鍼後に起る各種障礙を列舉し之に對する處置と豫防方法を記せ (以上鍼術學說)
- 一、鼠蹊管には如何なるものを通ずるや其の名稱を記せ
- 一、血液の生理的作用を記せ
- 一、腰椎兩側にある穴名を挙げて其の主治を記せ

- 一、施術に際し實行す可き消毒方法を記せ (以上灸術)

青森 縣 (昭十四年春)

- 一、大腿屈筋の名稱を挙げ其の起始停止並びに分佈する神経に就いて記せ
- 一、肺臓の位置形狀及び其の機能を記せ (以上鍼灸共通學說)
- 一、皮膚の構造と其の生理的作用
- 一、消毒藥四種を挙げ其の稀釋度及び用途
- 一、管鍼時に於ける挿管法を説明せよ
- 一、身體中の主なる禁鍼部位を挙げよ (以上鍼術學說)
- 一、消化作用を營む器管を挙げ夫等の相互關係を記せ
- 一、衣類、寢具に適當なる消毒方法
- 一、灸の血壓に及ぼす影響
- 一、灸の大小回数分量 (以上灸術學說)

京都 府 (昭十四年春)

- 一、交感神経に就て記せ
- 一、内分泌腺とは何か及名稱を挙げよ (以上鍼灸共通學說)
- 一、肺命の部位の部位と之を應用する主なる疾患及奏効理由
- 一、胃痛に對する鍼治法
- 一、乾熱滅菌法に就て
- 一、アルコールを用ひる消毒に就て知る所を記せ (以上鍼灸共通學說)
- 一、溫溜、懸鐘に就て
- 一、慢性氣管支炎の施灸法 (以上灸術學說)

山口 縣 (昭十四年春)

- 一、膀胱の位置形狀作用
- 一、上肢の主要なる神経及び血管の名稱並びに其の經過に就て
- 一、消毒法の種類及び消毒藥の稀釋度 (以上鍼灸共通學說)
- 一、小兒鍼の手法方法
- 一、六腑の穴の部位及び解剖學的關係並びに其の應用 (以上鍼術學說)

- 一、灸火の及す熱量は何度を可とするか其の理由
- 一、尿道淋の灸治法 (以上灸術學說)

岐阜 縣 (昭十四年春)

- 一、眼窠を構成する骨名
- 一、發汗作用を説明せよ
- 一、消毒藥として必要な條件
- 一、頭痛を發する疾患中鍼術の特効あるものに對し其の刺鍼點及び目的
- 一、(イ) 炎症に對する鍼術の適否及び其の理由
- (ロ) 膝眼穴に就て (以上鍼術學說)
- 一、(イ) 黄痘に灸の適否及其の理由
- (ロ) 照海の穴に就て
- 一、神経系統に及ぼす灸の作用 (以上灸術學說)

大分 縣 (昭十四年春)

- 一、頸部を構成する骨並同部を通過する血管神経と筋肉との關係

- 一、卵巣に就て
- 一、腕時計、皮革、懷中、手帳、茶碗ニス塗り卓子の各適切なる消毒法
- 一、曲垣、天井、解谿の部位解剖的關係並に適應症
- 一、便痛障害に對する鍼の利害
- 一、血液循環障害に對する灸の利害

三重縣 (昭十四年春)

- 一、聽器の構造作用に就き知る所を記せ
- 一、脾臓の作用に就き知る所を記せ
- 一、小兒疳蟲に對する鍼治法
- 一、軀幹に存する禁鍼穴の名稱及び其の理由
- 一、消毒藥の種類其の特徵及び使用方
- 一、理學的消毒方法の種類並びに其の利害得失を記せ (以上鍼術學說)
- 一、副腎の所在構造作用
- 一、腸の作用に就て
- 一、貧血、肺炎カタルに灸の奏效する

- 理由
- 一、小火傷と灸との生體に及ぼす差異
- 一、手指の消毒方法
- 一、乾燥及び温熱の消毒效果に就て (以上鍼術學說)

大阪府 (昭十四年四月)

- 一、神經の種類及び其の灸の作用
- 一、小腸の作用
- 一、鍼治の呼吸機能に及ぼす作用
- 一、顔面神經麻痺の鍼治穴を擧げ其の内三穴に就き知る所を述べよ
- 一、全身中の大なる神經四種を擧げ其の内三穴に就き知る所を述べよ (以上鍼術學說)
- 一、消化器に關係ある神經に就て説明せよ
- 一、脊髄に在る反射中樞を記せ
- 一、施灸の適否の理由
- 一、肺結核に對する灸治の要穴を擧げ且つ治療的效果に就て
- 一、後頂、曲池、腰俞、血海、至陰の

解剖的部位並びに適應症

(以上鍼術學說)

和歌山縣 (昭十四年四月)

- 一、下肢に於ける主要神經の名稱を列擧し其の經路に就て
- 一、交感神經の所在及び其の機能に就て
- 一、顔面第一線上にある諸穴に就て
- 一、慢性氣管枝カタルに對する鍼療法灸療法
- 一、各自が使用しつゝある消毒藥二種を擧げ其の使用方

廣島縣 (昭十四年四月)

- 一、筋肉の種類及び其の構造
- 一、左記に就き問ふ
- 一、(イ)骨盤を構成する骨の名稱 (ロ)ミハヘル氏菱形窩
- 一、血液の生理的作用
- 一、鍼治の禁忌症
- 一、左記經穴の解剖的部位を問ふ

- 水分、魂門、神堂、上脘
- 一、化學的消毒方法及其應用 (以上鍼術學說)
- 一、胸廓を構成する骨名並に其の數
- 一、甲狀腺の生理的作用
- 一、遺尿症の灸治點
- 一、左記經穴の解剖的部位を問ふ
- 一、隔俞、鳩尾、不容、通谷
- 一、灸術禁忌の部位及び場合
- 一、蒸氣消毒の適應及び禁忌 (以上鍼術學說)

山梨縣 (昭十四年春)

- 一、腹筋の名稱及び作用
- 一、金屬類の消毒方法
- 一、鍼響とは如何なるものか (以上鍼術學說)
- 一、血液の成分及び其の生理的作用
- 一、阿是穴とは如何
- 一、無消毒による施術は如何なる危険ありや (以上鍼術學說)

徳島縣 (昭十四年春)

- 一、上肢に於ける血管神經の名稱並に經過
- 一、ヘモグロビン、血壓、ホルモン、神經、血管、カロリーに就て説明せよ
- 一、喘息に施鍼する部位並びに其の應用の理由
- 一、胸部刺鍼の際の注意事項
- 一、石炭酸、昇汞水、アルコールの消毒上の利害得失 (以上鍼術學說)
- 一、上膊筋の名稱及起始停止作用
- 一、腎臟の位置形狀作用
- 一、灸の禁忌症に就て
- 一、痔疾の原因並に療法
- 一、施灸時消毒の注意 (以上鍼術學說)

静岡縣 (昭十四年春)

- 一、迷走神經の分佈地並びに其の分佈諸臟器の位置形狀
- 一、胃腸に於ける消化作用 (以上鍼術學說)
- 一、腸痙痛とは如何、尙其の鍼治療法

と効果を擧げよ

- 一、頰車、筋縮、命門、陽谿、不容の位置を骨を標準として説明し且つ其の穴を應用する主なる疾病一、二を擧げよ (以上鍼術學說)
- 一、張介賓氏四華患門の取穴法
- 一、胃疾患中灸の適應症を擧げ且つ各疾患に對する要穴三點以上の位置を記し奏效の理由を説明せよ (以上鍼術學說)

秋田縣 (昭十四年春)

- 一、腋窩に就て記せ
- 一、脊髄に就て知る所を記せ (以上鍼術學說)
- 一、坐骨神經痛の原因、症狀刺鍼點
- 一、胸部、腹部に於ける刺鍼禁忌の部位 (以上鍼術學說)
- 一、消毒の必要なる所以を例をあげて記せ (以上鍼術學說)
- 一、高血壓症の灸治法
- 一、禁灸の部位 (以上鍼術學說)



長野縣 (昭十四年春)

- 一、子宮痙攣の鍼治法
- 一、横隔膜の位置及び作用
- 一、皮膚及び鍼の消毒法
- 一、内臓動脈軸叢を刺戟する主要なる穴名と部位
- 一、膀胱の位置を詳記し且つ之に分佈する神経名を挙げよ
- 一、脊髄麻痺と脚氣との區別 (以上鍼術學說)
- 一、打膿灸の價値如何
- 一、體溫發生に就て
- 一、クレゾール石鹼液に就て
- 一、胃酸過多症の灸療法
- 一、化膿とは如何なることか且つ其の豫防方法
- 一、膀胱麻痺の原因、症狀 (以上灸術學說)

東京府 (昭十四年春)

- 一、(イ)延髓に就て知る所
- 一、(ロ)動脈血と靜脈血との區別

二、消毒に用ふる石炭酸水の稀釋法 (以上鍼術學說)

- 一、(イ)脊髄の構造と作用
- 一、(ロ)消化器の名稱及び其の簡單なる作用
- 一、日光消毒に就て知る所を記せ (以上灸術學說)
- 一、大椎、命門、神闕の部位
- 一、鍼の血管神経に及ぼす影響
- 一、頸部へ振顫術及び雀啄術をせしむ
- 一、神経痛に對する刺戟の強弱
- 一、瘰癧、缺盆、廉泉の部位
- 一、慢性便秘の灸治點
- 一、頸骨神経痛の灸治點 (以上實地)

愛知縣 (昭十四年春)

- 一、上膊に分佈する主なる神経血管の名稱及び其の經過
- 一、迷走神経の機能
- 一、左記により鍼を消毒せんとす利害得失を説明せよ
- 昇汞水、クレゾール水、アルコール

ル、煮沸、石炭酸水

- 一、眩暈の鍼治療法
- 一、肋間神経痛の鍼治療法及び刺戟上の注意如何 (以上鍼術學說)
- 一、白血球に就いて知る所
- 一、脊髄の機能
- 一、灸實施上消毒上注意すべき點
- 一、不眠症の灸療法
- 一、脚氣の灸療法 (以上灸術學說)

群馬縣 (昭十四年春)

- 一、鼠蹊窩を構成する筋の名稱及び通過する血管神経を問ふ
- 一、淋巴腺の生理的作用
- 一、水腫と浮腫の區別を問ふ
- 一、刺戟禁忌の部位と場合
- 一、胃痙攣の刺戟部位刺戟法及び穴名 (以上鍼術學說)
- 一、鍼をするに就いての消毒方法
- 一、消毒薬五種を挙げ其の濃度
- 一、鍼の消毒に最も適する理學的消毒方法

- 一、大椎は他の骨と如何に異なるや六頸椎と七頸椎が突出してゐる場合は如何にして定むべきや
- 一、腓骨小頭の所在
- 一、グロツシヒ氏菱形窩の所在と別名
- 一、刺戟部より如何なる病氣が侵入するや
- 一、風池へ刺戟 (雀啄術) (以上鍼術學說)
- 一、關節とは何ぞ、種類を挙げよ
- 一、腸の消化作用
- 一、疝痛とは如何なるものを云ふや
- 一、灸の禁すべき部位並びに疾病の種類
- 一、氣管枝喘息の症狀並びに灸療法 (以上灸術學說)
- 一、施灸をするに如何なる方法をとるや
- 一、石炭酸とクレゾールの倍數
- 一、患門の取穴法
- 一、夜尿症の灸治點及び指壓 (以上灸術實地)

埼玉縣 (昭十四年五月)

- 一、關節の構造を記せ
- 一、肝臓の位置、構造及び作用を記せ
- 一、横隔膜痙攣の原因、症狀及び施鍼點
- 一、鍼の醫治的作用
- 一、消毒を施す可き理由を記せ (以上鍼術學說)
- 一、皮膚の構造を記せ
- 一、血液の生理的作用を記せ
- 一、食道痙攣の原因、症狀及び灸療法
- 一、施灸法に就いて記せ
- 一、半身不隨に對する灸治點
- 一、消毒を施すべき理由 (以上灸術學說)

千葉縣 (昭十四年六月)

- 一、頸部の断面を圖示せよ
- 一、大腿部に於ける筋肉及び脈管の名稱
- 一、膀胱の機能を説明
- 一、消毒薬は如何なる條件を具有すべきか

一、常習便秘鍼治點の名稱及び其の部位

- 一、子宮内膜炎の鍼治療法 (以上鍼術學說)
- 一、皮膚の構造に就いて記せ
- 一、上肢に於ける主なる神経の名稱及び経路
- 一、内呼吸とは何か
- 一、皮膚の消毒法を問ふ
- 一、夜尿症の灸治穴名及び其の部位を問ふ
- 一、腦溢血の灸治療法 (以上灸術學說)

山形縣 (昭十四年五月)

- 一、皮膚の構造と其の生理的作用
- 一、主なる消毒薬の名稱と其の稀釋度を問ふ (以上鍼術學說)
- 一、血液の生理的作用
- 一、消毒薬としての「アルコール」に就いて知る所を記せ (以上灸術學說)
- 一、充血と鬱血の區別を問ふ
- 一、三パーセント「クレゾール」水の製

法を問ふ

朝 鮮 (昭十四年四月)

- 一、胸腔、腹腔の臓器の名稱
- 一、内分泌に就いて記せ
- 一、肺炎カタルの療法
- 一、坐骨神経痛の療法

(以上鍼灸共通學說)

- 一、不容の解剖的部位

(以上實地)

- 一、三里に刺鍼及び雀啄術鍼尖轉向法

滋 賀 縣 (昭十四年五月)

- 一、筋肉の種類を擧げて其の機能
- 一、腎臓に就いて述べよ
- 一、偏頭痛の原因及び鍼治法
- 一、肘關節に存する穴名及び其の部位
- 一、鍼術業者は業務上消毒薬を以て如何なるものを消毒すべきや
- 一、昇汞の製法並びに其の消毒上の注意

(以上鍼術學說)

- 一、胃の位置形状及び各部の名稱並びに胃に分佈する神経の名稱

- 一、白血球の作用同其の生成に就き知る所を記せ

- 一、十四經とは如何知る所を述べよ
- 一、理學的消毒法の種類を記し其の方法を簡単に説明せよ

- イ、昇汞水 ロ、ホルマリン

- 一、足三里に刺鍼せしむ

(以上鍼術實地)

- 一、名灸とは如何、各々感ずる所を述べよ

- 一、肋膜炎の灸療法及び奏効する理由
- 一、鍼灸家として平常心得べき要件、灸炷の大小壯數の奏効理由と其の腕に灸を炷へる實地

長 野 縣 (昭十四年四月)

- 一、膝關節の構造
- 一、迷走神経の機能
- 一、鞭筋、地五會、小府の位置及び其の部に於ける筋、血管神経の關係
- 一、皮膚鍼の施術方法及び作用
- 一、消毒の目的及び種類

(以上鍼術學說)

- 一、膽囊の位置

- 一、脾臓の機能

- 一、靈墟、會宗、跗陽の位置、其の部に於ける筋、血管神経との關係
- 一、阿是穴とは如何なるものなるや例を擧げて説明せよ
- 一、消毒の必要なる理由

(以上鍼術學說)

宮 崎 縣 (昭十四年四月)

- 一、プーバルト氏靱帶下を通過する血管神経の名稱
- 一、脾臓の位置機能
- 一、急性腰筋炎の鍼治
- 一、環跳、雲門、盲門、頰車の解剖的部位禁要別如何
- 一、胃潰瘍の灸治
- 一、肩貞、腹哀、浮郤、腎俞、客主人の部位禁要如何

滋 賀 縣 (昭十四年九月)

- 一、女子腹部内臓の名稱を擧げよ
- 一、胃の機能について述べよ

- 一、左の經穴の解剖的部位を記せ

天柱、風池、肩中、肩外

- 一、鍼治を避く可き部位を記せ

- 一、左の物件の消毒方法を説明せよ

(イ)皮膚 (ロ)病室 (ハ)鍼

(ニ)白衣

- 一、消毒に昇汞水を用ひんとする場合如何なる點に注意を要するや

(以上鍼術學說)

- 一、泌尿器の名稱、形状、位置及び相互關係を圖示せよ

- 一、身體に於ける主なる關節の名稱を記せ

- 一、胃擴張の症狀及び其の灸治法
- 一、左の經穴の解剖的位置を問ふ

胃俞、三焦俞、腎俞

- 一、純アルコールの消毒薬としての價値を説明せよ

- 一、坐蒲團の消毒法に就いて説明せよ

(以上灸術學說)

青 森 縣 (昭十四年九月)

- 一、下肢に於ける筋肉及び神経の名稱

- 一、心臓の位置形状及び其の機能

- 一、頸部にある經穴を記せ

- 一、坐骨神経痛に對する鍼治法

- 一、消毒薬名五種を擧げ其の稀釋度及び用途を記せ

- 一、消毒の必要なる所以を記せ

(以上鍼術學說)

- 一、前膊に於ける筋肉及び神経の名稱を記せ
- 一、腎臓の位置形状及び其の機能を記せ

- 一、肋間神経痛に對する灸治法を記せ
- 一、灸治の有効なる理由を記せ

- 一、鍼術に同じ (以上灸術學說)

三 重 縣 (昭十四年九月)

- 一、骨の構造作用に就いて記せ
- 一、分泌物と排泄物の區別に就いて
- 一、左記事項に就き記せ

(イ)補濁迎髓 (ロ)経絡

- 一、膽囊の位置

- 一、脾臓の機能

- 一、消化液を分泌する臓器の名稱と其の所在を明記せよ
- 一、反射運動を説明せよ
- 一、三叉神経痛の症狀並びに鍼治法
- 一、腓骨神経麻痺の症狀並びに鍼治法
- 一、創傷傳染病の主なるものを擧げ且

つ其の豫防方法を記せ

一、局法、石炭酸水に就いて記せ

(以上鍼術學說)

一、一般鍼治法

一、膀胱麻痺に對する鍼治法

一、肋間神經痛に對する鍼治法

(以上實地)

一、消化管の解剖的名稱を記せ

一、血管に分佈する神經並に其作用

一、喘息の原因並びに灸治法を記せ

一、神經麻痺の症狀並びに灸治法

一、皮膚より傳染する法定傳染病

一、滅菌法と消毒法に就いて記せ

一、一般灸治法

一、坐骨神經痛に對する灸治法

一、肩張に對する灸治法

(以上灸術學說)

大阪府 (昭十四年十月)

一、一對をなせる胸腔の内臓の名稱、位置及び作用

一、左記の生理作用を説明せよ

延髓、迷走神經、腹部内臓神經

一、刺鍼の知覺運動交感三神經の變常

に對して奏効する理由を例を擧げて説明せよ

一、膀胱加答兒の症候及び鍼治療法

一、鍼治に適應する消化器疾患を擧げ其の要穴三つに就き詳述せよ

(以上鍼術學說)

一、神經を其の作用によりて分類せよ

一、排尿及び排便作用を説明せよ

一、下腿部に於いて大陰脾經に屬する經穴の部位適應病名を擧げよ

一、灸熱の緩急強弱につき知る處を述べよ

一、不容、伏兎、條口の三穴に就き詳述せよ (以上灸術學說)

一、延髓の位置並びに機能を記せ

一、呼吸の生理的作用問ふ

一、心悸亢進に對する鍼治法を問ふ

一、腹部に於ける刺鍼法の注意事項

一、手指の消毒藥を擧げ其の調製法 (以上鍼術學說)

奈良縣 (昭十四年十月)

一、灸灸の大小と壯數の多寡を比較し其の關係を述べよ

一、煮沸消毒に就き答へよ

一、フォルマリン水に就き答へよ

一、取穴點灸法

一、神經性心悸亢進症に對する灸治法

一、上肢及び下肢に分佈する主なる神經の名稱

二、未消毒鍼を使用せるときに起る疾患に就いて記せ (以上鍼術學說)

實地

二、(イ)神經痛の原因及び症候 (ロ)鍼術の腸蠕動機に及ぼす影響

四、(イ)慢性胃加答兒の鍼治療法 (ロ)頰車、肺俞、足の三里の解剖的部位 (以上鍼術實地)

一、背部淺層筋の名稱 (以上灸術學說)

三、消毒藥の名稱及び其の使用法

實地

一、灸灸の大小と壯數の多寡を比較し其の關係を述べよ

二、煮沸消毒に就き答へよ

二、フォルマリン水に就き答へよ

一、取穴點灸法

二、神經性心悸亢進症に對する灸治法

一、上肢及び下肢に分佈する主なる神經の名稱

二、未消毒鍼を使用せるときに起る疾患に就いて記せ (以上鍼術學說)

實地

二、(イ)神經痛の原因及び症候 (ロ)鍼術の腸蠕動機に及ぼす影響

四、(イ)慢性胃加答兒の鍼治療法 (ロ)頰車、肺俞、足の三里の解剖的部位 (以上鍼術實地)

一、背部淺層筋の名稱 (以上灸術學說)

三、消毒藥の名稱及び其の使用法

實地

一、灸灸の大小と壯數の多寡を比較し其の關係を述べよ

二、煮沸消毒に就き答へよ

二、フォルマリン水に就き答へよ

一、取穴點灸法

二、神經性心悸亢進症に對する灸治法

一、上肢及び下肢に分佈する主なる神經の名稱

二、未消毒鍼を使用せるときに起る疾患に就いて記せ (以上鍼術學說)

實地

二、(イ)神經痛の原因及び症候 (ロ)鍼術の腸蠕動機に及ぼす影響

四、(イ)慢性胃加答兒の鍼治療法 (ロ)頰車、肺俞、足の三里の解剖的部位 (以上鍼術實地)

一、背部淺層筋の名稱 (以上灸術學說)

三、消毒藥の名稱及び其の使用法

實地

つ其の豫防方法を記せ

一、局法、石炭酸水に就いて記せ

(以上鍼術學說)

一、一般鍼治法

一、膀胱麻痺に對する鍼治法

一、肋間神經痛に對する鍼治法

(以上實地)

一、消化管の解剖的名稱を記せ

一、血管に分佈する神經並に其作用

一、喘息の原因並びに灸治法を記せ

一、神經麻痺の症狀並びに灸治法

一、皮膚より傳染する法定傳染病

一、滅菌法と消毒法に就いて記せ

一、一般灸治法

一、坐骨神經痛に對する灸治法

一、肩張に對する灸治法

(以上灸術學說)

大阪府 (昭十四年十月)

一、一對をなせる胸腔の内臓の名稱、位置及び作用

一、左記の生理作用を説明せよ

延髓、迷走神經、腹部内臓神經

一、刺鍼の知覺運動交感三神經の變常

に對して奏効する理由を例を擧げて説明せよ

一、膀胱加答兒の症候及び鍼治療法

一、鍼治に適應する消化器疾患を擧げ其の要穴三つに就き詳述せよ

(以上鍼術學說)

一、神經を其の作用によりて分類せよ

一、排尿及び排便作用を説明せよ

一、下腿部に於いて大陰脾經に屬する經穴の部位適應病名を擧げよ

一、灸熱の緩急強弱につき知る處を述べよ

一、不容、伏兎、條口の三穴に就き詳述せよ (以上灸術學說)

一、延髓の位置並びに機能を記せ

一、呼吸の生理的作用問ふ

一、心悸亢進に對する鍼治法を問ふ

一、腹部に於ける刺鍼法の注意事項

一、手指の消毒藥を擧げ其の調製法 (以上鍼術學說)

奈良縣 (昭十四年十月)

一、灸灸の大小と壯數の多寡を比較し其の關係を述べよ

一、煮沸消毒に就き答へよ

一、フォルマリン水に就き答へよ

一、取穴點灸法

一、神經性心悸亢進症に對する灸治法

一、上肢及び下肢に分佈する主なる神經の名稱

二、未消毒鍼を使用せるときに起る疾患に就いて記せ (以上鍼術學說)

實地

二、(イ)神經痛の原因及び症候 (ロ)鍼術の腸蠕動機に及ぼす影響

四、(イ)慢性胃加答兒の鍼治療法 (ロ)頰車、肺俞、足の三里の解剖的部位 (以上鍼術實地)

一、背部淺層筋の名稱 (以上灸術學說)

三、消毒藥の名稱及び其の使用法

實地

一、灸灸の大小と壯數の多寡を比較し其の關係を述べよ

二、煮沸消毒に就き答へよ

二、フォルマリン水に就き答へよ

一、取穴點灸法

二、神經性心悸亢進症に對する灸治法

一、上肢及び下肢に分佈する主なる神經の名稱

二、未消毒鍼を使用せるときに起る疾患に就いて記せ (以上鍼術學說)

實地

二、(イ)神經痛の原因及び症候 (ロ)鍼術の腸蠕動機に及ぼす影響

四、(イ)慢性胃加答兒の鍼治療法 (ロ)頰車、肺俞、足の三里の解剖的部位 (以上鍼術實地)

一、背部淺層筋の名稱 (以上灸術學說)

三、消毒藥の名稱及び其の使用法

實地

一、灸灸の大小と壯數の多寡を比較し其の關係を述べよ

二、煮沸消毒に就き答へよ

二、フォルマリン水に就き答へよ

一、取穴點灸法

二、神經性心悸亢進症に對する灸治法

一、上肢及び下肢に分佈する主なる神經の名稱

二、未消毒鍼を使用せるときに起る疾患に就いて記せ (以上鍼術學說)

實地

二、(イ)神經痛の原因及び症候 (ロ)鍼術の腸蠕動機に及ぼす影響

四、(イ)慢性胃加答兒の鍼治療法 (ロ)頰車、肺俞、足の三里の解剖的部位 (以上鍼術實地)

一、背部淺層筋の名稱 (以上灸術學說)

三、消毒藥の名稱及び其の使用法

實地

一、灸灸の大小と壯數の多寡を比較し其の關係を述べよ

二、煮沸消毒に就き答へよ

二、フォルマリン水に就き答へよ

一、取穴點灸法

二、神經性心悸亢進症に對する灸治法

一、上肢及び下肢に分佈する主なる神經の名稱

二、未消毒鍼を使用せるときに起る疾患に就いて記せ (以上鍼術學說)

實地

二、(イ)神經痛の原因及び症候 (ロ)鍼術の腸蠕動機に及ぼす影響

四、(イ)慢性胃加答兒の鍼治療法 (ロ)頰車、肺俞、足の三里の解剖的部位 (以上鍼術實地)

- 二、(イ)肋膜炎の原因及び症候
- (ロ)灸の血管に及ぼす影響
- 四、(イ)脚氣の灸術療法
- (ロ)神念、曲垣、胃脘の解剖的部位 (以上灸術實地)

茨城縣 (昭十五年十月)

- 一、坐骨神経の起始及び経過
- 二、鍼灸業者に必要なる消毒薬名を挙げ其の使用法を記せ (以上鍼術學說)
- 三、喘息に對する刺鍼法 (以上鍼術實地)
- 一、腎臓の位置、形状及び機能を述べよ
- 二、消毒薬の名稱を記せ (以上灸術學說)
- 三、陽明大腸經に就いて、合谷、三里臂臑の部位指壓 (以上灸術實地)

福島縣 (昭十五年十月)

- 一、胃の位置形状並びに其の機能
- 二、上肢の主なる血管並びに神経の名

- 稱を挙げ且つ其の経過の概要を述べよ
- 三、施術の際消毒の必要なる所以を述べ消毒薬の種類並びに其の溶解法を記せ
- 四、顔面神経麻痺の鍼治點及び其の理由
- 五、背部に於ける禁鍼穴を記せ (以上鍼術學說)
- 一、二、三、鍼術に同じ
- 四、胃痛に對する灸治法
- 五、背部に於ける禁灸穴名 (以上灸術學說)

愛知縣 (昭十五年十月)

- 一、頸神経の分佈を問ふ
- 二、坐骨神経は如何なる作用を有するや
- 三、左記物體の最も適切なる消毒法を問ふ  
手指、鍼、白衣
- 四、鍼の神経系統に及ぼす影響に付いて

- 五、嘔吐に對する療法及び奏効する理由 (以上鍼術學說)
- 一、呼吸筋を挙げよ
- 二、腎臓の機能
- 三、灸術者は如何なる場合に消毒を要するや
- 四、艾の燃焼温度と深達作用について
- 五、取穴法の種類如何 (以上灸術學說)

宮城縣 (昭十五年十月)

- 一、胃の位置形状並びに其の作用に就いて記せ
- 二、腰痛に對する鍼治法を問ふ
- 三、化學的消毒法に就いて記せ (以上鍼術學說)
- 四、下腿に於ける刺鍼法 (以上鍼術實地)
- 一、鍼に同じ
- 二、坐骨神経痛に對する灸治法を問ふ
- 三、鍼に同じ (以上灸術學說)
- 四、喘息に對する灸治法を問ふ (以上鍼術實地)

秋田縣 (昭十五年十月)

- 一、骨の联接並びに關節の種類に就いて述べよ
- 二、肝臓の位置、形状及び機能に就いて記せ
- 三、常習便秘の刺鍼點を膀胱系に求めよ (以上鍼術學說)
- 一、消化液の種類、作用及び其の分泌臓器の名稱を記せ
- 二、小循環を説明せよ
- 三、黄疽に對する施灸穴を述べよ (以上灸術學說)

徳島縣 (昭十五年十月)

- 一、大脳の構造を略圖を以て指示し、(特に間腦、中腦の存在を明示するやう) 且つ間腦及び中腦につき説明を加へよ
- 二、次の事項を簡単に記せ  
1、内呼吸 2、内分泌 3、脾臟機能 4、含水炭素の消化 5、イペリット

- 三、胃擴張の原因、症状及び鍼治法を述べよ
- 四、次の諸穴の部位を記せ  
1、百會 2、雲門 3、曲池 4、血海 5、水泉
- 五、惡阻の原因、主症状及び治療法如何 (以上鍼術學說)
- 一、横隔膜につき其の構造を詳述し且つ其の作用をも簡単に記せ
- 二、次の事項を略記せよ  
1、内分泌 2、血液の凝固 3、内呼吸 4、蛋白質の消化 5、イペリット
- 三、腹水の原因、症状及び灸治法如何
- 四、次の諸穴の部位を示せ  
1、強間 2、淵液 3、曲池 4、血海 5、水泉
- 五、半身不隨の原因、症状並びに其の灸治法 (以上灸術學說)

福井縣 (昭十五年十月)

- 一、大循環に就いて説記せよ

- 二、肝臓の位置及び機能を問ふ
- 三、顔面神経の走行に就き述べよ
- 四、消毒と滅菌の區別を述べ例を挙げ説明せよ
- 五、顔面第一線(顔面正中線)上にある穴名を挙げ此の穴に適應せる疾患を列舉せよ
- 六、鍼術の手法を列舉し簡単に説明せよ (以上鍼術學說)
- 一、交感神経に就いて詳記せよ
- 二、血壓に就いて述べよ
- 三、脊髄癆の原因症状を問ふ
- 四、完全なる煮沸消毒法を述べよ
- 五、下腹部第一線上(正中線上)にある穴名を挙げ其の適應疾患を述べよ
- 六、灸治の禁忌症を述べよ (以上灸術學說)

石川縣 (昭十五年十月)

- 一、横隔膜の位置形状機能並びに之に分佈する血管神経に就いて記せ
- 二、顔面神経麻痺の原因豫後並びに治